八年九月十四日　（第三種郵便物認可）
一年七月一日發行（毎月一回）

建築と社會

第拾輯　第七號

日本建築協會

昭和二年七月一日



Koobe Daimaru Gofukuten.
Kantoku : Okabe Kentiku-zimusyo.
Sekoo . Oobayasi Gumi.

Haba 16 syaku Takasa 13 zyaku no *Shutter* 9 kasyo wo hitori de akemawari sukosimo taigi de nai N.K.B. Kusaribiki no subarasisa !

Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten : {**Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.**
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

會告

本誌發行兼編輯兼印刷名義人變更の件

當協會書記江村恒一今回退職に付本誌發行人其他の名義人を左の通變更せり

舊發行人兼編輯人兼印刷人　江村恒一

新發行人兼編輯人兼印刷人　薦田（コモダ）夏治郎

昭和二年六月

社團法人日本建築協會

會告

例會休會ニ關スル件

當協會七月及八月ノ例會ハ休會スルコトニ致シマシタカラ左樣御了承ヲ願ヒマス

暑中執務時間短縮ノ件

本協會事務所暑中執務時間ハ本年ヨリ左ノ通變更實施スルコトニ致シマシタ念ノ爲御知ラセ致シマス

自七月十一日
至八月三十一日　午前八時ヨリ午後二時迄

昭和二年七月

社團法人 日本建築協會

覺王山日暹寺鐘樓建築設計圖案懸賞募集規程

第一條　覺王山日暹寺ハ本規程ニヨリ鐘樓ノ建築設計圖案ヲ募集ス

第二條　應募設計圖案ハ昭和二年九月三十日正午迄ニ到達スルヤウ名古屋市東區覺王山日暹寺事務所ニ提出スベシ

第三條　設計要件左ノ如シ

一、鐘樓ハ日暹寺境内ニ建立スルモノニシテ口徑九尺五寸高サ龍頭上端マデ十七尺五寸重量約一萬貫ノ梵鐘ヲ架スルモノトス

二、建築敷地ハ周圍廣濶ナル平坦地ニシテ安全地耐力一平方尺ニ付約三噸トス

三、建築材料ノ撰擇及構造方法ハ設計者ノ任意トス

四、建築樣式ハ我邦ノ佛寺建築ニ調和スベキモノタルヲ要ス

第四條　應募設計圖案ハ左ノ事項ヲ具備スルヲ要ス

一、平面圖　縮尺五十分ノ一
二、立面圖　二面　縮尺五十分ノ一
三、斷面圖　二面　縮尺五十分ノ一
四、詳細圖　縮尺十分ノ一
五、說明書

第五條　圖面ハ總テ原圖紙ニ墨ヲ以テ書キ寸法ハ日本尺ニ依リ記入スヘシ

說明書ニハ意匠ノ要旨及材料構造ノ概略ヲ簡單ニ記載スヘシ

第六條　圖面及書類ニハ總テ署名ニ代フルニ各葉暗號ヲ記シ別ニ暗號ノミヲ表記セル封筒内ニ應募者ノ住所職業、氏名及暗號ヲ明記シタル紙片ヲ封入スヘシ暗號ハ文字ニ限ル

第七條　設計圖面及書類ハ一括シテ堅牢チル容器ニ納メ嚴封ヲ施シ表面ニハ宛名、應募者ノ暗號及應募設計圖案タルコトノミヲ表示スヘシ

第八條　應募ニ關スル費用ハ一切應募者ノ負擔トス

第九條　應募設計ハ下記委員之ヲ審査ス審査ノ結果ニ對シテハ說明ヲ求メ又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

京都帝國大學教授　武田五一
名古屋高等工業學校教授　土屋純一
日暹寺執事　山田奕鳳

第十條　審査ノ上當選者ニハ下記等級ニ依リ賞金ヲ贈呈ス

一等賞　一名　金壹千五百圓
二等賞　一名　金壹千圓
三等賞　二名　金五百圓

尙選外佳作若干名ニ對シテ多少ノ金額ヲ贈呈スルコトアルベシ

第十一條　審査ハ昭和二年十月十五日ニ結了スルモノトス

第十二條　次ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ審査セス

一、他人ノ意匠ヲ剽竊セリト認メタルモノ

二　本規則ニ違背セリト認メタルモノ

第十三條　當選シタル設計圖案ハ日暹寺ノ所有ニ歸シ實施ノ場合ニハ取捨變更スルコトアルヘシ

第十四條　當選セザル設計ハ十一月末日迄ニ提出者ノ希望アルモノニ限リ日暹寺ノ費用ヲ以テ之ヲ還附スヘシ

第十五條　應募設計圖案ハ審査終了後公衆ノ展覽ニ供スルコトアルベシ

但シ選外圖案ハ暗號ノ儘トス

第十六條　應募設計圖案ノ保管及還附ニ關シ萬一損害ヲ生ズルコトアルモ日暹寺ハ其賠償ノ責ニ任ゼズ

第十七條　應募ニ關スル質疑ハ日暹寺事務所宛書面ヲ以テ承合スルコトヲ得

以上

口繪

■神戸東神倉庫　外觀ノ一
■神戸東神倉庫　外觀ノ二
■神戸東神倉庫　平面圖
一階—二階—三階—四階—屋上

◇◇◇

▼人生と建築……佳山生

▼都市の防火と耐火構造の建築……大阪市建築課長　波江悌夫……二一五

▼防火地區の制定を徹底せしめその實現を促進すること……會員　池田谷久吉……七一一〇

▼目に映るまゝに……神戸高等工業學校長　廣田精一……二一一四
＝素人の米國建築行脚＝

▼現在の建築教育方針に就て……工學士　渡邊節……一五一一八

▼大阪市高速鐵道に就て……大阪電氣局　清水熙……一九一二四

▼協會の進むべき途と雜誌の執るべき方針に就て……會員　池田實……二五一二六

▼自由と建築……會員　本野精吾……二七一二九

▼不燃質建築と火災……大阪附消防課長　土井末吉……三一一三三

▼震度といふ言葉について……工學士 增田清……三五—三八
▼大阪海岸線の變遷と西大阪の地盤……災害委員 池田宮彦……三九—四四
▼考へさせられる事ども……會員 稚堂……四五—四六
◇◇◇
▼時事……四七—五五
▼東神倉庫新築工事概要……五六
新築紹介
▼百瀨博士邸 外觀(一)
▼百瀨博士邸 外觀(二)
▼百瀨博士邸 詳細觀
▼百瀨博士邸 平面
▼大同病院外觀(一)
▼大同病院外觀(二)
▼大同病院內部(一)
▼大同病院平面及所在圖
▼大同病院各階平面
◇◇◇
▼百瀨博士邸新築工事概要……五七
▼大同病院新築工事概要……五八—六〇
▼編輯後記……六一
◇◇◇
▼日本建築協會々報……

照明智識普及映畫脚本懸賞募集

募集規定

一、使用目的　日常生活に電燈照明（あかり）の正しき使用の必要なる事及それに依つて生ずる福祉及利益の大なる事を一般に解り易く知らしむるものにして學校青年團等に於て教育的に使用され且つ電燈會社が電燈照明の普及の勸誘の際使用するに適するもの。

一、劇　正劇、二卷又は三卷ものにて三千尺以内に撮影し得る劇の映畫脚本但し時代は現代にして成る可く自然の背景を利用し撮影し得るもの

一、賞　金一等　金貳百圓　壹名
　　二等　金百　圓　壹　名
　　三等　金五拾圓　貳　名
　　四等　金貳拾圓　五　名

一、應募　一名一稿限り

一、用紙　半紙型（原稿紙又は罫紙）一行二十字詰、一枚二十行三十枚以内、字體明瞭、匿名は差支なきも住所氏名は明記の事

一、審査員　照明學會照明智識普及委員會及文部省映畫推薦調査委員

一、締切　昭和二年八月末日

一、宛名　東京市麹町區八重洲町（電氣倶樂部内）
　　照明學會照明智識普及委員會

一、審査發表　昭和二年十月
照明學會雜誌に當選者氏名を發表す。尚別冊當選脚本集を編輯作成す。

一、脚色及撮影　應募者は審査に對し説明を求め又は異議を申出づることを得ず。當選脚本は本會に於て脚色撮影又は演出の都合上原作に多少の變更を行ふ事あるべし。

一、注意　當選脚本の版權は照明學會の所有とす。應募の原稿は返戻せず。

以上

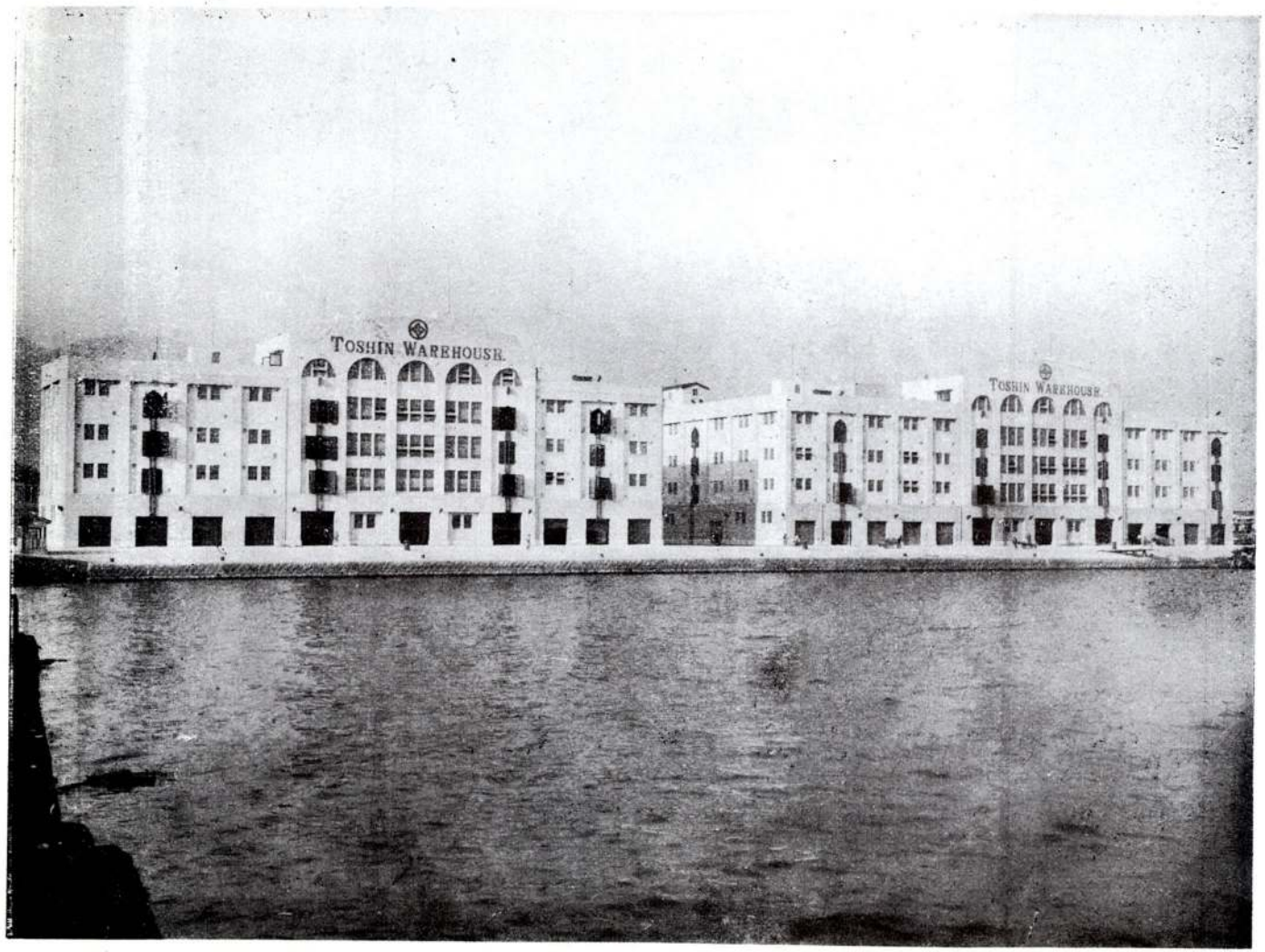
昭和二年六月

東京市麹町區八重洲町
電氣倶樂部假事務所内
社團法人　照明學會
電話丸ノ内(23)七二一番

右懸賞募集に關し照明學會より本誌讀者諸君に對し紹介方依頼申越有之候間奮つて御應募相成度候

昭和二年七月

社團法人　日本建築協會



神戸・東神倉庫（外觀一）

（五十六頁參照）

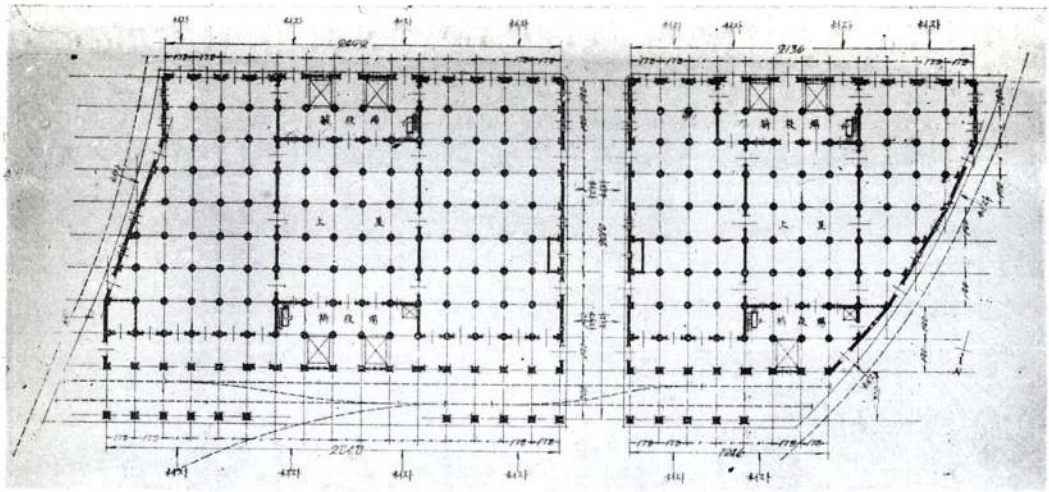
設計監督　東神倉庫株式會社
同顧問　工學博士内藤多仲
建築請負　大倉土木株式會社



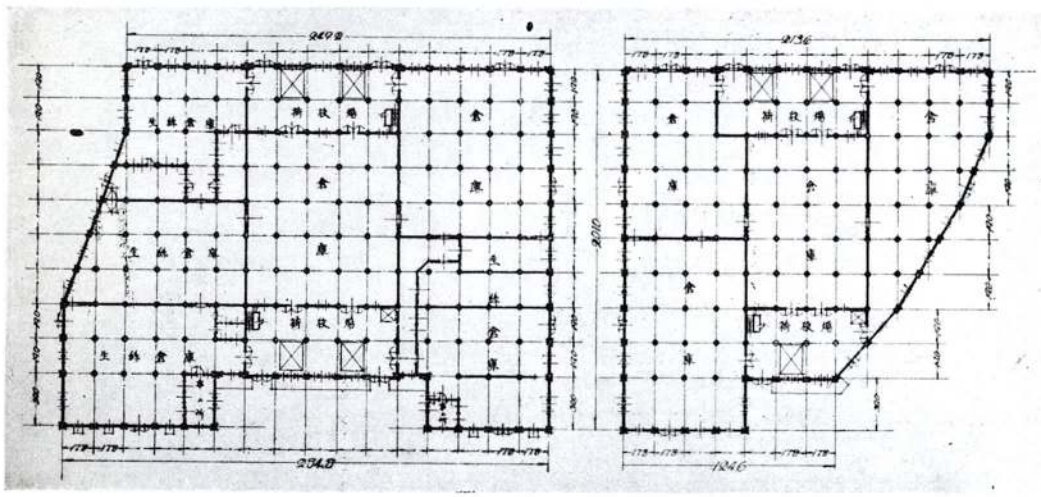
神戸・東神倉庫（外觀二）

（照參頁六十五）

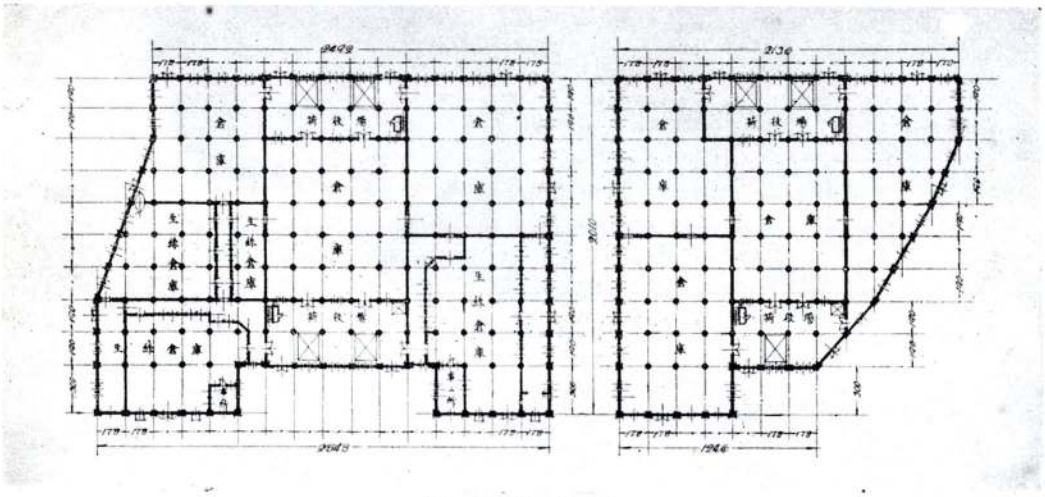
設計監督　東神倉庫株式會社
同顧問　工學博士內藤多仲
建築請負　大倉土木株式會社



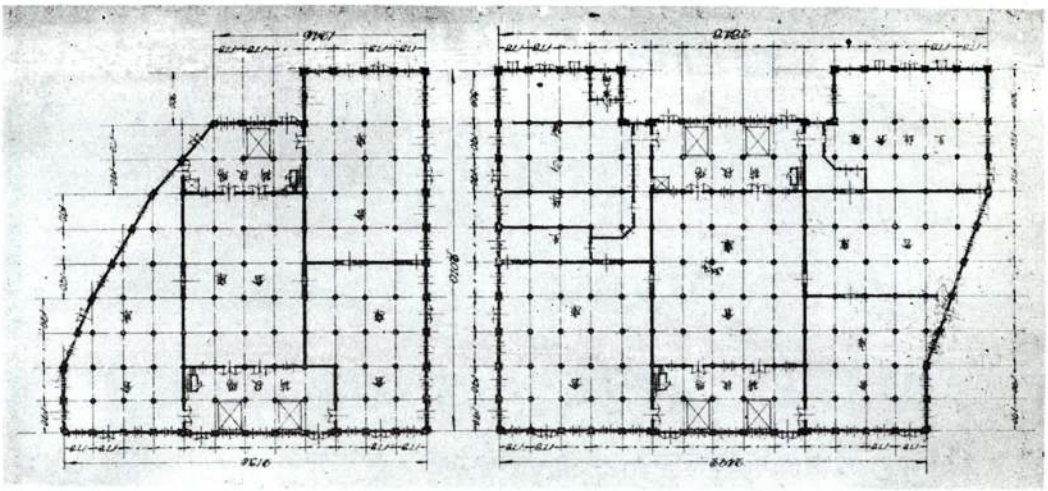
圖面平階一



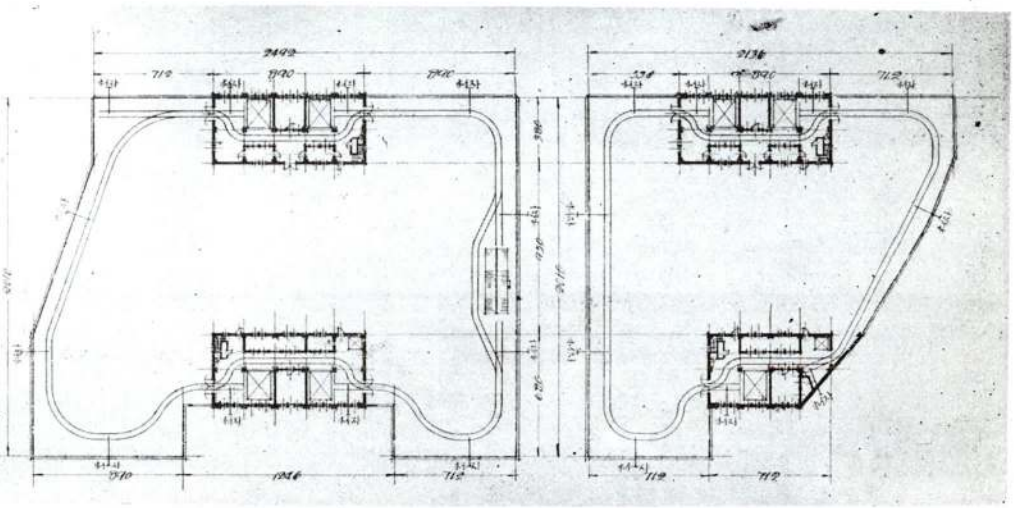
圖面平階二



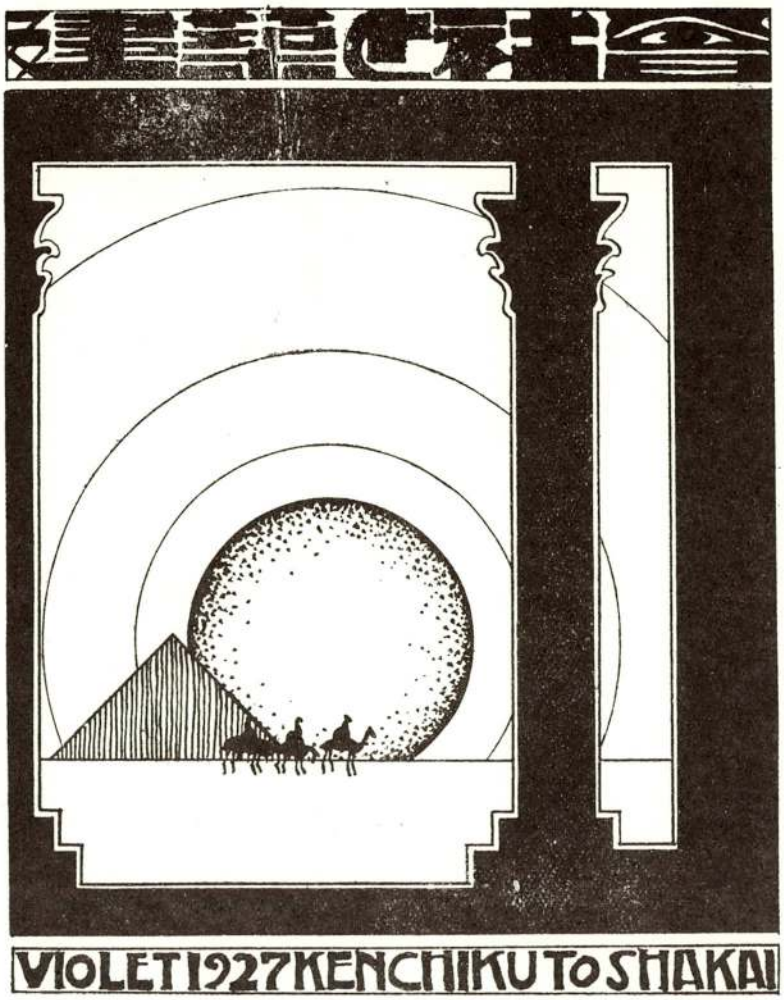
圖面平階三



圖面平階四



圖面平上屋



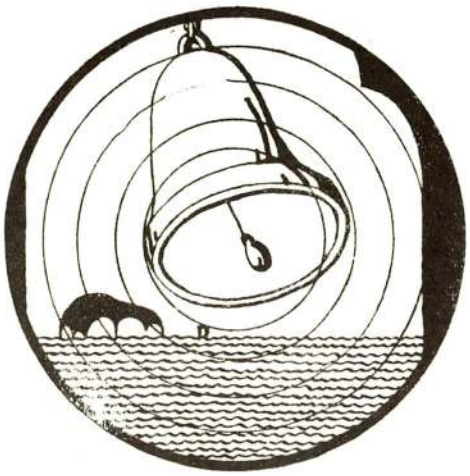
人生と建築

建築を一種の藝術品として觀るの可否、又は單なる人間生活の容器として觀るの可否等に就ては、ソレ〳〵の主觀に依りて意見の一致を見ざることは止む得ざることに屬すれども如何に藝術的價値重しと雖、實用を無視しては吾人の生活に對する存在價値を減ずること勿論なり。又一方に於いて人間生活の容器としてのみ見ることは餘りに人生をして無味ならしむるの嫌なきや。

建築に於いて藝術的要素もとより可なり。容器もとより不可なし。されども、之等のものは其偏在するによりて其數建築本來の價値を減殺せしむる虞あり。眞價は寧ろ兩者を併有するに依りて初めて光輝を發せむ。

特に都會の建築に於いては兩者の外に更に重要なるもの、一は自然の環境に對して程よく融合することに非ずやと思惟するものなり

然らば都市に於いて果して何によりて此要求を滿さんとするか、幸にも吾人には豐に惠まれたる空と水あり、山あらば山も亦可なり總て是等の自然に對して建築をして程よき融合を試みよ、ソコには吾人の求むる尊むべき建築の生動を見出さむ。（二、七、五、佳山生）



都市の防火と耐火構造の建築

大阪市建築課長　波江悌夫

一

火事は「江戸の花」と稱せられたるは舊幕時代に於て頻々たる大火が屢々江戸の都市を襲ひ、幾度か全市の大半を焦土とせる實例に據る處にして其際に於ける慘狀は巨萬の損害と共に當時の爲政者をなやましたる災害とす。されば如何にして此の災害の防止をなすべきかは其善後策を經營するに當りて當局者の苦心せる處にして元祿時代初期に於て既に市内住宅商舖の屋根を瓦葺に改造せしめ且つ其取締を嚴にするのみならず又防火隊の組織を改良して四十八組とし器械設備の工夫、着衣の改良消防方法を講究せしめたる事蹟は史上に傳へらる。しかも江戸の地形は西北風の荒ぶ寒天に於て屢々大火を現出し、市民は一朝火災の發生するや、防火策の失敗を見越して家屋再建の方法に苦策を立つるものあるのみならず瓦葺土藏造の建築は必然的に工夫せらるゝに到れり。

されど舊幕時代に在りても京都、大阪兩大都會も亦屢々大火の厄運に遭遇せり、大阪の如きも元祿以降明治初年迄に一千戸以上を燒失せる大火二十有二回あり、就中五千戸以上の大火十回を數ふる如きは川の都と稱せらるゝ大阪に於て決して不問に附すべからざる事蹟といふべし、殊に大阪に於ては常に西風の强風に襲はるゝが爲めに屢々放火に原因する大火ありて當局者を苦しめたるが如し、されば享保九年三月二十一日の妙智燒の如きは六萬戸を燒き死傷十二萬餘、面積に於ては全市の十分の九を焦土とせる苦き經驗に基き、消防隊の組織改善に努力し消防器具の改良に腐心せるのみならず土藏造を奬勵し、初めは四辻の家屋を改造せしめ漸を追ふて瓦葺土藏造の發達を助長せるが如し。しかも斯くの如き災害は昨今の鐵道事故の如く時として連年相續く事多かりしは都市々

民の心理狀態の如何を窺ふに足る如し、例へば寛政年度三度の大火は遂に全市の大半を燒けり。

寛政元年十二月の大火　燒失戸數　五、四六八戸（米屋町より以東馬場迄燒く）
同　三年　十　月の大火　右　同　一三、三八二（南堀江、島ノ内を燒盡す）
同　四年　五　月の大火　右　同　一〇、五四二（船場、中ノ島、天滿を燒く）

又天保年間に大火は相繼いで全市の約三分の一を燒却せり

天保五年　七　月の大火　燒失戸數　七、五六〇戸（堂島、曾根崎、天滿一圓）
天保八年　二　月の大火（大鹽の亂火）　右　同　一二、五七八戸（天滿、北船場一圓）
天保九年　四　月の大火　右　同　一、五二四戸（阿波座附近）

又嘉永五年に於ける頻々たる大火は合計約六千餘戸を燒けり。

嘉永五年二月　二　日　約一、〇三〇戸（中船場一部）
同　年四月二十一日　約一、五〇〇戸（道頓堀一圓）
嘉永五年十一月十九日　約一、三〇〇戸燒失（南船場の一部）
同　年十二月　五　日　約二、四八〇戸同（久寶寺本町間）

思ふに此等の大火は都市の狀況が人心不安なる時代に於て殊に其災害を蒙れるに似たり、而して一度大火の慘害を蒙りて人心恐々たる時代には小火と雖も安心出來ず强風に煽られては忽ち大火を現出す、又各新地の如き家屋高樓櫛比せる部分に於ては一度失火せんが忽ち附近を焦土とせる事例大阪に於ては殊に多し、寛文年間の新町燒、享保元年の曾根崎燒、安永三年の堂島燒、文政の道頓堀燒、弘化三年のおちよぼ燒（曾根崎新地）、嘉永五年の角芝居燒、文久三年の五幸町（難波新地）燒の如きは其著名なるもの也。

明治以降に於ても明治九年大西芝居燒（道頓堀）、明治十一年の新堀遊廓の大火、明治十八年の松島燒、明治二十三年の新町燒、並びに明治四十二年七月の北區大火と同四十五年一月に於ける難波新地の大火の如き、殆んど妓樓櫛比せる部分に於て類燒の猛烈なる事例なりとす。

然も舊幕時代の家屋構造は漸次工夫改良を加へられ大阪市內の大多數の家屋は瓦葺にして土壁塗となり且つ船場島の內の如き中心地區は店舖の後方に必ず土藏造の耐火家屋群をなして幷列するに到りしを以て文久三年以降今日に到る迄大阪市の中心地區に在りては大火らしき大火は稀有となりしは大いに注目すべき事柄にして都市の家屋か當時の技術に於て出來る丈耐火的なりしを見逃すべからず、此種の家屋は大阪特例の形式にして他の都市と其趣きを異にせり、殊に二階の窓の格子を土塗として一朝火災の際土を以て塗り潰すの方法を執り又類燒を防ぐの方法として一種の防火壁を必ず軒下に造りたるが如きは實際の經驗より將來せるものと考へらる。

されど各新地の妓樓に在りては此種の家屋構造は採光の上に於て外觀の上に於て行はれず、且つ樓屋軒を並べ來りて道路は狹隘なる繁街廓を現出せる場合には小火が忽ちにして此等の新開地域を焦土とせるは家屋構造上の欠陷に依る所多かりしを見るべし。

二

以上の事例より見るも大阪舊市が屢々大火を現出せるより

して考ふれば火事は必ずしも「江戸の花」たるを得ず、今日に於てはむしろ「日本の花」と稱するが適稱なるべし、關東大震災の如きは其最も特例なりと雖實際に於て震災といはんより混亂せる都市の不慮の大火に外ならず。特に神田日本橋京橋の如き重要なる地區が近代的耐火建築に改造せられつゝありしに係らず木造家屋櫛比せる關係上一面の猛火となりしは誠に痛嘆すべき事實とす。況んや函館市の如き再三の大火を蒙りたる都市は其耐火策に研究の餘地甚だ多し、米澤大火の際に於ても藁葺屋根多き都市の災害の事例として當時の識者の注意を喚起したり近時に於ても沼津、金澤兩市の災厄は强風の迫害に依ると雖又家屋構造の上に鑑みる處なくして可ならんや。

思ふに都市の主要地區は什うしても防火策の根本的方法として耐火建築群の奬勵を勵行するに依らざるべからず。帝都の如きも丸の内の建築群は漸く近代的耐火建築を以て櫛比せる結果、大震災の際より燒失の災厄を免れ得たるのみならず復興途上に此等の建築群は最も重要なる役目を働けり。

想ふに都市の建築をして耐火的ならしめよとは各人の叫ぶ所なるべし、唯經濟上の如何を考慮するの後止むなく從來の土藏造、木造又は準耐火構造の建築を實施するの事實となるなり、都市の中心地區をして耐火構造たらしむるの苦心は歐米諸都市に於ては既に三百年以前より研究工夫せられ來れるもの也、有名なる千六百六十六年の倫敦大火は最も著名なる苦き經驗にして各國都市が夫々爭つて耐火建築群を都市中心地區に聳立せしめつゝある所以なりと考へらる、故に吾國は約三百年立遲れたる譯なれども舊幕時代に於ける史實は當時に於ても相當なる工夫と經驗的方策の最後の斷案として耐火家屋の研究奬勵を構せしめたる事績は大いに鑑みる所なくして可なんや。

都市の重要建築が漸次に耐火構造に改造せられつゝある今日に於て中心地區に防火地帶建設策を構ずるは刻下の急務といはんより必然的の運命にありと信ずるも、尚且つ經濟的の見地より木造に墮する一般の傾向に就いては識者の一考を要する處なるべし。

先年都市計畫の輿論勃興せる際に於て多くの建築家が耐火耐震建築の奬勵取締を勵行せられん事を唱導せし際に於て後藤子爵は「建築家の夢想」を實現するの可能性に就いて一言せられたる事あり、乍然此等の叫びは決して空想に非ずして都市向上の道程に於ては當然の運命なるが如し、帝都の如きは明治の五十年間を費やして丸の内一帶の建築群を建設せしなり併も今後我國の隆運に乘じて都市建築の耐火的改造の機會は時代と共に發生し來りつゝあり。

我大阪市の如きも明治末期の兩度の大火以前と大正時代の十五年間を回顧せんか、中島一帶、北濱附近、堂島一圓の建築群が如何に耐火的に改造せられたる乎を見れば思ひ半に過ぐるものあり、「建築家の空想」は決して空想に非ざる也。

先年有吉氏が兵庫縣知事在任中、神戸市に於ける小學校をして鐵筋構造とするの可なる事を奬勵せられてより約十餘年にして、東京、横濱等の六大都市が此小學校を漸次に耐火的とせる事實は其最も著しき事例なりとす。

想ふにこれ等の實現的趨勢は今後更らに一般の活躍をなすべしと信ずるのみならず、鐵筋コンクリート構造の建築が經

濟的に時代の要求に合致し來りし爲なりと考へざるべからず

三

明治時代の石造煉瓦造の建築構造が大正の初期よりして俄然として鐵筋コンクリート造の新構造に移り來りしは一に其經濟的の價値に依る處多しと雖、又此の新構造法が我國の國情に好都合なるに依れりと考へらる、我國の如き震災國は今後煉瓦造の發達を望むべからず。むしろ其長所を發揮し來れる鐵筋造鐵骨造によるの賢明なる事は既に世人の廣く周知せる所なりとす。殊に近年頻々たる震災の實驗的研究は益此の構造法の發達を促し來れるなり。

加之此の新構造法は其用ふる材料が皆低廉なる材料にして又我國到る處に於て得らるゝのみならず、近時セメントの產額著しく增加し價格亦低廉となり來れる如きは、益此新建築法をして發達せしむる機會多き譯なり、況んや木材の產額は限あり、又近時米材を輸入し來れる事實より見るも將來木造建築の行つまる事を考へざるべからず、又鐵筋コンクリート造の建築が漸次に其價格を低下し來しつゝある事實は工人の熟練と技術上の研究漸く深刻になりつゝあるものと考へらるる殊に經濟的價値より申せば此等の耐火建築が木造の夫よりも約五割前後の高價となるも年次的算出の效果より見れば數年の修繕費を節約するのみならず保險料や危險率や安心料や永久的效果等の打算に於て結局頗る木造よりも低廉なりと考へらる。

唯趣味の上に於て衞生的見地より見て或は亦氣候風土の實用的效果の上に於て多少の欠點なきに非ざるも此等の點を今後漸次に研究改良され行くべきものにして今日の欠點はむしろ將來其長所に蓋はれ來るものと考へざるべからず。

されば都市の建築が漸次に此等の耐火構造群に改造され行くに相違なしと考へ行くも決して空想でなくして必然的運命とも考へらる、しかも此の構造は商店や倉庫にても事務所に於ても學校官衙に於ても又住宅或はアパートメント等の建築に於ても其應用の範圍頗る廣き事實は見逃すべからざる長所なりとす、況んや商店に在りても住宅にありても漸次都市建築としては共同的建築に準化し行くの運命に在るものと考へ來れば、都市の建築をして耐火建築群の聳立によりて統一せられ行くべきは當然の道程といふべし、都市防火地域をして全市に亘らしむる事然ずしも空想に非ずしてむしろ想像よりも近き將來に於て我大阪市の如きも耐火都市と變質し得べしと確信して止まず、願くば都市の災害をして永久に防止し得べく防火建築を建設するにあらゆる努力を拂はれん事を希望して止まざる也。（了）

近代庭園の一例

橋本庭園工務所主　橋本八重三

◇

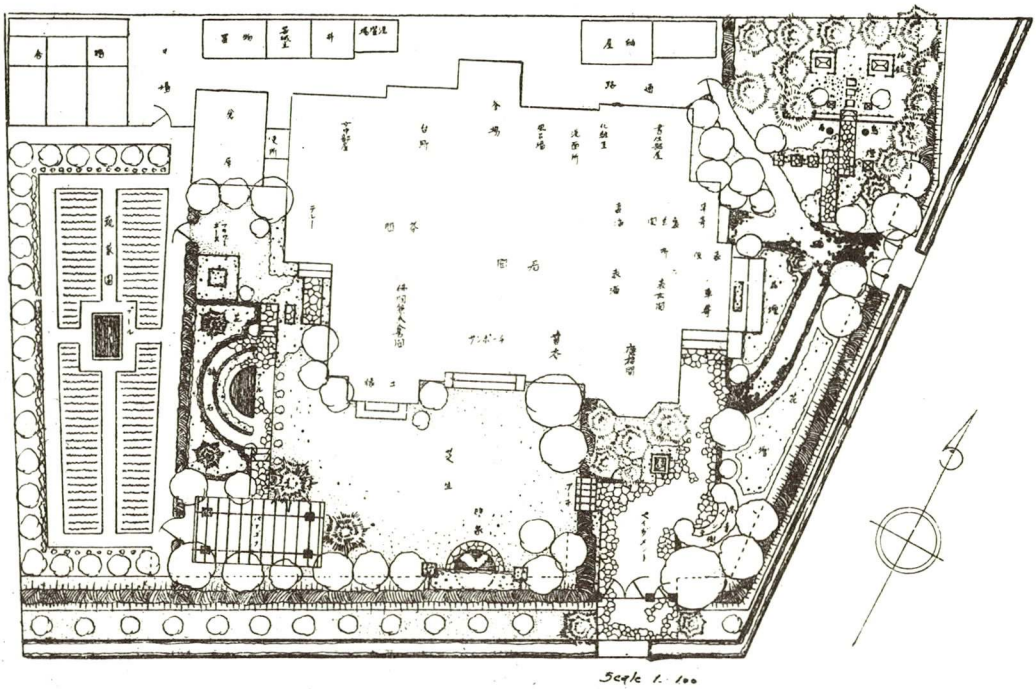
庭園の問題は一般に家を建て様とする人にも、住宅を建設の掌に當る技術家たる建築家にも庭師の間にも、甚だ冷淡な取扱を受けてゐるやうに思はれます。

近頃の各家庭では餘程建築に對する研究や理解が出來てきて新に住宅を建てる場合に從來であれば大工の棟梁任せであつたものが、今日では參考書を漁つたり、知人の家を參考にしたりして大いに見聞を廣めて、間取りから出發して臺所をどう云ふ風に改良するとか、寢室をどうするとか、使用する材料までも種々と研究を積んで、家族の間で論議されてプランをまとめて技術者たる建築家に相談する處迄進んで來たのです。

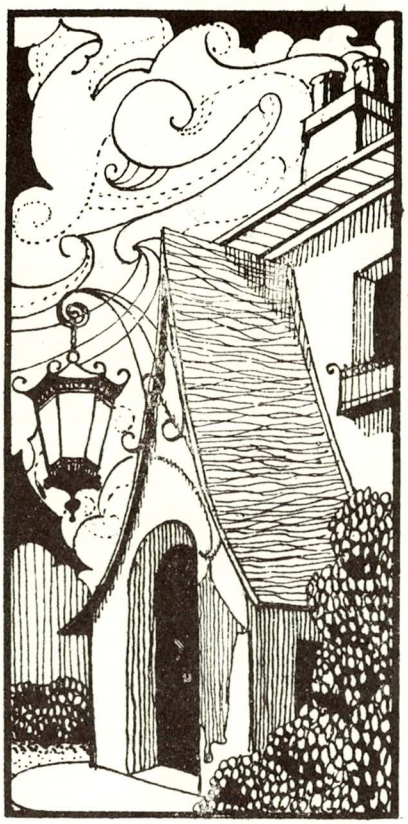
處が住宅の戸外の室たる庭園となると、全く難かしいものとして恰も他人の庭園でも作るが如き無關心さで、苦心の上デザインして建てた家とは全く不調和な家族の實生活とかけはなれた庭園を作つて甘んじてゐる建築は近代式でも庭園は依然として二百年も三百年も昔のまゝで、何等そこに新基軸が生み出されてゐない。

今日では現代人の實生活とかけはなれた斯うした庭園を完全に葬り去らうとしてゐる、建築の如く深い專門的智識を要しない最も卑近な庭園が各家庭で何等の研究と理解を持たれ

（一〇頁へづゝ）



池田町M氏邸庭園平面圖



防火地區の制定を徹底せしめその實現を促進すること

會員　池田谷久吉

◇

都市の災害に就ては（本誌第十輯第六號參照）片岡博士より極めて系統的に然かも實際的に詳細なる御調査を報告されましたので充分諒解されたことでありますから今亦私が更めて申上る必要も御座居ませんが、商工業の發達はいよ〳〵富の集中となり益々火災の頻出を招來し其の損害を累次大ならしむるの狀況は誠に戰慄の外ないのであります。

斯くも猛威を逞うする都市の破壞者であり人類の敵であるところの祝融子に就ては何とかこれに對應する策を講ずるの途は獨り都市經營の理事者の仕事のみでなく我々都市生活者の連帶責任であらねばならぬと考へられるのであります。

◇

折角玆々營々として膨脹發展した都市も僅少なる過失のために一瞬にして燒土と化し幾多の生命と財產とをむざ〳〵と消滅し盡しつゝあることは最早やこのまゝ默過し去るには餘りに大問題すぎることゝして一般に自覺される樣になつたことは慶賀すべきことであります。

◇

こゝに於て私は『都市の倫理化』と叫び度のであります、『都市の倫理化』とは各自の都市の經營、維持に就ての共同責任觀であり、所謂共存共榮の實を擧ぐることであります。

◇

即ち先づ第一に都市の安全なる維持が最も都市の發展の素因であることを自覺せねばならないのであります、そこで都市の災害、殊に火災を防ぐといふことには今のところ科學的建築術の發達によつて人爲力を以つてするもさのみ至難事で

はなくなつたのであります。

◇

こゝに於て當然の結果として建築物全部を絶對的に耐火構造とするのが唯一の方法であり忘らくは眞の都市經營の根本の解決であらうと思はれます。

◇

無論、消防機關の完備には早くより相當、留意考慮されてはゐますが折角の立派な機關も現在の如く道路の狹隘、且つ曲折多きため、又は建築物規模の高廣には其の精鋭も何等の効をも奏せず、のみならず震災時に於ては水道鐵管の破裂等に依て機能を失して如何ともし難い實の持ち腐りの有樣であります。尤も此の他『火の用心』に留意し過失なからしめることも肝要なことではあるが是等は凡て消極的なことであつて永遠に都市の建築をして安全たらしむることは不可能事であります、たとへば今後の戰爭は數個の爆彈をもつてせば木造建築の都市は忽ち灰燼に歸することは實に容易なことであり、また震災に伴ふ火災の被害は地震の約二十倍以上であることなども關東及北丹等の實例が證明してゐるのであります

◇

斯く考察し、以上最早や都市の建築をして耐火構造たらしむるの方法を除いては他に火災の禍根を絶つの途は絶無だと思ひます。

◇

我が國の都市建築物に對する防火施設としては德川時代より屋根葺材料の制限を先づ最初とし、近く大阪府の取締規則に於ける長屋建築の防火壁構造等極めて貧弱なるものではありますが其れ相當大なる効果を擧げ來つたことは今こゝに申上げる迄もなく諸君の御周知のことゝ思はれます。

これに引き替へ歐米都市を見るに市内に於ては殆んど木造の家屋の存在を嚴禁し、都市の全廓内をして耐火構造を以つて建設されてゐるのであります、ロンドン、ベルリン、ウインナ等はこの例であります、米國の諸都市に於ては防火地區制を採用し全市を數區に區分し市内の殆んどは耐火構造となつてゐます、ニューヨーク、シカゴ等はこの例であります。

◇

飜つて我が國の都市の現狀を見るに米國式の防火地區制を採り大正十年市街地建築物法の適用以來我が大阪市に於ても大正十二年第一次の防火地區なるものが指定されましたが實に一少部分のものであるのみならず、また、指定された地區といへども已設現存建築の改築が自然の命數を俟つの止むなき現狀のまゝに於ては防火地區としての眞の價値が發揮するまでにはまだ〳〵これから數十年を經なければ駄目だと思はれます、漸進主義も結構ではありますが立派な法律が出來てゐても之れの運用が當を得なければ空文と等しいものであります、現行の防火地區は集團的と線路式との二種類となし構造に於ても甲乙の二種類を作つてはゐますが第一次指定以來今日迄四ケ年間を經てゐるにも不拘第二次の指定を見ず等閑に附せられつゝあるは一は當局のこれに對する觀念の無頓着

であり無責任であることの結果ではないでしよか。

◇

尤も耐火構造の促進助成は建築主各自の自覺に俟つの外なきものではありますが何時襲來するか計りしるべからざる災害に對して單に市民の自覺に俟つなどといふが如き頼りなきものを信頼して滿足しては居られません、これ以上は都市の建築物を法の強制力を以つて耐火構造たらしむるの方策の樹立は肝要であります、是れ即ち防火地區の指定の促進を提唱するの所以もまたこゝに存するのであります、私はまた、現在我が國の如く都市の中央に自由に木造建築物を建造するといふことは傳染病患者を放置するに似たことであるとも考へて居ります、危險極まりなき次第にてその一つの建物が直ちに周圍の善良にして健全なるものに迄害毒を傳染しつゝあるかは想像するに餘りある問題であります。

◇

私はこゝに於て申上度きことは『自己を愛するものは隣人を愛し隣人を愛するものは都市を愛するものであります』然し個人の利益と公衆の利益とは偶々一致しない場合がたくさんあります。若し都市を愛するならば須らく自己の利益を度外視して都市永遠の計を考へねばなりません。

都市永遠の計は先づ第一指に屈すべきものとしては防火地區の制定を一日も早からしめ都市の災害から安全の域に移すことであります、是が一日早きときは一日の効顯著にして今こゝに申上る必要もないことであります、今我々はその計を誤つたがため悔を永遠に殘すの愚を敢てしてはなりません。

◇

これは恰かも外科手術を受くるべき患者に等しいものであつて今日切開せば癒ゆるべきものをして明日に遲延したがために其の機を失し終に貴き生命を奪ふに到り最早後悔するも返らざるに似たことであります。

我々は凡てこの日常生活に於て可成は法の力による生活を續け度はないのであります、然し眞の社會生活、殊に共存共榮の實を擧げんとせば餘儀なく法に依るの外はありません。昔から諺に『咽喉元三寸越せば熱さ忘るゝ』といふことがありますがこれは計畫なき人間の刹那主義を最も如實に表現した言葉だと思はれます、斯の關東大震災に於て幾多の生靈をして慘忍にも生きながらの焦熱地獄たらしめた本所被服廠跡にはバラックが立ち列んで過群生活を營んで居ります。個人の自覺、これは前述の如く現下の社會組織及經濟組織に於てはとても望んでも求め得られない事であります。

◇

之は試みに我が四ツ橋、梅田線の都計工事の沿線建築物を見れば詳さに社會相を見ることが出來ます。斯くの如き大阪のメイン、ストリートに於てさへバリボテ式の額縁長屋が軒を並べつつあるは何たる都市として醜體でありましよ、如何に法律によつて無制限建築の地區といへども餘りの亂暴さには唖然たらざるを得ないのであります。是等は關東の震災後に於ける東京市内の假設物のバラック式の惡影響の大なる

ことを直感するのであります。

◇

以上の如き問題は建築主も建築家も一般人と一致協力して自己の住む都市をして安全ならしめ防火地區の指定の促進と實行を計畫せねばなりません、獨り是等は行政機關にのみ委託放任すべき問題でなくお互の最も重大なる責務であり焦眉の急務であることを力説いたします。

◇

眞の都市の發展はこゝから生れ人類の愛も幸福もこゝから發するのであります。

◇

幸に私の意のあるところ御賛成下されなば光榮此上に過ぎないのであります。

近代庭園の一例

（六頁よりのづゝき）

てゐない事は誠に不思議と云はなければなりませぬ。

◇

斯うした原因は各家庭に從來から植木屋がお出入として情實的に根強い地盤を持つてゐるのと、一面には舊來の庭園は觀賞本位の築山池泉式の日本式庭園に依つて代表されてゐた爲め、其因襲的觀念から、植木屋なるものが相傳する技術に依らなければ造られないものと勝手にきめられてゐるのです石燈籠や手水鉢を据えるにも、飛石や袖垣を置くにも秘傳に類するものがあつて素人の關知する事が許されないやうに考へられてゐるのではないでせうか。

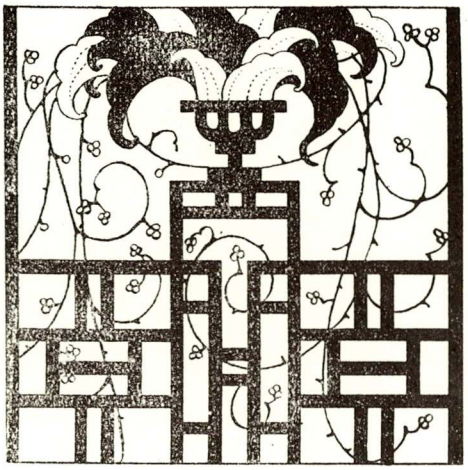
築山や池を設けたり、燈籠や飛石を置く庭園が庭園を代表する總ではないのです、庭園はもつと〳〵自由に考察されたやすく素人にでも出來得るものです。

庭石や燈籠がなくとも立派な意義のある庭園が出來、燈籠でも昔からの春日形や桃山形等ときまつたものを置くに限つてゐない、斯うした庭園の裝飾物は手水鉢でも蹲踞でも何でも、自由な考案で作つて用ひても何等差支へはないのです。

燈籠や庭石や樹木でも植木屋におだてられたり、世間態に見榮を張る爲めに大きなものを用ひて立派に見せることは愚な骨頂です、餘りに庭園を弄ぶもので惰落させるばかりです形の大きなものよりは小さくとも見た感じの大きなものを用ふるのが本統ではありますまいか。

一圓の芝生の中に綠陰になる樣な野生のそのまゝの大樹が唯一本あつても之は立派な庭園で大金を投じた俗惡な庭園よりどれ丈意義のあるものかしれないのです。

（二四頁へづゝく）



眼に映るまゝに

═素人の米國建築行脚═

神戸高等工業學校長　廣田精一

◇はしがき◇

僕は建築に對して門外漢であることは言ふまでも無い。しかし僕の學校に建築科があるので、建築については素人ながら注意することが僕の今度の旅の目的の一つになつてる。今其見たまゝを書く。專門家の方々は御存じのことばかりであらうが、萬に一つも御參考とならば幸である。

◇圖書館建築◇

布哇大學の圖書館は新築だけに堂々たる外觀は上野や中の島と比べて遜色ない。のみならず、それに優つてる點が二つ眼に留まる。書庫は四階か五階になつてるが其床は各階共厚い硝子。光線が床兼天井を通して這入る。慶應義塾創立五十年紀念圖書館を曾禰中條事務所で引受けられた時僕は書庫の電燈を引受けて、持ち歩行ける電燈を取付けたことを記憶してるが、床が硝子だと晝間は勿論電燈は不用になる。よい考である。硝子は火事に弱い心配もあるが、無論書棚はスチールで十二分に消火器が備へてあるから、まづ火事の心配は無い。

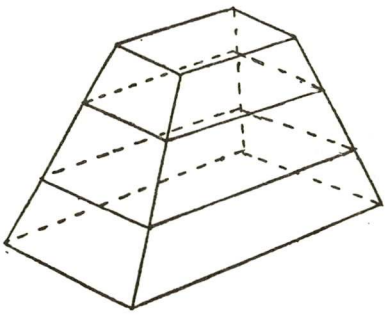
閱覽室の壁が砂糖黍の殻で作つたボール紙で張つてある。音の反響を消すための注意である。布哇では黍殻は燃やす外なかつた。それを近頃試みに紙に漉いて見たのであるが、馬糞紙のやうに下品でなく、淡い白茶色で寔に落付がある。

◇火山博物館◇

內務卿ウォークが開館式を行ふので、吾々一行も同行したキラウエア噴火口に臨んだ丘に建てられた小陳列所ではあるが、新式だけに內側の壁の色が美しい。吾國でも建築は日進

月歩で、曾ては大津といふ黄色の壁が普通日本家屋のきまりであつた。然るに近頃は淺黄と唱へて一段感じのよい淡碧色の漆喰が普通になつた。米國の最近のプラクチスは淡卵色の滑らかな而かも艶のない、丁度日本の大津の今少し淡い色のペンキであるらしい。スタンフォード大學のライアン博士の研究室でも其他でも新しい室の壁は皆これである。寒に品のよい塗りで日本の標準の西洋壁と比べると一段上等に見へる。價格は從來と違はぬらしい。

陳列棚が五面硝子張スチール・フレームで圖のやうに底擴がりになつてるのも頗る覗きよくて嘻しかつた勾配は圖の程には無いが、圖示するため少し誇張されてる。



◇ホテル建築◇

米人の頭には節約といふことは如何なる時も忘れぬらしいだから體裁がよくて安く出來るといふことには全力を盡してる。建築も勿論夫れである。迅速竣工——從て手間の節約。材料節約——從て安價出來。これには勿論頭の働きが入る。日本の古い時代の囚はれた考の如く幾度もやり直して、何年かゝつて、何人使つて、何萬圓費やしたといふのは誇にならぬ。美しくて、堅牢で、早く出來て、住み勝手がよいといふのが誇である。而かもこんなよい材料で尚且つ一立方呎五十仙即ち半弗を超えぬといふのが誇である。一立方呎半弗は高一丈二尺の建物として一坪當り我四百圓强になる。即ち延坪四百圓といふと同じである。

ホテルでは、食堂を一階にしたい。一階は上層の重量を全部支ねる。そこで一階にすると是非共柱が太くなる。食堂で柱が太いと目障りなばかりでなく、建築費も增す。布哇のモアナ・ホテルでは食堂は平家で別棟にして間口八間の廣間に柱なしである。桑港のフェアモント・ホテルでを中庭に屋根を作つて矢張一階のみの食堂にしてる。抑も中庭に硝子屋根を設けて室を作ることは地面の高い所では當然のことで、若し青芝や草花が欲しければ、鉄筋の屋根を作り芝生の間の小徑を硝子張にすれば、一階の食堂には充分光線が這入り、上から見れば美しい中庭に見える。かくすると目障りの柱が無くなり、同時に建築費は廉に、食堂が一階で便利である。布哇は地所が安いから別棟にし、桑港は地所が高いから中庭を利用してる。こうしないと丸ビルや堂ビルのやうに一々八階まで食事に上ることになる。

◇セミコンクリート・ビルヂング◇

木造では火事が恐ろしい。さればといふて鉄筋にすれば建築費が增す。建築費が增しては、安い宿料ではホテルは引合はぬ。高い宿料にすれば客は減る。此のヂレンマに直面して考へ付いたのが半鉄筋建築である。半鉄筋といふのは凹字形のホテルを建てる場合左右兩翼を鉄筋とし、兩隣から火が來ても防げる樣にし、中央を木造にし兩翼と中央との間に防火戸を裝置するのである。うまく考へたものである。モアナ・ホテルがそれである。モアナもフェアモントも第一流のホテル

であるが、ホテルが營業であるからには節約の出來る所は極力節してるらしい。

◇手製のブラケツト◇

フエアモントの客間（ローンジ）に美しい夢の虹のやうなボーツとした軟かい光線を投げる圓柱形の丁度小田原提灯型ともいふべき電燈が壁に沿ふてブラケットのあるべき位置に點いて居る。室の色と調和して寔に美しい。ベルリア・セードに着色したか、いづれにしても、此の大さでは、即ち徑一尺高四尺ではかなり高價のセードであると思ひ乍ら、近寄つて見るとパーチメント・ペーパーに紅碧の淡彩を施したばかり。神戸高工の紀念祭などにホワットマン畫用紙で作れば價勿驚五十錢を出ぬものと分つた。一萬圓もする絨氈を敷きつめ一吊五千圓もするシャンデリヤを下げた中に、こうした上品な飾があると誰もそんな安物と氣付かぬ。こんな所にホテル業者と建築家との苦心が窺はれる。よく安い物はどうしてもやはり安つぽいといふ人があるが、プロレタリアの天下に移りつゝある二十世紀の藝術は唯金の目方のみで量りたくないと僕は考へる

◇小さい風呂と鏡やランプの位置◇

節約話しの序に、今一つ書く。キラウエアの火山ホテルでは水が乏しいので、洗面器の上に「水を御儉約下さい」と貼り出してあるが、實際コックが一杯開かぬ仕掛にしてあるから、水を澤山出すまでには客の根氣が盡きて、まあ此位で辛棒しようと言ふ氣になり、とても澤山水が使へぬ工夫がしてある。

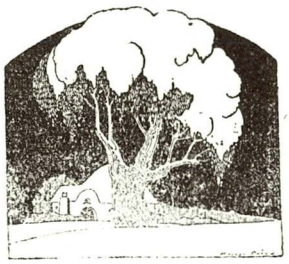
近頃米國の流行はホテルの各室に必ず浴室を付けるにある「シカゴ」市の最新ホテル「スチーブンス」は客室三千浴室三千を標榜してる。所が客が勝手にどし〳〵風呂を拵らへては經濟がもてぬ。と言ふてコックを一杯開かぬ樣にしては、さなくとも風呂を拵へるには時間がかゝるのだから、氣短な客の機嫌を損する。火山ホテル式は通用せぬ。そこで案出したのが風呂桶の寸法である。僕は嘗て日本の金盥と西洋の洗面器と同一口徑の物を取り容積を比較して西洋のが日本の半分である。從て冬期に湯で顔を洗ふとして、銚瓶一杯の湯で西洋式なら二人洗へるが日本式では一人しか洗へぬ。換言せば一冬に瓦斯代又は電熱代がこれ〳〵差があると計算したことがあるが、果然米人は茲に着眼した。僕のやうな日本人にすら小さく感ずる位に風呂桶（スタンド）が出來てる。即ち底部長さ三尺五寸である。從來は五尺五寸であつた。小さい器に大きな身體が這入ると物理學の排水量の原理で、少しの湯で、身體が多く浸かる。どこまでもづるく考へ付いたもの。客は身體が多く浸かるから不平なく、而かも湯は極めて少しで濟む。

鏡とランプの位置。これは鬚剃り顔洗ひに極めて重要である。日本では二日に一度鬚を剃るでさへ仲々面倒である。近來安全剃刀があるので便利であるが、それでも鬚剃はうるさい作業の一つである。洋行すると朝夕二度剃らねばならぬ。之れに考付いたのが鏡、洗面器、ランプの三角關係である。これがうまく行くと湯が出る。鬚を温める。電燈が鏡に鮮かに顔を映つす。忽ち奇麗に剃れる。一二分の作業で終る。朝夕少しも苦にならぬ。之は時の節約である。僅かな關係であるが建築家の注意すべき所で電燈が洗面器と鏡との眞上に無

いと顔に影が出來て困る。物理學で鏡面の反射とか光線の放射とか十年學んでも實地應用に一工夫せぬと何の役にも立たぬ。米國のホテルでも不注意の主人や古い所では、ランプは天井に鏡は左壁に洗面器は右壁にと言つた調子で寔に困るのである。西洋人がキチンとした風采をして而かも日本のやうに婢僕を多く使はぬ半面には、こうしたサイエンスの卑近な應用が多いのである。之もつまり頭の働きである。

◇金網戸と硝子足◇

蚊の多い日本で、御影や大磯邊の文化住宅に金網戸が無いのは不審である。布哇でも桑港でも蚊の出る所、必ず網戸ありで、窓には二種の戸が必ず備へられてる。椅子や机の足がカーベットに喰込むのを防ぐために眞鍮や硝子の丸い平い足が用ゐられてるが近來は硝子が流行らしい。これも日本にあるべくして、まだ多く見ない家具の一つである。



蚊に關係があるので、建築に緣が遠いが、節約の一例ともなるから、序に記すが、米人は金と時とを節して而かも大なる効果を擧げようとする。防蚊戸を設けるに止まらず、先づ蚊を全滅せんものと、水溜りに重油をポンプで撒いてるのを見受ける。次には多人數が出入する室では戸の開閉頻繁で防蚊戸が用をなさぬから、除虫菊の液をポンプで室内に撒いてる。羽の生へぬ先きに殺し、子を産まぬ前に殺す。蚊族も遂に絶ゆるであらう。とにかく夏の氣候でありながら蚊帳を吊らぬ。日本で小學兒童に蠅を捕へさすと比べて大差がある。蠅を捕るよりも、蠅の卵を産む腐敗物を消毒せよである。

（以下次回）

（米國最近の住宅建築「加州大學羅府ポリテクニック工業學校建築科視察記」等）



現在の建築教育方針に就て

渡邊節

◆

近來東京、大阪並に其の他の大都市に於ける新しき建築が續々竣功して行くことは、都市の面目を改良すると云ふ點に於て非常に結構なことゝ思ふ、然るにそれ等の建築物に付て微細に觀察すると、我が日本の風土氣候、並に經濟狀態等の種々な問題を或は無視して居はしないかと思はれるやうな點を見受けるのであるが、之に付ては各建築に關係する技術者に於てそれ〳〵專門の意見もあることだらうと思ふが故に、私は敢てそれ等のものに對する批評をすると云ふ譯ではないけれども、餘りに不統一な點を見るに付ては、其の根本の問題に付て大に考へなければならないことがあらうと思ふ。

◆

先づ第一に、私は建築技術者を養成する各學校の當局者に對して反省を請ひたい所が澤山あると思ふ、我々の考へる所では、學校はスタヂイする所であつて、研究する所ではないと思ふ、而も大學の三年間及び專門學校の四年間位の短時日に於てスタヂイするだけでは猶ほ足りない所があると私は信ずるが、近來學生の卒業製作及びポートマイト・エキザサイスを見るのに、それ等の作物の何處にスタヂイした點があるかと云ふことを疑はれるやうなものが多い、遠い四千年前のエジプト時代から、十九世紀の終りのルネッサンス時代までに、幾多の天才技術家に依り洗練された建築のスタイルと云ふものが、一朝一夕にして破壞せられるものではないと思ふ又こゝに如何なる天才が出て來て、新しいスタイルを創造しようと思ふても、先づ初に從來の傳統的のスタイルを十分にスタヂイし、之を修得した後に、初て自己の新機軸を案出するべきものであつて、學生が何等の素養なくして、突然こゝに奇を衒ふやうな新しいものを造つた所で、果してそれが建

築技術上如何なる値打があるかと云ふことは、誰が考へても分る問題だらうと思ふ。

此點に付て、我々建築士會關西支部の會員が最近に於て帝大を首め職工學校に至るまで京阪神に於ける各階級の學校の建築科專任の教授講師諸君を招待して、一夕の會談を試みたことがあるが、其節に於て私共の以上の議論に關する教育家諸君の答辯は、一樣に私共の意見には贊成であるが、それが直に實行出來ないと云ふ理由を述べられた、其理由と云ふのは、大體次のやうなものであつたと思ふ。

一、學校の經費が容さぬ

學生はスタヂイすることに付て、何れも非常に熱心ではあるけれども、學校には悲しい哉古いスタイルに關する參考書が乏しい爲に、それを修得する途に乏しい。

二、日本に於ては其の實例に乏しい

歐米の諸國に於ては一步郊外に出れば、到る處に古いスタイルの歷史的な建築物がある爲に、學生は直に實地に於て之をスタヂイすることが出來るけれども、日本では殆どそれが不可能である。

三、教師の手が足りない

學生の製作に付ては一々手を取つて教へてやらなければならないと云ふことは能く承知して居るけれども、現在の定員では到底其餘裕が無い。

以上の理由に依り、學生は最近に外國から來る雜誌、殊に獨逸の雜誌に現はれたる新しき建築物の感化を受け、直にそれを模倣し、或は又大膽にも獨創（オリヂナリティ）を出さうとする傾向がある、教育の任に當る者は困つた傾向であるとは信ずるけれども今の所では何とも手の下しやうがない、要するに根本問題は金が足りないと云ふことに歸着する。

◆

此の話を聽いて、私は實に意外に感じた、教育の根本はスタヂイにあると云ふことが當然であるとすれば、金が足りないから、スタヂイさせることが出來ないと云ふ議論は成立たないと思ふ、而して斯の如くにして教育されたる學生が一步校門を出て、實社會に現はれた時に、我々は先づ少くとも初の一箇年は更に自分等の手許に於て之を教育しなければならぬ、而もお互に貴重なる時間を費し、無益なる勞力の爲に、非常な迷惑を蒙むり、學生の前途の爲には實に不幸な結果に立至つて居るやうな次第である。

◆

又中學程度の工業學校、即ちドラフト・マンを養成する學校の生徒の卒業製作に大學の卒業製作としてですら困難だと思はれるやうな大作を試みたり、高等數學の理解なくして解決の出來ないやうな難かしい耐震構造の原理を無理に注ぎ込んだりするやうな事實があることを聞くけれども、斯の如きことは其の學生の爲にも、或は又其の學生を使ふ方の側の人に取つても甚だ迷惑千萬なことであつて、學校は各々其の程度に依り相當な教育を施し、而して一日も早く實地に役立つ樣に教育して貰ひたいと云ふのが、我々一般の希望である故に此點に於て特に此種の學校教育當局者の反省を促したいと思ふ。

◆

私は本年の春各種の學校の卒業製作を一覽した時に、特に感じたことは、我々の想像したものと全然異つた二つの相反する方面に於て、學生が無益なる努力をした迹を熟々見せられたことである、其の一は、前に述べたスタイルの研究の無い奇を好んだデザイン、即ち今日の獨逸のメンデルゾーン、墺地利のホフマン、亞米利加のキャリバンなどの型を其の儘模寫して得意になつて居るものがある、此の人達は今日の建築をどう見ておられるかと云ふことを私は疑ふ、我々の考へる所に依れば、今日の建築は實用物が藝術化せられたるものと見て居る、少くとも私がこゝに謂ふ建築と云ふものは、其の中に人が住み、或は人が之を使用する建築に付ての話である、學生の卒業製作、或はボートマイト●エキザサイスを見るのに、どうして斯んな家に住へるかと云ふやうな、實用方面を全然閑却したデザインが殆ど其の大部分を占めて居り、之に對して指導の任に當る教師諸君が相當な點數を付けて居る其の勇氣に驚くの外はない、昔建築のエレヴエーションを畫くのには、丁定規、三角定規、コンパス、スプリング、及びフリー●ハンドの五種を使つたものであるが、所謂セセッション●スタイルのものが現はれて、以來、コンパス、スプリングは影を穩し、定規とフリー●ハンドの二種となり、それがメンデルゾーン作のアインスタイン●ラボラトリーの出現後、定規も何時の間にやら影を隱して、フリー●ハンドだけで全部を片付けやうとする頗る大膽なる手法が學生の仲間に流行するやうになつたことは、若し是が假に惡い傾向だとすれば、其の責の大半は教師諸君が負はなければならないものだと思ふ、次に又是と異つた半面に於て、或る學校の卒業製作に出て居た發電所の計畫に就て、參謀本部の地圖に水路の詳細を入れ、何萬ヴオルトのタービンを据ゑ付ける詳細圖を畫くのに、非常なる努力をなし、寧ろ土木若くは電氣の專門技術者の研究すべき範圍に立入つたやうなものを見たことがあるが、是等に至ては數年間の建築學を修得した結果を現はすべく何處に特長があるかを疑はざるを得ない、其の教授の話に依れば、近來卒業製作の題目が無くなつてしまつて、止むを得ず斯の如きものを選むやうになつたと云ふことを聽かされたが、限りなき多くの卒業生に對して、一々其の題目を變へる必要が何處にあるだらうか、學生が卒業製作の題目を選定する前に、一應教授の教師に相談して、其の修得したる學問技術の價値を幾分にても現はすやうなを製作をさせたいものだと考へる。

◆

以上は今日の教育家諸君に對する忌憚なき無遠慮な希望や註文であるが、是は決して私一人だけの意見ではなく、實際の建築に從事してゐる建築技術者一般の同意する所であるやうに思はれる、尚ほ此の際に述べたいことは、所謂新しき型の建築が如何に技術者以外の一般世人の眼に映じて居るかと云ふことである、一々の例に付て批評することは、其の作者に對して禮を失する結果になるから、遠慮するけれども、市街の中央に西洋の棺桶を大きくしたやうなものが出現したり國民の血稅を搾つて集め得たる政府の金に依つて造られる建

築に、無用な、寧ろ醜怪なる裝飾が付てゐたり、永久的の建築に僅か十年位の壽命しかないやうな材料を使用したり、一時の流行に過ぎないやうなスタイルを眞似たりするやうなことは、お互に愼まなければならないことではないだらうか、例へば劇場に於ける俳優の紛裝（コスチューム）其の儘の姿で、若しも街路に飛出して歩いたとすれば、人は之を何と見るであらうか、衣服や身の邊はりの裝飾品は一二年の使用で直に廢棄し得る故に、流行を追ふと云ふことも必ずしも差支はないが、少くとも數十年の壽命を保たしめなければならないやうな、永久的な建築に奇拔なる流行を追つて自己の虛榮心を滿足せしむると云ふやうなことはお互に愼まなければならないことではないか、新しいスタイルや流行の如きは、要するに世界の一局部に極めて僅なる人達に依て現在研究されてゐるものに過ぎないのが、我が國に於て今日の如き勢を以て、到る處に流行する有樣を見て、私は建築家、特に將來ある若き建築家諸君の考慮を煩したいのである。

◆

尙ほ序に述べて置くが、私が不思議に堪へないことは、近來の設計競技（コンペヂション）に依て選ばれたる作物として出現したものゝ價値に付て何處に優れたる値打があるかと云ふ問題である、一々の實例に付て述べることは是も避けるけれども、建築材料の選擇に無意識であつたり、色彩の調合（コンポジション）に色盲ではないかと思はれるやうなものがあつたり、全體の構想や、細部（ディテール）に亘つて、何處に建築美があるかを怪しまれるやうなものが多いのは、何に原因するか、我々局外者の各方面の意見を聽いて見るのに、要するに、それは審査員の責任ではあるまいかと云ふやうな議論が多いやうである、審査員に選ばれる人達に對して、遠慮なく批評すれば、其の人達が多數の意を迎へると云ふことに重きを置いて、實際の藝術の價値の判斷を誤つて居ると云ふやうなことが、果して無いであらうか、あの人は古いと、一言に貶されることを恐れて居らるゝやうな人達が無いであらうか、私共は實際の結果から判斷をすると、どうしても之を否定することが出來ない、設計競技の審査員たるべき人達が萬一にも斯の如き考を有つておられるとするならば、將來の設計競技と云ふことに對して、寧ろ禍を及すやうな結果になりはしないかと思はれる、實際今日公開せる設計競技に於て相當の技倆あり、名を知られてゐる人達は殆ど之に參加してゐないで、唯單に鉛筆の先が器用であると云ふやうな人達の作物（ヂザイン）が何時も選定さるゝ結果、出來上つたものに付て種々な方面から思はしくない批評を聽くやうになるのであらうと思ふ。



大阪市高速鐵道に就て

大阪市電氣局　清水熙

大阪市は先年來路面電車の乘客著しく增加して其の主要路線に於ける輸送能力が到底路面電車を以てしては滿足する能はざる狀態に達したので高速鐵道敷設の計畫を樹て極力其の進捗に力めて居たのであるが漸く昨年三月二十九日に大阪都市計畫高速度交通機關路線として都市計畫に依り決定せられ內閣總理大臣の認可を得て其の基本計畫路線が確立せられ本年六月四日附を以て其敷設を鐵道內務兩大臣より特許せられたのである。其の路線を擧れば左の通りである。

大阪都市計畫高速度交通機關路線

（官報第四〇七六號大正十五年三月二十九日）

各路線の起終點及重要なる經過地點竝延長左の如し。

第一號線

豐能郡豐津村大字榎阪より東淀川區北川口町、國有鐵道東海道線大阪驛、都市計畫路線御堂筋線、南海鐵道線難波驛西端、都市計畫路線難波住吉線、浪速區市電大國町交叉點、國有鐵道關西線天王寺驛南側、住吉區西田邊町を經て住吉區我孫子町に至る

延長　約十二哩四分

第二號線

東成區森小路町南端より都市計畫路線善源寺町野江線、北區天神橋筋六丁目新京阪電車線終點南側、阪神電鐵北大阪線、國有鐵道東海道線大阪驛、都市計畫路線北野線北區扇橋南詰、東區天神橋西詰、都市計畫路線松屋町筋線を經て國有鐵道關西線天王寺驛南側に至る

延長　約八哩五分二厘

第三號線

浪速區市電大國町交叉點より都市計畫路線難波住吉線を經て西成區玉出町南端に至る

延長　約二哩三分一厘

第四號線

港區築港棧橋東側より市電築港線、同線花園橋停留場、西區伯樂橋西詰、都市計畫路線長堀線、東成區大今里町大阪市區改正設計二等大路第一類第十九號線、住吉區今林町西端、住吉區平野泥堂町、國有鐵道關西線平野驛西端を經て住吉區平野西脇町に至る

延長　約十哩六分三厘

以上の如く高速鐵道路線總延長は三十三哩八分六厘（全部復線）にして第一號線乃至第三號線の內新淀川以南、淀川以西、關西本線以北及天王寺驛以西の部分は全部地下隧道とし其の他の部分及第四號線は高架式とする豫定なるを以て地下隧道延長十三哩零分七厘高架線延長二十哩七分九厘となるのである尙ほ軌道の軌間は四呎八吋半とし換枕木式碎石若は砂利敷となし電氣鐵道方式は第三軌條式とし直流電氣を使用する筈である而て總建設費一億六千二百三十萬圓の豫定であるが現に詳細なる實施設計の調査中で遠からずして其實施豫算も確定する筈である。

大都市に於て高速鐵道の必要缺くべからざる施設なることは今更冗言を要せざることであるが大都市の交通機關は大量輸送をなし短時間即ち高速度で迅走する高速鐵道が交通の幹線となりこれに配する補助交通機關として路面電車網乘合自動車乃至各種の通路網を以てし全市の交通を完からしむるのである。然に高速鐵道は當初より全市に普及せしむること不可能なるを以て都市發展の順序として先づ路面電車又は乘合自動車が全市に普及し其間主要なる道路に於て乘客の混雜を來し或は都市の區域が膨大して高速度大量輸送の交通機關の必要を生ずるのである何れの都市も此の階梯を踏で發展するもので初めより一足飛に高速鐵道の出現するものではないのである我が大阪市も大正十四年西成東成兩郡を市域に編入して大大阪となり愈々高速鐵道の必要を痛感することとなりて今日の時期に到達したのである從て此の過渡期に於ける高速鐵道路線第一期線の配置も全市に亘る交通幹線としての主趣を沒却することは出來ざるも市內路面電車の混雜する中樞主要道路に於ける交通を緩和することと郊外部の交通不便なる住宅地域に新たに交通路を開くことを目的として今回の路線を決定せられたのである。而て市勢增々發展して各所に高速鐵道の必要を生じ更に郊外部の發展に連れ年を追つて高速鐵道の增設及延長の必要を生るものである。今回決定せられたる高速第一期線の工事が豫算並に資金調達の關係もありて今日確實には決定し難きも約十ケ年を要するものと假定し其の間に新線の增設或は今回決定せられたる高速路線延長の必要は必ず起て來るものと豫想せらるゝのである我が大阪市の市勢駸々として底止する處を知らず交通機關の便利なるものが出來れば其の發展は更に著しきものありと思はれるのである從て高速鐵道の設計其他に就ても將來の發展を豫想して充分なる考慮を拂ひ遠き將來の計畫に對しても不都合のないもの

に仕上げたいと考くて居るのである。

高速鐵道の實施設計は着々進捗中であるが未だ未完了のもの多く詳細にこれを説明することは能はざるも大體の考案を基礎として簡單に其要點を列記する積りである。

一　大阪市内外の交通機關の現狀と大阪市高速鐵道

蒸氣鐵道及電氣鐵道の現狀は梅田驛を中心としたる東海道線、天王寺驛及湊町驛を有する關西本線の二つの國有鐵道線が市の南北に在りて多數の遠距離乘客を呑吐して居る外安治川線城東線及片町線が僅少の乘客を取扱ふて居るのである郊外電氣鐵道は我邦に於て京阪神求に大阪市の周圍部程發達したる都市はないので市の周圍部へ殆んど此の電鐵網で覆はれ其の設備も各會社互に競爭の有樣である停車場の施設電車の構造は勿論最近に於ては走行速度と車輛の連結數に於て何れも一歩を先んぜんと競つて居る樣である然るに其の線路は人家連擔ならざりし以前に建設せられたるもの多く其の沿道に於ける人家の建連りたる今日これを見れば高速度を以て運轉することは極めて危險であり不合理と思はるゝものが多く何れも高速度運轉は實行して居りながら其の速度相當の設備のあるものは少くこれを高速鐵道として取扱ふことの不都合なるものが多いのである尙ほ此等の各會社線は何れも神戸、京都、奈良、和歌山等の遠距離都市を連絡するものにして純粹の近郊電鐵ではないので特種の施設をなし多額の工費を投せざれば市の内外を連絡して市内に乘入るべき都市一般の近郊鐵道たらしむることは困難である更に現在の線路即ち軌道の條數を以てはこれを遠距離鐵道と近郊鐵道とに兼用せしむることは到底不可能でありこれを近郊鐵道として使同せんとするには少くとも新に之に高架若は地下の復線軌道を新設するの必要を認むるのである斯て大阪市の高速鐵道路線選定に就ても直にこれ等の郊外電鐵との連絡線路を考慮せずして乘換の方法を執ることゝし一面既に充分なる交通機關の現存する近郊方面に新線路を建設することを避けたのであります。

高速鐵道と此等の鐵道及電氣鐵道との乘換連絡に就ては互に充分なる考究をなし完全なるものを作り上げたいのである梅田驛及阪神、阪神急行電鐵とは梅田驛前に於て廣大なる地下停車場や地下道を作りてこれを連絡し新京阪電鐵とは南方停車場に於て第一號線と連絡し又天神橋六丁目に於て第二號線と連絡し京阪電鐵とは野江停車場に於て第二號線と連絡し天神橋南詰に於て天滿橋停車場との連給方法を考慮し又大阪軌道とは片江停車場に於て第四號線と連絡し天王寺驛に於ては關西本線及大阪軌道と連絡して南方に於ける大停車場を作るのである更に南海鐵道とは難波及南霞町に於て第一號線と連絡を豫想し何れも相互の乘換連絡を完全に遂行したいのである。

二　線路の構造

線路の構造は淺地下隧道と閉床高架式とであり何れも專用軌道にして既設道路若は都市計劃道路にこれを敷設し可成高價なる用地を買收せずして建設費を有効に使用せんことに留意し其設備は將來の發達を考慮して充分なる餘裕を存し完全なるものを作り上げたい希望である、線路の構造としては地

下と高架を混用することは種々の事柄より餘り面白くないことではあるが全部高架式とすることは大都市に在ては無論宜しくない又全部地下式とすることは乘客收入と建設費額との關係上經營に不安を感ずる虞があるため已むを得ずして一部を安價なる高架式としたのである。

地下隧道は函型鐵筋混凝土構造で隧道の天端を道路面下十尺以下に置き軌條面上天井迄の高さを十三尺二寸幅員十二尺七寸のものを中央支柱の兩側に二室を設け各室に單線軌條を敷設するのである斯くの如く各單線を二室に別ちたるは脫線其他の事故の場合に於て隣接軌道に危險を及ぼさざるためである隧道に防水裝置を施し噪音防止方法を講じ又は隧道內に浸入せる水の排除「ポンプ」設備其他照明施設等は充分に施設する筈である。

高架式構造は道路上に建設するものにして道路幅員が最小十五間であり既設及計畫幅員を更に擴張することは工費の增大する關係上兎に角地方的關係より到底實行すること不可能である又道路の有效車道幅員を縮小せざること及高架橋下を通る路面電車軌道を全部車道に使用し得ることの條件を無視することは能はざるを以て此の狹隘なる道路上に高架橋を敷設せんとするには普通の構造たる二本橋脚柱式を採用することは困難なるを以て一本橋脚傘狀の構造とするの已むを得ないのである且つ高架橋下に路面電車を走らす場合に於て電車の外側より三間以上の車道幅員を存せしめねばなちぬので結局高架構造は一本柱式に依らねばならぬことに歸着するのである。

高架橋の上幅は三十尺通路上よりの軌條面高二十二尺にして一本脚の幅は約六尺とする筈で構造は鐵筋混凝土である。而て傘狀に突出せる床下に路面電車を通過せしめ得るのである。

高架橋に於ける設計上の問題は噪音を充分に防止し得るや又道路の採光を遮斷し其の形狀が不體裁にして通路の美觀を毀損せざるやといふことである此の點に就ては深甚なる注意を拂ひ形狀等の點に關しては建築技師に依賴して充分なる手腕を發揮し反て通路の美觀を添へる樣に設計してもらふ筈である高架橋の高さも路面上二十二尺といふ高さで殆んど普通の二階建家屋の家根の上に出る程度で相當に高いものであればこれを適當に設計し一本柱式のものが出來れば決して美觀を毀損することはないと思はれ特に建築技師の手腕に信賴して居るのである尙ほ市內に在て沿道に高層建築物の建連る繁華なる區域に於ける高架橋は可成裝飾的構造を避け簡單なるものとし郊外部に於ては高架橋をして道路の美觀的建造物たらしむる目的を以て相當の壯觀を呈せしむる積りである何れ詳細設計の完了の上は豫め諸彥の御批評を乞ひこれを大成せしめたいのである。

三　停車場

地下停車場は設計其の宜きを得ざれば極て陰氣にして不愉快なるものである電燈照明等の施設充分なるも天然光線に比すれば餘り感心の出來ざるものと思はるゝを以て出來得べくんば天然光線を引入れる方法を講じたいと考へて居るのである天井の高さ出入口、出札所前廣場の壁面の色彩並に床面の構造土泥の始末等數へ來れば停車場構造に就ては困難なる事

柄は限り知れぬものがあるのである此等の事項に就ても建築技師の手腕に依頼して地下停車場の缺點を一掃して心地良きものを作りたいのである更に衛生的見地より通風裝置排水設備並に掃除方法等のこともあり交叉乘換停車場に於ては階段の配置、「エレベーター」若は「エスカレーター」の採用等のことに就ては詳細設計の完成せざる今日具體的に說明し難きも充分なる注意を拂ひ便利にして心持良きものを作る積りである特に大阪市の南北の關門たる大阪驛前及天王寺驛に於ける地下停車場に就ては最も苦心して居るのである。

高架式停車場は採光通風其他停車場として見晴良き愉快なるものであればそれ等の諸點に苦心を要せざるも停車場への出入口及出札所に就ては相當の考慮を要し更に狹隘なる道路に輻員八間以上を要する停車場を作り猶且つ道路の効用を完からしむることに最も苦心して居るのである、地方的關係が許す箇所は停車場の箇所だけは道路の幅員を擴大して完全なる停車場を作り併せて停車場附近を一種の盛り場たらしむる樣に廣くしたいのである、停車場に於ける高架橋の構造は線路と乘降場を合せて八間以上の幅員を要するので橋脚數は二本又は三本を要するのである無論路面電車は其柱の間を通過せしめるのである。

停車場の構造に就て道路よりの出入口を道路上に置くか民家並に引込めるかの問題であるが出入口は出來得る限り明瞭に分り易く道路上より接近し易きことを主眼とするを以て已むを得ざるもの〻外は步道上若は步車道の境界線に設けたいのである尙ほ沿道の大建築物にして多數の人の出入するものに對しては地下隧道とは地下道を以てし高架橋は步道を橫斷する陸橋を以て停車場へ直接に連絡する方法を講じたいものである此の他高速停車場と路面電車の乘換又は自動車との關係等は最も便利ならしめ一面に於ては道路上の一般交通を障碍せざることを要するのである。

斯の如く停車場の設備は各種の方面と密接なる關係を有し多大の注意を拂はねばならぬのである。而て停車場の位置は未だ決定して居らぬのであるが鐵道及電鐵の終點並に連絡點は勿論主要道路の交叉點には設けねばならぬと思ふのである其の間隔も半哩以上適當の距離を離さねば發車後或る加速度を以て速度を增大し更に停車のため減速するために間隔を半哩として平均速度一時間十七哩以上を出すことは困難である從て間隔を平均零哩七位とし二十哩の平均速度を保ちたいと考へて居る次第である。

停車場乘降場の長さは一列車の連結車輛數に依りて定り連結車輛數は其の線路の乘客密度に依て定るのであるが大阪市將來の趨勢を豫想すれば開通後十年後に於ては朝夕雜沓期に在ては南北線に於て少くとも十輛連結の必要を見るであらう又高速鐵道大幹線の第二期延長も容易に實現し難く今回の第一期線を充分利用することゝなるべきを以て連結最大車輛數を南北十二輛東西九輛位迄增加しても差支なきやうに準備して置きたいと思ふのである高速なる交通機關の實現したる曉に於て朝夕の「ラッシュアハー」即ち乘客の雜沓する時間は路面電車に於て二時間ならば一時間半になるといふように其時間は短縮せられて一時に非常なる雜沓をするものである從て雜沓時に於ける車輛連結數は中間時期のものに比して著しく增加せねばならぬのである、尙ほ高速鐵道の使命はこの雜沓

時に於て大量輸送をなし甚しき混雜を呈せずして安樂に朝夕の通勤を保證すべきものである。

極めて簡單で取止めもなきことを述べたるが高速鐵道の設計も今や着々進捗しつゝ中間にあるので具體的のことを述ることが困難なるために致し方のなきものと御諒察を願ひたいのである、今回高速鐵道敷設の特許になりたるを期として大體の腹案の一端を述べたるに過ぎぬのであります。

近代庭園の一例

（一〇頁よりのづゝき）

將來の庭園が美と實用とを尊重して殊に家族本位、子供本位の庭園を要求さるゝ以上、吾々の日常生活の根據の一部分をなす庭園を植木屋に任せ切りで造らせると云ふことは恰も自分の着物の色や柄の撰擇を他人に依頼するのと同一であります。

それ故各家庭では舊來の放任主義を捨てゝ正しき理解のもとに相當な抱負を持つて考究されたいものだと思ひます。

◇

建築家も庭園となると自分の仕事以外の問題として全く放任主義で斯した問題には少しも考慮されない場合が多いのです、住宅は室内生活の家と戸外生活の庭園とを以て形成されてゐる以上建築家もやはり庭園の事に就て相當な理解を以て家のプランを立てゝもらいたいものだと思ひます。

建築家に緣の遠い燈籠や庭石を用ふる築山池泉式の庭園がだんだんとすたれて來て庭園は家の延長として戸外の一室として家の裝飾美として或ひは實用本位として大いに家族の實生活に利用され得る様になつて來て庭園の一隅に緣廊が設けられる、凉亭やプール噴水や綠門や壁泉などが設備される様になり、將來の庭園は斯うした建築家も共々に研究すべき建造物が適當に設計されて之等の建造物を樹木と芝とで綴つて美化された心地よい住家が作られる。

門より玄關に至る鋪道や庭園内に配置される建造物などに就いては建築家も等閑視出來ない問題だと思ひます。

◇

舊來からの庭師の多くは又無鐵砲で設計圖も豫算もなしで庭を作るあらゆる建築にたづさわる職業の内で植木屋丈は大名式な庭園の作り方で昭和の世の中で大手を振つて仕事をしてゐる、建物に對する理解もヘチマもなく何れの建築にも昔からやりきたりの覺えた一手を用ふるばかりでとても技術の使ひ分が出來る頭の所有者ではないのです。彼等の庭は千偏一律で少しも進んだ事をやらうとしない、それ故家と庭とは全くはなればなれのものとなつて誠に不體裁なものが隨所に作られてゐる。（三〇頁へつゞく）



協會の進むべき途と雜誌の執るべき方針に就て

會員　池田實

建築協會の創立以來、もう十年近くになるが、昨今はどうやら少し行詰つて居るのでなからうかと思はれる、何等かそこに新しく進むべき途を考へて見る必要があるのではなからうか、顧みれば、私共有志の者が集つて、此の會を造らうと云ふ當初に於て、東京の建築學會の支部にしたら可からうと云ふ說と、それ等とは全然違つた獨立した協會と云ふものにしやうと云ふ說があつたのであるが、後說の方が勝利を占めて、結局獨立した建築協會なるものが大阪に出來たのである而して其の目的としては、無論我が國建築界の健全なる發達を圖つて行くと云ふことであるが、其の努力の仕方としては要するに學術的に進んで行くにあらずして、對社會的に進んで行くと云ふのが、此の會の本來の目的であり、又使命であつたのである。

所が其の後の實狀を見ると、當初からあつた前述の二つの思想の間に何時までも迷つて居るやうな傾向がある、例へば雜誌の行き方を見ても、亦會の行き方を見ても、少しく惡口を言ふやうであるが、何だか低級な建築學會の跡を追ふて行くやうなやり方のやうに見える、尤も今日の建築學會も一面學會としての仕事をすると同時に一面協會的の仕事をして居るが、我が協會は又協會であると云ひながら、何だか半ば學會の跡を追ふて行くやうな風があつて、甚だ旗幟の鮮明でない所がある。

日本の建築界全體から見て、學會が必要であると同時に、又社會的活動を爲すべき協會の必要なることは言ふまでもないが、此の協會の雜誌を如何にすべきかと云ふ問題を決する前に、先づ協會を如何にすべきかと云ふ問題から說き進めて行く必要がある、それに付て所謂普選の行はれた今日協會が建築家の一部を以て會員とし、其の他を贊助員とするが如き差別的組織を以てすることは甚だ時勢後れでもあるし、實はそれは建築協會にあらずして、建築家協會である、是等も一考すべき點であつて、寧ろ其の差別的待遇を廢し、名實相伴ふやうに、所謂建築協會として、建築家は勿論、請負業者、或は建築材料商、其の他苟くも建築に關係ある者は悉く同じ資格を有する會員として之を迎へ、建築界全般の發展に努む

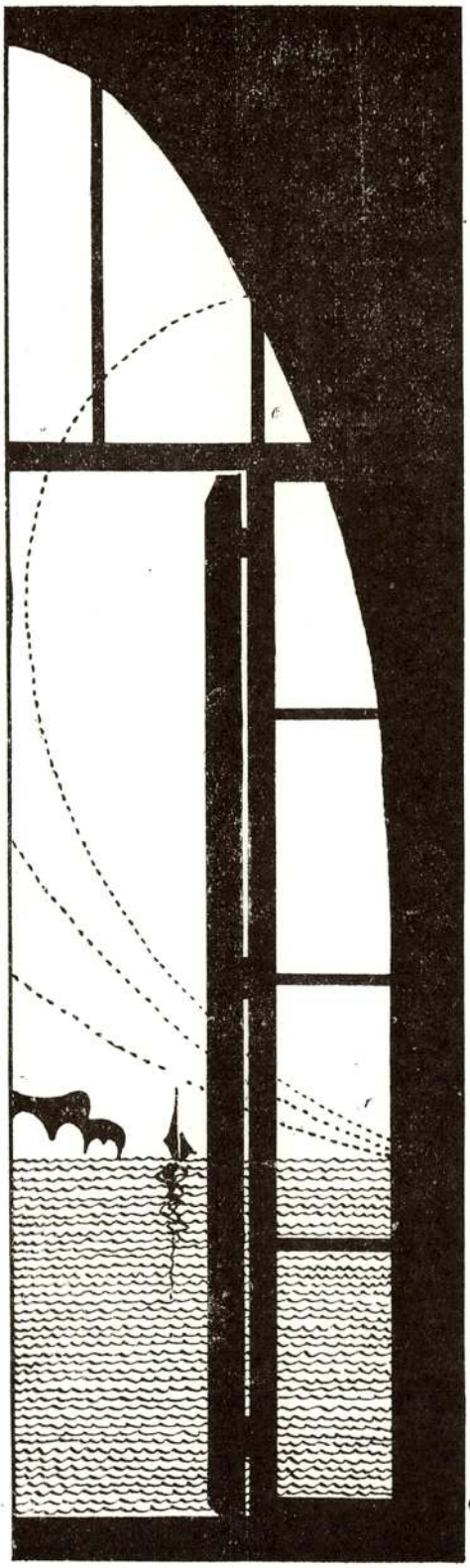
べき時代に到達して居るのではないかと考へる、尤も此の點は會の定款の改正を伴ふのであつて、餘程愼重に審議すべき事項ではあるけれども、今の時代は既に總てがさう向いて居り、又さう進んで行かなければ、寧ろ協會の將來が無くなるのでないかと思はれる。

更に雜誌に付て考へると、初めはまだ關西建築協會雜誌と稱して。所謂會員本位の雜誌であつた、所がそれでは協會が對社會的に活動する上に於て十分でないと云ふので、協會の名も日本建築協會と改め、雜誌も『建築と社會』と改題してもう少し普遍的なものにしやうと云ふことになつた譯であるが併し其の內容は相變らず從來の因習的な傾向を辿つて、何等改まる所が無い、寧ろ『建築と社會』と云ふ標題も更に『社會と建築』と云ふことに改め、もう一層對社會的であると云ふことを明確にして進む必要があるのではなからうか、讀者を、社會全般の人に求むると云ふ意味に於て、要するに社會運動なり、社會敎育（無論建築を中心としたことではあるが）と云ふやうな方面に進んで行かなければ、協會の事業としては甚だ無意義なやうな氣がする、我が建築協會の雜誌としては、無論建築に聯關したことを記載するのではあるけれども何處までも對社會と云ふことを主にして進まなければならぬものであらうと考へる、從て例へば雜誌の定價の如きも徒に高價であつて、一般の人に普及させる上に於て非常に障礙をして居り、又內容に於ても餘りに專門的であつて、一般の社會人には理解し惡い點があり、或は不必要な點もある、さう云ふ點を改めて、兎に角對社會と云ふ方を重要視して進むべきものではなからうか、尤も會員の中には相當な會費を取られて、自分等には一向報ひらるゝ所が無い、と云ふ風に考へる人もあるやうではあるが、それは會員としては寧ろ對社會的運動を爲す上に於てそれ〴〵努力すべき責任があるのであつて、自からが會に依て得る所があらうと考へるのは、少し間違つた事柄ではあるまいか、無論會員の中の研究事項に付ては建築家たる會員自體に有益なる事柄も多々あるに違ひないのであるから、さう云ふ資料を得た度毎に別にパンフレットのやうなものを作つて、會員に限り之を配付すると云ふことにしたならば、會員內の一部の希望も滿すことが出來るのではあるまいか、兎に角協會の爲すべき仕事は非常に澤山ある、從來僅に雜誌を出すことゝ、月に一回會合をすると云ふことだけが會の事業の如く考へられた傾きがあるが、併し會の事業はそれのみに止まるものでない、對社會的に努力すべき事項は多々ある雜誌の發行も其の一事業には違ひないが、從來の如く雜誌を出すこと、それのみが協會の全部の事業の如く考へることは甚だ間違つたことで、將來是非改めなければならぬ點である卽ち雜誌の發行と云ふことに餘りに重きを置く主義なり方針なりを此際改めて、會の事業の一部であると考へることが必要であらうと思ふ。

更にもう一つ全體的に自分の希望する點を附加へて置くが今日各方面に於ける團體の活動に付て注意を拂つてると、どうも日本では其の首腦者たる者が主になつて活動すると云ふ思想が乏しいやうに思はれる、多くの場合首腦者は唯床の上の飾り物の如くなつて居て、事實は其の部下の者が活動するだけで、首腦者は唯單に盲判を押すか、或は善惡の批判をして居るに過ぎないやうな傾きがある、是では眞の事業の發達は望まれない、矢張り首腦者たる者が自から其の事に專念努力するだけの犧牲を拂ひ、又それだけの熱心を以て事に當るのでなければ、總ての團體的事業の成績は擧らないやうに思はれる、徒に或は名譽慾とか或は勢力慾とか云ふやうなものを滿足させる爲のみに努力して、一見其の地位に就いても眞の努力を拂はないと云ふやうなことは會全體を發達させる上に於て最も考慮すべき必要があるやうに、特に近頃の傾向から見て、痛感するのである。（文責在記者）

自由と建築

會員　本野精吾



人間の求むる最大のもの

は自由であると云ふ言葉は、ある哲人が永い生涯の終りに考へ出した事であると云ふ事を私が何かで讀んだから、私は常に自由と云ふものゝ本質に就而考へ續けたのでした。ソウして遂に建築に於て最初であり且最後であるものは自由の境地に外ならぬ事を發見したのであります本項に於てソレが何を意味するかと云ふ事を少しく詳しく書いて見樣と思ひます

×

最初に自由と云ふ官葉の意味を申しますと、普通には自由と云ふ言葉を束縛に對する反逆と解して居る樣でありますが之れは全く誤りであります。束縛と云ふものを肯定してソレに對して自由と云ふものを考へるのは倫理學の範圍でソレを相對的自由と申します。ソレから全く束縛と云ふものを肯定しない自由の境地ソレを絶對的自由と申しまして哲學に於て考へる自由であります。ソレは人間が全く自然のリズムの中に熔け込んだ時にのみ感ずる事の出來る束縛感からの解放を意味するのであります。從つて絶對自由の境地は整然とした自然の律動と完全な諧調を保つたものでなければならないのであります。

建築の本質

然るに建築は人間が人間自身の生命を支へ進展して行く爲めの容器として自ら造營して居るものであります。恰も鳥が森林を一つの共棲の場所としてソコに巢を造る樣に人間は共存の生活を營む爲めに一つの都市を形成して居るのでありまして、建築は都市を構成する一つの個體であります。ソレ故に建築は其本質の根底に於て人間が求むる所の者を充たす素質を持つて居なければならないのであります。

自らを培ふもの

茲に誤りを避ける爲めに人間が求めつゝあるものは人間自らを培ひ展ばして行くものであると云ふ事に就而少しく詳しき解釋を加へて置かうと思ひます。人間の舌が正しく、訓練されて居る時に人間の舌は巳れ自身を培ふものを多くのものゝ中から撰り分けて攝取する事の使命を果して居ます。人間が適當なる食物を適量に攝取した時人間は充實したる感覺に依而充たされ決してソレ以上を攝取し樣としないのであります。現時の榮養學は全く此の事を證明して居ると云ふ事であります。コノ事を實行に移す上には人間が各自に正しい感覺を養なふと云ふ事が根底になければならないのであります。病的な感覺を基礎として判斷したものは決して正しき判斷と云ふ事が出來ないのであります。

ソコで再び建築の話に戻りますが、人間が求めつゝある最大のものが自由であり建築は人間が日常の生活を充たして行く處の容器である以上自由と建築との間に密接の關係が無ければいけないと云ふのが私の建築に對する考察の出發點であります。以下其の事に就而斷片的に論究すべき二三の點を擧げて本項を終り之れを以て一つの論究への出發とし度と思ひます。

機能的基礎と自由性との關係

機能的基礎と自由性との關係——機能的に最も完全に構成されたる建築は人間が其の中に於て自然のリズムに全く熔け込んだる生活を營む事が出來なければならないのであります此の點に於て私は建築に於ける機能的基礎を建築に於ける最も重大なる要素として考へる理由を發見するのであります。

機能と建築との關係

機能と建築との關係——機能的基礎の上に立脚したる建築が機能其物を以て完了する事が出來ない、云ひ換ゆれば機能は要素の總てゝないと云ふ點に建築の本質的價値の要素がある樣に想ふ。即ち人間は機能的に完全したる建築を以て精神生活の全部を充たす事は出來ないのであります。人間は色なき世界又は變化なき形の中に生きる事は出來ないと云ふ事は全く明瞭なる事實らしいのであります。色なき世界を想像した時吾々は全く其の中に生きる事の不可能を感ずるのであります。又同一の刺劇の繰り返へされる時人間は發狂すると云ふ事です。それは曾てドイツに於て實際に起つた事であるソウですけれどもある囚人に一つの石を右から左に又左から右に移す。コウ云ふ動作を連續させたらば遂に發狂したと云ふ

事實を根據として研究された結果であります。コウ云ふ幾多の事實を綜合して考へる時人間が單に機能的にのみ構成されたる建築に滿足する事の出來ない理由を發見する事が出來るのであります。

人間性と機械力との關係

十九世紀の中葉以前に於て機械力が非常の進展をした時人間は全く機械力の支配の下に知らず知らず陷つて居たのでした。ソウして人間が天然を征服しつゝあると考へたのでありました。けれども此の考は誤つて居たので全く人間が知らない間に自分達が考へた機械に支配されて居たのでした。此考の誤りを指摘して斷然機械力に反抗したのがウイリアム、モーリスであつたのです。けれども之れにも亦大きな缺陷があつたのです。ソレは人間が自身で考へ出した機械力と云ふものを人間から除外し樣とした處に誤りがあつたのです。近代の人々の考はコゝから再びぬけ出して機械力を尊き人間性の發露の一部分として考へる所に到達したのです。フランスの新進建築家ル、コールブッシエ氏等の考は全くコウ云ふ種類のものであると思はれます。コウ云ふ考に到達した時吾々は機械力の支配下に陷らないで人間が機械力を支配する事が出來るのであります。即ち機械力も天然のリズムの中に熔け込んで進行する事が出來るのであります。人間が完全に此の境地に到達した時が人間の求むる最高の境地でなければならないのであります。之れは人間が天然を征服したのではなくて人間が全く天然のリズムの中に熔け込んだ境地であります。

コレ迄記述しました事は單に二三の論究すべき要點を揭げたに過ぎませんけれども、之れを綜合して考へる時人間の求むる所の自由性は現代進みつゝある建築の進路を示すのである事を考へる事が出來ると思ふのであります。

近代庭園の一例

（二四頁よりのづゝき）

書物を讀むこともしなければ、便利な道具が出來ても使はうとしない、只其日〳〵の生活が保たれたらよい位の考へでは誠に心細い、庭園の進歩も前途猶遼遠たらざるを得ない。

◇

洋風の住宅になると彼等には頭痛の種で、考へあぐんだ末出來たものが幾何學式の花壇位なものでとても御話にならない洋風の家だからと云つて何も直線を用ひてやるにきまつてゐない、曲線でまとめても日本式の燈籠や手水鉢を用ひてもよく調和させる事も出來、又全く日本式の庭を作つても反つて恰好の調和を見せる場合もある。

洋風の庭園もやはり根本は日本式の庭園の作り方を應用することにある、幾何學的な西洋庭の模倣は見飽きがするが日本風の庭は見飽きがせず落付いてゐる、やはり日本人はバタ臭いものより深遠な雅趣を帶びた日本式庭園に近い庭園を洋風の住宅に調和させることにあるのだと思ひます。

◇

建築家でも若い學校出のまもない人の多くは文化住宅とか風洋住宅と云へば總て西洋式の模倣で斯うしたものゝ設計はだれでもするが、日本人でありながら本統の日本式の住宅の設計が出來ない人がいくらもある。

洋風住宅にも長所があれば日本住宅にも亦捨て難い味がいくらもある、何も無理に西洋の式をまねる必要もあるまい、長所は長所として用ふるのは結構であるが缺點までも共に用ひられてはやらせる人が迷惑此上もない、先づ手近に日本建築を根據として洋風をとり入れるのが本統の行き方ではありますまいか。

◇

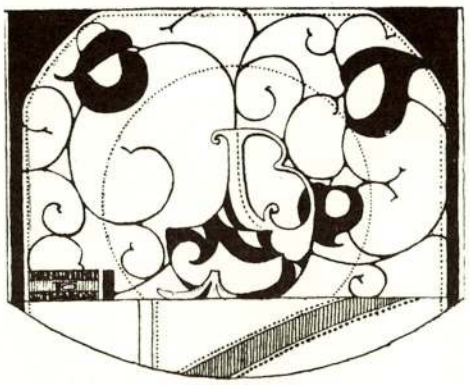
近代庭園の一例として茲に紹介するのは阪急沿線池田の近くに新築された大林組の常務取締役M氏の住宅の庭園です、M氏は建築の專門家であり庭園に對しても研究慾と趣味性の所有者です、建築は御手のもので隨分色々と思ひ切つた事を試みられて、新たに家を建てやうとする人には重寶な參考になる處が多々あると考へられます。

庭園は百五十坪位で廣くもないものですが、M氏の苦心の作品に對して調和させるべく努力を費したものです。

大體は洋風として玄關の庭、神殿の庭、居間の庭、臺所の庭と區分して各々に特徴を出して狹いながらにも景觀の變化を現はす事に苦心したものです。

◇

表門から玄關までの通路は出來る丈廣くとつて、扁平石を敷き詰め書齋の前には唐棕梠を植ゑ込んで大谷石で作つた洋風の燈籠を据付けて、それに對して人造自然木製の半圓ベンチを室外のソファーとして据えました。（三八頁へづゝく）



不燃質建築と火災

大阪府消防課長　土井末吉

先頃自分の手許に來たアメリカの消防雜誌に紐育市の火災損宴統計を載せてあつたのを見まするとで

一九二五年の　人口　五、八七三、三五六人
　　面積　二〇二、四四六エーカー
紐育市　建築物評價　二、一五五、二九九、九〇〇弗

火災度數　一九二四年　三、六三二度　内　半燒以上　二、三五七度
　　小火以下　二〇、二七四度
　　一九二五年　三、八四九度　内　半燒以上　二、二七二度
　　小火以下　二〇、五七八度

損害額
　　一九二四年
　　マンハッタン區　九、八五五、三九〇弗
　　ブルークリン區　五、四五二、二七五弗
　　クウリーンス區　一、二五九、四九五弗
　　ブロンクス區　一、二〇三、九一〇弗
　　リッチモンド區　九二三、七五弗
　　計　一八、六八四、八三五弗

　　一九二五年
　　マンハッタン區　七、七六二、五八〇弗
　　ブルークリン區　七、三八六、〇八〇弗
　　クウリーンス區　一、八七〇、一四〇弗
　　ブロンクス區　一、二六五、九五弗
　　リッチモンド區　五八五、三〇〇弗
　　計　一八、八六九、〇八五弗

であります此内マンハッタン區は西ハドソン川東にはイスト川南は海に面する半島形の土地で紐育の舊市區であり現在の中心を爲して居る所であります。

從て街衢の整然たること消防設備の完備せることも申す迄もありません。

之れに建連つた高層の建築物は殆んど全部不燃質造であつて燃質造又は半燃質造建築の存在せるもの僅かに五%に過ぎないと云ふことであります。

此土地にして尙且年々七〇〇萬弗乃至一、〇〇〇萬弗近くの火災損害を受けつゝあることは、不燃質造なるが故に、火災の損害はないと云ふ結論は出來ないのであつて。要は、燃質造に比して安全であると云ふに過ぎないものでなからうか其の用途用法に依ては、相當に火災の危險を考慮せねだならぬと思ふのであります。

◎

我大阪市は近時不燃質建築物著しく增加しつゝあるも此種建築物内の火災は至て尠く、既往三ケ年間に其の事例を求めますれば、博勞町心齋橋筋丸善の三階食堂と北濱ビルデイング七階食堂にて一局部丈けを燒いた小火二件と、百貨店の看板と陳列棚に電流の爲めに發火し火災に至らんとしたこと二回と、棉花を收藏せる倉庫一棟を燒いたことゝ、數日前の高島屋の屋上火災位であります。這は、木造家屋に比し危險の少ないのは勿論のこと、又市全部の建築物から見れば、至て少部分たるに過ぎないのでありまするから、前述紐育市の例と反對に火災が無いから將來と雖絕無なりとは斷言出來ないと思ふのであります。

◎

現に一昨年神戸市で不燃質の建築物が全燒したとの新聞記事を見て實地を視察しましたが、工事未完成の五階建コンクリートの建物の隣家に火災があつて、其の火勢が之れに吹付けた爲めに建物内に引火し二階以上の各階のありとあらゆる燃質物は悉く燒盡し、最上階の未だ取除かざる假板迄も燒けてあつた。之れは、落成間際で内容の不燃性物が少なかつた爲めに建物には餘り大きな損害は無かつた樣でありましたが若し之れが使用後であつたならば、内容に燃燒物が多かつたならば、如何に慘狀を呈したか想像に難くないのであります斯の如き實例もあるので、向後若し不幸不燃質建築物内に火災でもある樣なことがありますれば、折角漸次進みつゝある不燃質建築比較的高價の建築費を拂つても火災の危險を免れると云ふ氣運を妨げる結果になりはしますまいかと思を、爰に至りまするに、建築者も使用者も亦之れを取締る向に於ても、此邊に心して火災の絕無を期せねばならぬことゝ信ずるのであります。

◎

大阪市に於ける不燃質造建築物の用途は、主として官公署ビルデイング、學校、百貨店、其の他の公衆用建物及倉庫等で將來と雖先づ此方面に多く用ひらるゝと思ふのであります其の内官公署ビルデイグ、學校等は、比較的間仕切等も多く又可燃性物品を收容することも少ないのでありまするから、他よりの延燒に對する設備さへ完全であるならば絕對に安全なりと謂ひ得られまするが、其の他は構造或は使用の方法に依つて安全なるべき不燃質建築も絕對の安全であると謂ひ得られない樣な現像を見るに至ることなき哉と思ひまするが故に、之れに對する防備上の卑見を述べて當事者各位の參考に供したいと思ひます。

(一)百貨店諸興行場等多數人の集合する場所の營業中の火災は、火災の危險と人と人とに由つて生ずる危害と二つの危險を想像せねばならぬ。

(二)此等の建築は各階中に殆んど間仕切と云ふものがない、一度火を失して小火中に消止め得ざる樣なことがあれば、其の階全部が火災に罹るのは明かである。果して然らば其の火焰は階段の昇降口若しくば中央の採光に吸取され通風作用を爲して燃燒を容易ならしむることになる。夫れが爲

めに上階は延燒を受けることになりまするまいか。

(三)大體燃燒狀態の火力は地上に於ては燃燒度の四五百度以上は容易に昇るものでないが、上空に昇騰すればする丈け瞬間に頗る高度に達するものであることは、自分等の常に實見する所である。可燃性建築物でも地上に接しては決して延燒せず、上空の軒先家根等の延燒は至て容易、且つ速かである。地上の硝子は破片の儘であつても、上空に在るものは瞬間に熔けて雨の如く滴下する。大震災の當時初階に在つたダイヤモンドが安全であつて、上階に在つたものは悉く燒毀されて居た等の狀況に徴して昇騰火力の高度なること想像以上であるから、下階で火災を起さば上階の危險は推定に難からずである。

(四)現在百貨店の狀態を見るに、階段口採光口等に遮斷戸の設けなきものもあれば、中階に可燃性の建具家具等を充滿して何等仕切を設けてない所もある。甚しきに至ては、諸催事の造作物に造花造葉或は紙綿類等の早燃性物を多量に使用した設備を中階で平氣でやつて居る向もある、之等は不燃質建築であると云ふ誇りと不燃質建築を過信して内容の危險を顧みざる結果である。

(五)高層の建築物にファイヤーエスケープ即ち屋外避難階段の設けなき所が多い、屋内よりの避難は階段に依るの外はないが、現在各建物に設けられた程度の階段では、迚ても完全に避難することは不可能で同時に殺到する多數の人に依つて生ずる階段の危害は火災の夫れに比し幾倍のものであらう。現に本年三月の地震當時に或る紡績工場の二階から屋外に避難せむとした三四百の人が九人迄も踏み殺されて居る、好季に際し或は日曜祭日等の大百貨店等は一階に數千人全部に數萬人を容るゝ狀態であるから之れが一時に階段に殺到せば如何、思ふだに戰慄を禁じ得ないのである斯る場合に他に避難すべき屋外避難階段の設あることは何時でも避難し得ると云ふ安心を與へ此危害をも防止し得られると共に、實際に避難口のなき場合にも亦火災に際して外部から消防作業を爲す上にも是非必要な設備である。

(六)高層建物の窓に設くる防火戸は他の可燃燒性建物に面する方向のみで可なりとの規定になつてあるが、之れは不徹底である小火災の時は可なりとするも大火災となれば甚だ不安のものである。大震災當時東京市に於ける高層建築物の燒毀された狀態を見るに火勢は先づ初めに下層を走り大勢力と爲つて次に上層に及び中層より引火せず悉く上層から引火してあつた折角不燃質の建築をするりのならば一歩を進めて絶對に安全なる樣全部の窓に設備すべきである。

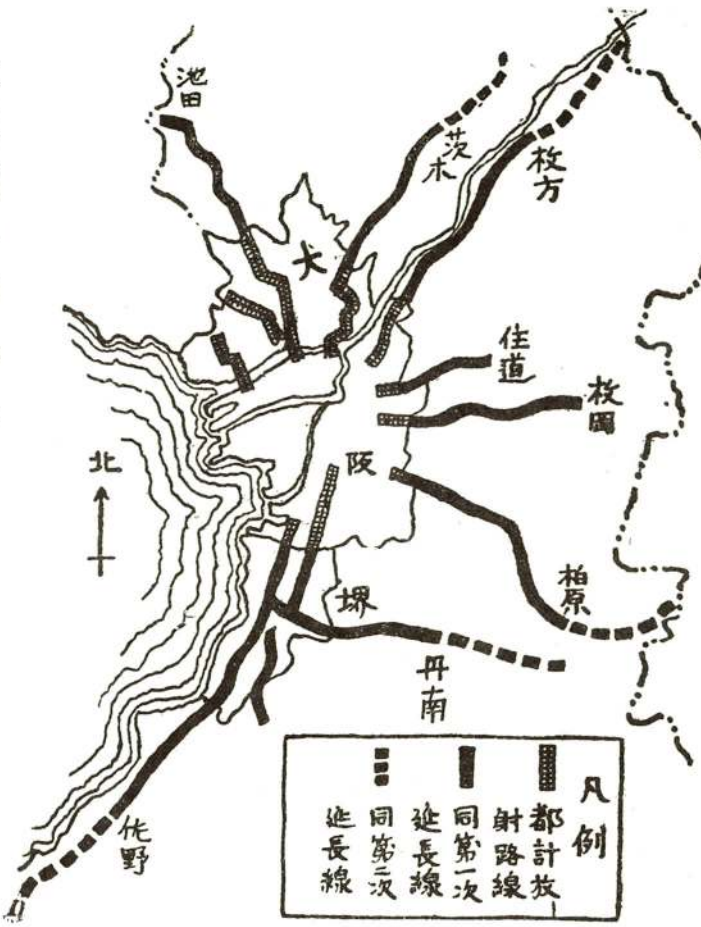
(七)不燃質の倉庫に收容してあつた棉花に火災を起したことがある。不燃質の建物である火氣を持込さへしなければ決して火災を起すことがないとは誰も思ふことであるか小さな採光窓の硝子の破損の個所から火のある煙が飛込むで燃出したのであつた、如何に不燃質造であつても可燃燒性の物品を收藏するには些の陷缺があつてはならぬ。

(八)建築をする當時から固定的に設けた電氣設備は安全であるが、臨時に設けた電氣設備には動もすれば缺點があつて危險を生ずる事がある。充分に技術的の監視が必要である以上の大要は日々實際に任じて居る自分等の所感と經驗からでありまするから杞人の憂として看過することなく此上の研究と考慮を希ふものであります。(昭和二年六月廿四日記)

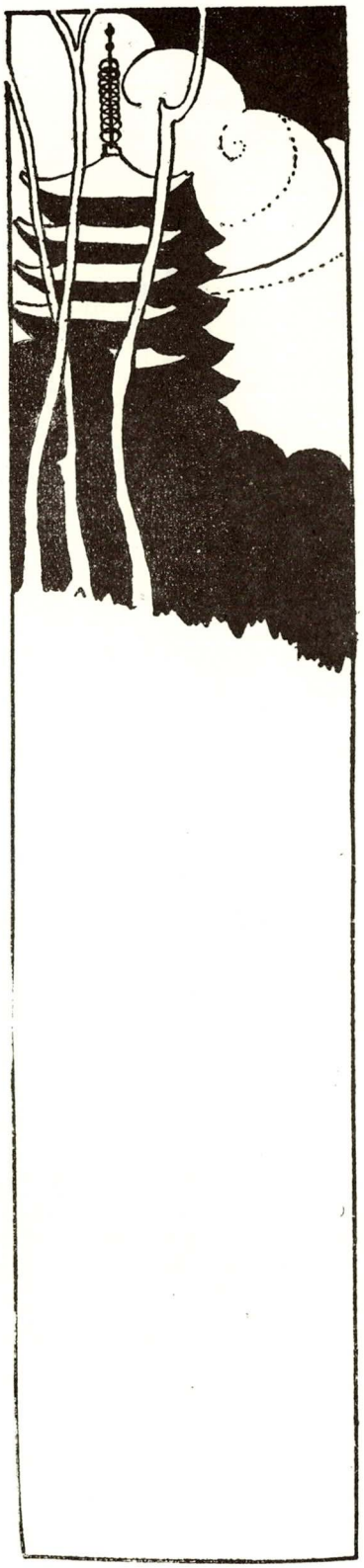
大阪市を中心に商工の大動脈となる

府の都計十大放射路工事着々捗る

大阪府の都市計畫十大放射路線即ち大阪和歌山線（幅員十五間）阿部野堺線（幅員十二間）大阪奈良線（幅員十二間）大阪牧岡線（幅員十五間―十三間）大阪住道線（幅員十二間）國道二號線（幅員十三間―八間）大阪池田線（幅員十五間―十三間―十間）大阪十三線（幅員十五間―十三間）傳法尼崎線（幅員十二間）は昨年六月の臨時府會において決定し工費二千七百萬圓、十ケ年計畫で工事に着手し着々進工中であるが、震災後東京市



が市の中心部から十マイル圏内の町村に人口が著るしき増加率を示し、大阪もこれと殆ど同樣の増加率で激増しつゝあるが、將來府下における交通關係が整備した場合は大阪市を中心として十哩、堺市を中心として六哩圏内が一時間内外で大體大阪市の中心部に達し得る地域であつてこの圏内に包含せらるゝ市町村二市百二十二ケ町村の人口は府下全人口の八割七分にあたり、生産額は全額の八割五分を占め將來の大大阪がこの範圍まで廣がつて行くものとして差支へはない、また府下の全生産額は本邦全生産額の約一割即ち二十三億餘圓に上り、この内工産額が府下生産額の九割四分にあたり、遺憾なく商工業の中心地たることを示してゐるので、各方面よりその進歩發達を助長せしむべき施設をなす必要あり、殊に交通機關の完備、幹線道路の擴築は緊急の事業であるからさきに大阪において府下道路計畫の遂行並に財源計畫に對する諮問機關として道路調査會を設け、詳に調査研究の結果前述の十放射路線中傳法尼崎線、大阪十三線の二線を除いた八線を全部都市計畫區域外に延長して重要生産地を連絡する幹線道路とし、これを改修することゝなつたがこれに要する總工費は二千三百萬圓で、これが財源には沿道受益者負擔金、國庫補助金、特別補助金等を合して約六割の金額を得、殘額を公債にあふぐことゝし工事年限は十ケ年である。



震度といふ言葉について

工學士　增田清

一、奥丹後震災の時の大阪に於ける震度
二、東京との比較
三、大阪市の中央部に於ける狀況
四、龜裂と終極强さの關係
五、地震によつて生じた龜裂とその安全率
六、耐震とは何ぞや
七、震度を豫期する意味
八、將來の震度
九、震度は一定とする事の不當さ

一　奥丹後震災の時の大阪に於ける震度

大阪測候所の地震計は强震計でなかつた爲めにあの當時の記錄の徹す可きものがないと云ふ事であるが推定によると、その震幅は約十五ミリか十六ミリ位、周期は約一・三秒と云ふ事である。この數字は同測候所へ最近電話で問ひ合せたもので勿論多少の差はあらうが、止むを得ず、これを暫らく根抵とする。以上の數字からあの時の地震動の加速度を求めると毎秒毎秒三百五十粍と云ふことになり、建築家の言葉に飜譯すると約二十八分の一の震度と云ふことになる。只この値は測候所に於けるものと推定するのが至當であるから同じ大阪でも比較的地盤の良い上部方面には適要が出來ないと思はれる。即概算でこの値の半分を市の中央部の比較的上等な所へあてると震度は推定で五十六分の一となり、上町邊の更に良好と目せらるゝ所にはこの三分の一を適當なりと見なすと

八十四分の一と云ふことになる。

二　東京との比較

今村博士の推測された數字では關東大震の當時、東京の山の手では約十一分の一位、下町の惡い所では五分の一から四分の一と云ふ事であつた。大阪の最も惡いと云はれる築港及その近接地が果して東京の最もわるい所といはるゝ土地と同樣であるかないかは知り難い所であるが、奥丹震災の時に警察方面の報告によつて被害の多いと目せられたのが前記築港方面である事からして、同方面に於ける震度を廿八分の一と假定し、中央部のものを五十六分の一から五十分の一位と考へても大過なきものであらうと想像する。

三　大阪市の中央部に於ける狀況

誰しも地盤軟弱なる築港邊のことは皆よく調査もしたが、自分は機會を得る度に少閑を割いて中央部に於ける高層建築物の損害を注意して視た。

例一　某大ビルヂング、地階の外に五階建、耐震として構造されたもの一部鐵骨を用ゐ他は鐵筋、外壁は煉瓦積であつた。階段室の床に龜裂あり、主階の柱に張れる大理石が剝離しかけた。階段の龜裂は下層程著しい。

例二　某大商店、構造は鐵筋コンクリート造、地階の外に八階。階段室の壁に斜めに走る大龜裂があり、上層の壁の龜裂はやゝ少い。主階に於ては修理を施した跡がある。

例三　同大商店、構造は右に同じ、時に耐震として計算したもので、設計の豫期震度二十分の一と云ふこと、第一階の道路に面せる窓臺の一方の方立は石が缺け反對側の所では窓臺の石の目地がはなれて窓臺の下の石に龜裂を來し、少しく注意を加ふれば明かに觀察しうる程度になつて居る。この例はこの側の殆全部の窓に表はれて居るこれと相對する壁は一寸外から見得ない所で室内も陳列の爲め調べが出來ない。又、右の窓臺の割れは三階邊迄見うる。尚階段室の周圍の壁は下層程著しい斜めの龜裂をなし外に面せる柱に水平に龜裂を存するのが見える。

尚階段の版も裂けて居つた。其他心齋橋通りの大建物中にも明かに地震の影響を受けたものと見做すべきものがあつたが省いて置く。

四　龜裂と終極強との關係

今一つの構造物（特に鐵筋コンクリートを考へて）が荷をうけて龜裂を生じたとする。一體、このものは破壞してしまう迄にこの龜裂を生じた時の荷重の何倍迄受けても堪へうるであらうか。これはよく考へて見る價値のある事ではあるまいか。地震に對して自分は時にその必要さを痛感する。

現在普通に使用さるゝ公式を用ゐて計算した梁を破壞して見ると、初めて龜裂の生ずるのは觀察者の眼の良しあし、注意力の多少等によるが略安全荷重に達する、少し前又は後であると云ふ、更に試驗を進めると終極の強さ、即この梁の破壞する所迄には荷を四倍位の大さにしなければならぬと云ふ故に終極強を標準とすると安全率は四であると云ふことになる。梁が單筋でも複筋でもこれは殆違はないと云ふことであ

る。

五　地震によつて生じた龜裂とその安全率

力は横に受けても縦から來ても同じと考へられぬ事はない故に、ある一つの建築物に於て辛うじて觀察しうる程度の龜裂が建物の重要部に生じた時は、その建物の破壞する迄には尙四倍の荷に堪へうるものと考へて大過はあるまい。しかし前述の例の如きものから推測すると辛うじて觀察しうる龜裂を生じだ時には四倍であるが直ぐ氣が付く樣なものを存するときにはその建物は四倍の强さの地震には耐へ得ないかと思ふである。即約五十六分の一の震度の時に相當の龜裂があれば、その建物は十四分の一の震度の地震があれば、もたなからう、五十分の一とすると十分の二で崩壞しやう、或はその少し手前でも危からうと考へられる。

六　耐震とは何ぞや

今豫期震度二十分の一として設計した建物を考へる、この建物の安全率はいくらと考へるのが至當であらうか、前例にならつて四倍とすると、震度十分の二のときに破壞すると考へてよからう。しかるにこの建物が奥丹地震の如き五十分の一（この數字は無論絶對のものではない事は前述の通りである）の推定震度の時に相當の龜裏を生じたらば、その四倍百分の八で即十分の一に達しない、百分の八ならば十分の二、（百分の二十）の終極强とは二倍半もの差が生ずる、これを一體どう解釋したものか。

豫期震度を十分の一とすると云ふ事は皆尋常のことゝして怪まずに用ふる言葉であるが、十分の一の震度の地震の時に何も龜裂らしいものが見えぬ位の强さをもつと云ふ事が、或は相當龜裂があつても使用に故障がなければ差し支へないと云ふ事か、或は甚しい龜裂破壞があつても形が潰れでもしなければよいと云ふ意味か。

第一とすれば前述の例三の如きは約五十分の一の時に相當の龜裂を認めうるからその終極强は百分の八の震度の時が最大限に達するので豫期震度の百分の五（廿分の一）に對して一・六倍に止まると云ふ事になる、第二の相當の龜裂があつても差し支へないと云ふ考へとすると、その龜裂の度合が漠として捕捉しにくいから安全の程度を豫期する意味が徹らない震度十分の一などゝ條件に合せて計算さへ行へば龜裂は意とするに足らぬと云ふ事になり。少し變なことになる。第三の場合とすれば東京の星製藥の如きものでもよいとなつて尙更理窟に合はぬ。

七　震度を豫期する意味

以上の樣な考へから耐震計算を行ふに當り震度を指定する時には辛うじて龜裂を發見しうるが如き程度と云ふ樣な但し書を用ゐて了解せしめなければ、趣旨が徹底せぬ樣に思ふ。即破壞は十分の四位の震度の時に起ると云ふ事を目標とした時に震度十分の一と豫期して計算すると云ふ事に考へるのが正しい。在來の樣な言葉の用ゐ方では種々の誤解を生じやすくはあるまいか。

八　將來の震度

言葉を解釋するのに右の如きものとすれば、大阪なり其他の土地なりに震度を豫期する時に果して幾何の大さとすべきかは見る人に依つて異ることゝ思ふが、早く言へば無見當で一寸手のつけ樣がないが上の如き言葉の使ひ方とすれば十分の一でも辛抱の出來ぬことはなからう。

九　震度は一定とするここの不當さ

しかし地震の激しさは土地によつて大差あると云ふ事は既定の事實であるから豫期震度も一々差のあるのが當然で奥丹震災の直後にこの意味を述べたが今日に至つても自分はこの說を變へやうとは思はぬ。地盤のよい所である一定の度合を豫想するのが至當ならば、それより明かに惡い地盤ではその何個かを豫想するのが至當であらう。例をあげて云へば、大阪の市中のよい所で右の如き十分の一が正しければ、築港の方面其他あの先日の震災の時に割合激しい被害のあつた方面の如きは少くも十分の二を豫想し所によつては十分の三を豫想せよと自分は主張したい、尤も實施に當つて多少困難は生ずるが、不可能とは思へない。不明で豫想の出來ぬ土地では惡い方とすればよい。建築費の增大するが如きは特に意とする程ではあるまい。兎に角震度を一定として置くことは全然出鱈目ではあるまいか。

近代庭園の一例

（三〇頁よりのつゞき）

勝手道の鋪道は扁平石と那智石を敷き詰めて緩かなカーヴを持つたものとして芝生と不正形な花壇を配して、前庭として明るい氣分を出し、神殿の庭は莊嚴に落付いた日本風の庭として、裏門に近く勝手の鋪道を境として一區劃となし居間と客室の庭はステップの前面を一面の芝生として、表門に近く綠門を設けて前庭の通路とし、壁泉と綠廊とプールを配置しました、壁泉にはライオン面のガーゴイルがたえず水を噴出して扁平石でたゝんだ石柱には花臺として玉伊吹を植えて之に鬼ツタを配植し、綠廊は園を一番廣く見せる場所に築いて藤と鬼ツタを植付前面はサンクガーデン式のポンドで宅地の周圍を流るゝ自然の流水がこのポンドに一面に溢るゝ樣にして花壇や樹木の灌水におしげもなく使用されます。

臺所園は蔬菜と果樹を植付けて四時の園藝を樂しむ如く適當の種類と配植に注意したものです。（了）

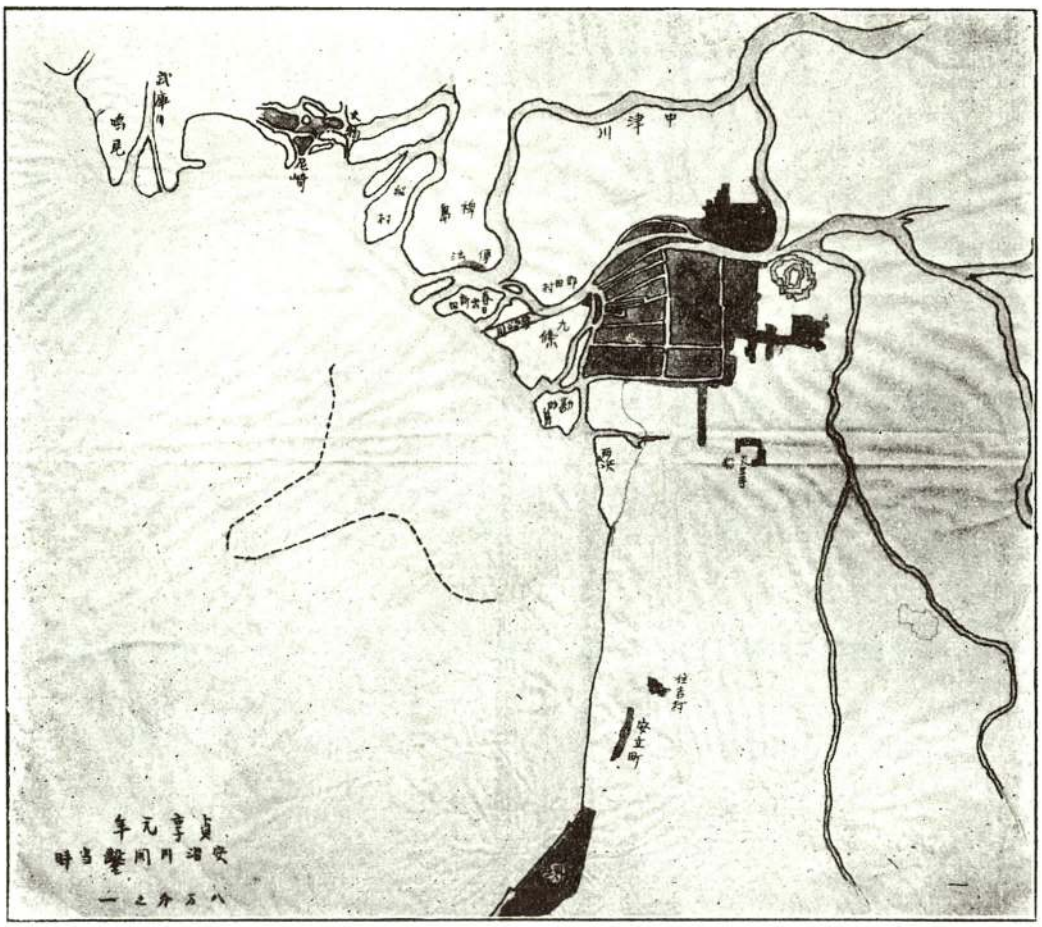


大阪海岸線の變遷と西大阪の地盤

災害委員　池田宮彦

大阪に於て海岸線の變遷は取りも直さず大阪の發展を意味するものであります。讀者諸賢の中には私が海岸線の事を申上げるのはちとお門違ひでないかと思つて下さるゝ方もあらうと存じます。實際海岸線の事を一番よくお調べになつて居るのは土木家の方であらうと存じます、取りわけ港灣部の方でありませう、然し乍ら海岸線の變遷を私如き大阪の建築に從事するものが調べる事のお門違ひで無い事を御了解願ひ度いのであります、それには深い理由があるので御座います。

大阪全市民を驚到せしめたあの奥丹後の地震による當市の被害は我協會にて震災號として發表せられました、そして市内に於ける煉瓦造煙突の被害は實に日本を超え、其他家屋の到壊、傾斜等仲々大きい數に上つたのであります。これ等は事新らしく申上ぐる迄もなく皆さんが未だよく御記憶の事と確信致します。そして其等の被害の最も多かつたのは何處であるか。今地圖上に點を附して調べて見ると、被害の多寡及程度は自然に大阪市を二三種類の地域に區劃して居るかの如くに見えるのであります。然らば區劃とは何か、即ち、地盤の良否であり、地盤の良否は結局地盤の新舊を意味して居るのであります。そして此の地盤の新らしい所と云ふのは、つまり新らしく埋立てられた土地であつてこれは大阪の海岸線が次第〳〵に西に移動しそこに殘された新しい埋立地、即ち新田であるのであります、『今度の地震の被害を調査すると、舊い新田よりもより新らしい新田上に被害が多い』と云ふ結論になつたのであります。それ故に、斯くの如き災害を出來るだけ少くするには平常からよく豫防方法を考へる事、即ち對策を講ずる事が必要なのであります。茲に於て、海岸線が何時頃何處へ移動したかを調査して各新田の年齡を考へ其の上に建てる家の構造を考へ、地震の場合に出來得るだけ被害



第一圖

を少くする樣に努力せねばならないのであります。

大阪市の大部分は淀川口の三角洲でありますが、即ち、沖積層でありまして永い間に淀川から押し流された土砂によつて自然に埋まつたものでありますが、尙、土地の利用を速かならしめん爲めに德川末期即ち、元祿前後には河川の改修と運河の開鑿とによつて盛んに埋立工事が西大阪の三角洲に於て行はれたのであります、而してそれ等沖積層の地盤は其の土質が細かく凝集力に富んで居れば時日を經過するに從つて稍々堅牢な地盤となるのでありますが、それには相當の長年月を要するものであります、其の長年月とはどの位を云ふか、明確に何年で堅牢になる等と云ふ事は云はるべき性質のものではありませんが次々に記載する所によつてホゞ御諒解下さる事と信じます。

茲に地圖三葉を先ず揭げました、極めて略圖でありますが第一圖は貞享以前即ち、今から二百五十年程前の地圖。第二圖は寶永元年頃即ち今から二百二十年程前の地圖。又第三圖は現今の大阪の地圖でありまず。此の三葉を比較して見ますと貞享以前の大阪と、寶永の頃の大阪とは近々三十年間に非常な變化がありまず、これは元祿年間に非常に土木工事が起されまして、河川の修理、運河、堀川の開鑿が盛んに行はれ

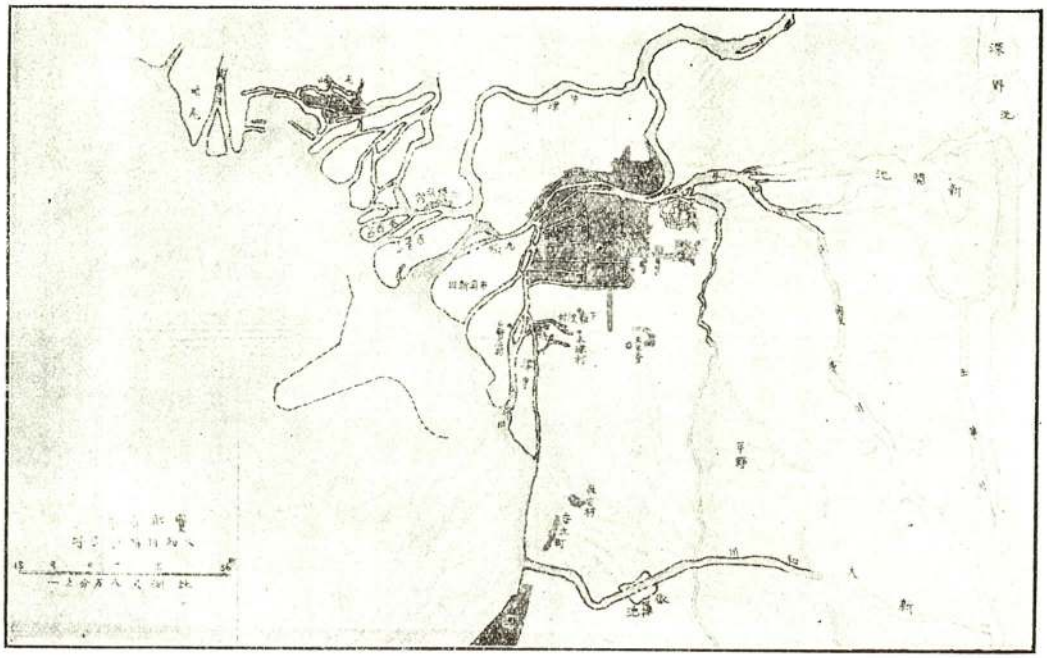
た結果であります。然し乍ら、第一圖第二圖に於て中津川及淀川が其の水力に依つて自然に押流した土砂によつて大阪灣を埋立てた力の大きい事に思ひ及ばずには居られません。尚又第三圖に於て之れを第二圖と比較せば、第二圖の寶永元年大和川が附替へられて堺市と安立町の間を通つて流るゝ新大和川となつた、それより二百二十年程の間に堺市の外海が全く埋立てられてしまつた事にも思ひ及ばるゝ事と思ひます。

茲に一言附け加へて置きますのは、大阪市の發展は元祿時代に非常なものでありまして第二圖（寶永元年）の市域と明治十七年頃との差違は極めて僅かであります、これは大阪市史によつて詳細に知る事が出來ます。

◇

前揭三葉の地圖によつて海岸線の移動と、西大阪土地の築造年代とを推定する事が出來ますが尙、其の詳細に渉つては次の表によつて知らるゝ事と存じます。

新田名稱	完成年月	現在名稱	逆算年月
春日出新田	（元祿十一年）	同	春日出町	二二八年
恩貴島新田	（元祿　年間）	同	恩貴島町 島屋町	二一〇年
島屋新田	（寶暦年間）	同	島屋町	一七〇年
島屋新田	（天保七年）	同	島屋町	九〇年
秀野新田	（明和二年）	同	秀野町	一六二年
本西島新田	（元祿十一年）	同	西島町	二二八年
新田名稱	完成年月	現在名稱	逆算年月
四貫島村	（延寶四年）	此花區　四貫島	恩貴島橋、春日出下一丁目、春日出橋ヨリ東、六軒屋川ト正蓮寺川トノ間	二五〇年
春日出新田	（元祿十一年）	同	春日出町	前記ヨリ西春日出車庫迄	二二八年
恩貴島新田	（元祿　年間）	同	恩貴島町 島屋町	前記ヨリ西住友電線附近島屋橋以東	二一〇年
島屋新田	（寶暦年間）	同	島屋町	恩貴島南之町ヨリ三本松堤防迄ノ間	一七〇年
島屋新田	（天保七年）	同	島屋町	三本松ノ堤防ヨリ西北港海岸迄	九〇年
秀野新田	（明和二年）	同	秀野町		一六二年
本西島新田	（元祿十一年）	同	西島町		二二八年
常吉新田	（嘉永年間）	同	常吉町	常吉町	七五年
岩崎新田	（安永二年）	西區	岩崎町	岩崎	一五三年
前田屋新田	（寶暦七年）	港區	三軒家西一丁目	三軒家西一丁目	一七〇年
上田新田	（安永三年）	同	三軒家濱通リ	三軒家濱通リ	一五二年
泉尾新田	（元祿十一年）	同	前記以南泉尾北村町泉尾濱通リ	泉尾濱通リ	二二八年
北恩加島新田	（天保二年）	同	北恩加島町、大通、元町萬歲町通濱通	北恩加島、大通、元町萬歲町通濱通	九六年
市岡新田	（元祿十一年）	同	境川町多西、西市岡町ニ至ル間、卽市電湊屋町タ凪橋附近迄	境川町多西、西市岡町ニ至ル間、卽市電湊屋町タ凪橋附近迄	二二八年
池山新田	（寶暦八年）	同	前記ノ北、鰯町附近	前記ノ北、鰯町附近	一七〇年
木屋新田	（元祿十一年）	同	前記ノ西、木屋町	前記ノ西、木屋町	二二八年
湊屋新田	（寶暦四年）	同	湊屋濱通及湊屋町	湊屋濱通及湊屋町	一七三年
石田新田	（明和五年）	同	石田町一帶	石田町一帶	一六五年
田中新田	（安永七年）	同	東田中町、田中元町、西田中町	東田中町、田中元町、西田中町	一四八年
八幡屋新田	（文政十二年）	同	八幡屋町	八幡屋町	九八年
池田新田	（天保元年）	同	新池田町、池島町	新池田町、池島町	九七年
北福崎新田	（文政十二年）	同	北福崎東之町、同西之町	北福崎東之町、同西之町	九八年
柴屋新田	（弘化元年）	同	南福崎町一帶	南福崎町一帶	八三年
千島新田	（昭和五年）	同	千島町	千島町	一五八年
小林新田	（天保三年）	同	小林町　北通、中通南通	小林町　北通、中通南通	九五年
千歲新田	（弘化二年）	同	千歲上通、中通、沖通	千歲上通、中通、沖通	八一年
平尾新田	（明和八年）	同	平尾町、南恩加島町	平尾町、南恩加島町	一五五年
南恩加島新田	（文政十二年）	同	南恩加島四丁目ヨリ南木津川運河迄	南恩加島四丁目ヨリ南木津川運河迄	九七年
鷗築三、四條通〉	明治三十年以後				
津守新田	（元祿十五年）	西成區	津守一帶、南堤防迄	津守一帶、南堤防迄	二二四年
櫻井新田	（天保元年）	同	櫻井町	櫻井町	二三九年
北加賀屋新田	（延享二年）	同	北賀加屋町	北賀加屋町	一八二年
村上新田	（天保元年）	同	村上町	村上町	九七年
櫻木新田	（嘉永四年）	同	櫻木町	櫻木町	七五年
柴谷新田	（慶應元年）	同	柴谷町	柴谷町	六二年
南加賀屋新田	（延享二年）	同	敷津一帶、南加賀屋町	敷津一帶、南加賀屋町	一八二年
北島新田	（享保八年）	同	北島町	北島町	二〇三年
平林埋立地	明治卅年以後				



第二圖

さて本年三月七日の地震に於ける當市の被害の大部分は前揭表に示された地方即ち今から二五〇年前〻以後に出來た土地に起つたのでありました。それ以外の古い土地には極めて少なかつたと言つてもよろしい。然し前揭以外の土地にして新らしく埋立てられた土地が市内に散在して居ります、例へば、曾根崎新地、安治川兩岸等は今回は之れを省略します。

前揭の新田のうち今回の被害の大きかつたものを順次に述べて見やう。

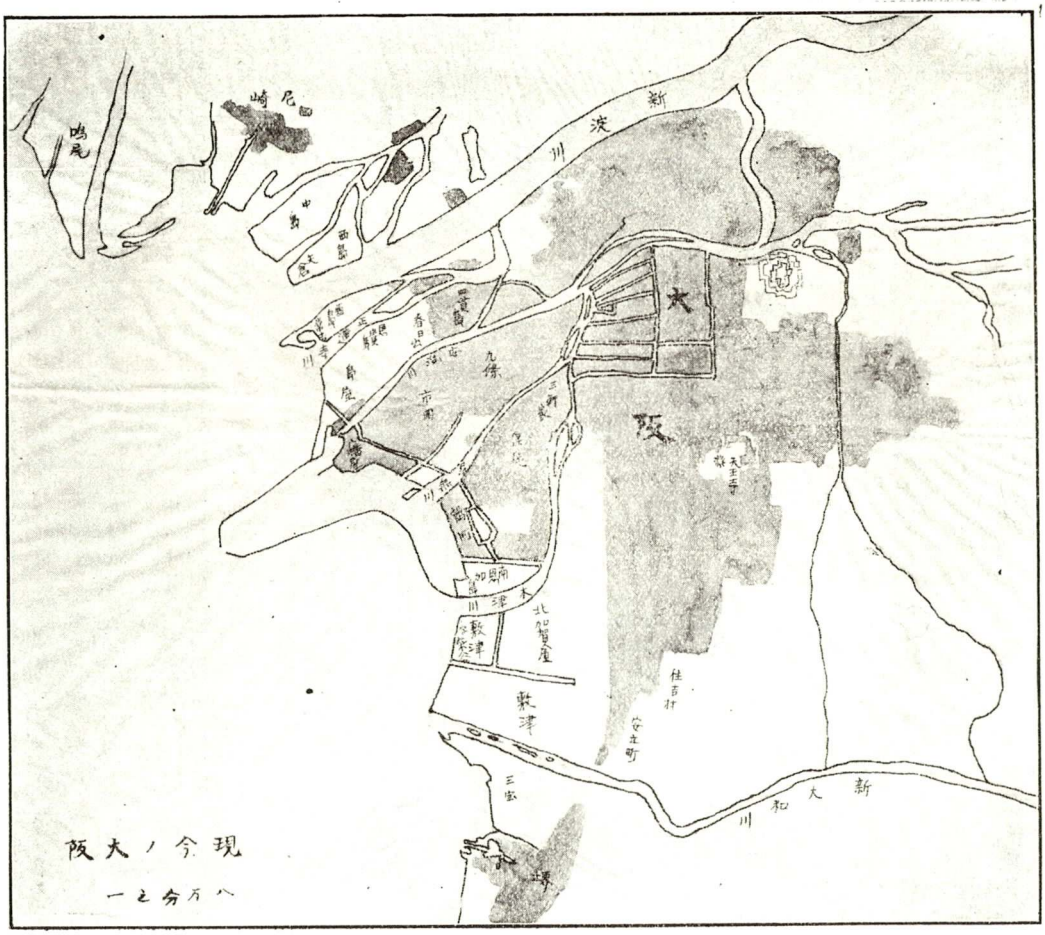
一、鶴町、築港方面

之等の土地は明治卅年以後に埋立てられたものであつて年數僅かに卅餘であります、從つて土地が充分締つて居なかつた關係上震度が特に大きく、家屋の傾斜、半倒壞あり地面は此の邊一帶に龜裂を生じ、多量の泥水を噴出せしめた即ち築港潮湯建物並に其の附近及鶴町住宅等は誠に慘狀を呈しました。

此の方面の土地は一帶に四寸乃至五寸沈下した模樣であるこれは、かくの如き大きな震動によつて浮いて居つた土地が以前よりも堅く締つた爲めに表面が下つたのであります、即ち長年月の間に當然締り沈下するものが、急激な震動を受けて速く締つたわけであります。然しまだ〳〵今後も下る事を豫想せねばなりません。

二、島屋町方面

島屋町方面のうち、三本松より東と西とに別ちて考へねばなりません、前者は寶曆年間、後者は天保七年の埋立完成でありますから、此の兩者の間には約八十年程の差があります



第三圖

、共に今度の地震に依つて鶴町に亞ぐ震動を受けましたが、被害は極めて少く、前者には家屋の傾斜倒壊等は無く、壁に龜裂を生じ、或は小壁の落ちたもの位いが最大の被害であつて、又地面に龜裂も見なかつたが、地震と同時に道路の處々に湧水を生じたのであります。

又後者（天保七年完成、即ち三本松堤防以西の土地）の方は家屋が極めて少なかつた爲め、比較が取り難いのですが、一般に鶴町方面程の被害は無く壁に龜裂を生じた位いでありましたが道路其他の埋立地には處々連續的の龜裂を生じ殊に櫻島附近は、地面に縱横に上幅五寸乃至七寸位、深さ不明の長い龜裂を生じ又處々に泥水を噴き出した跡を發見しました。

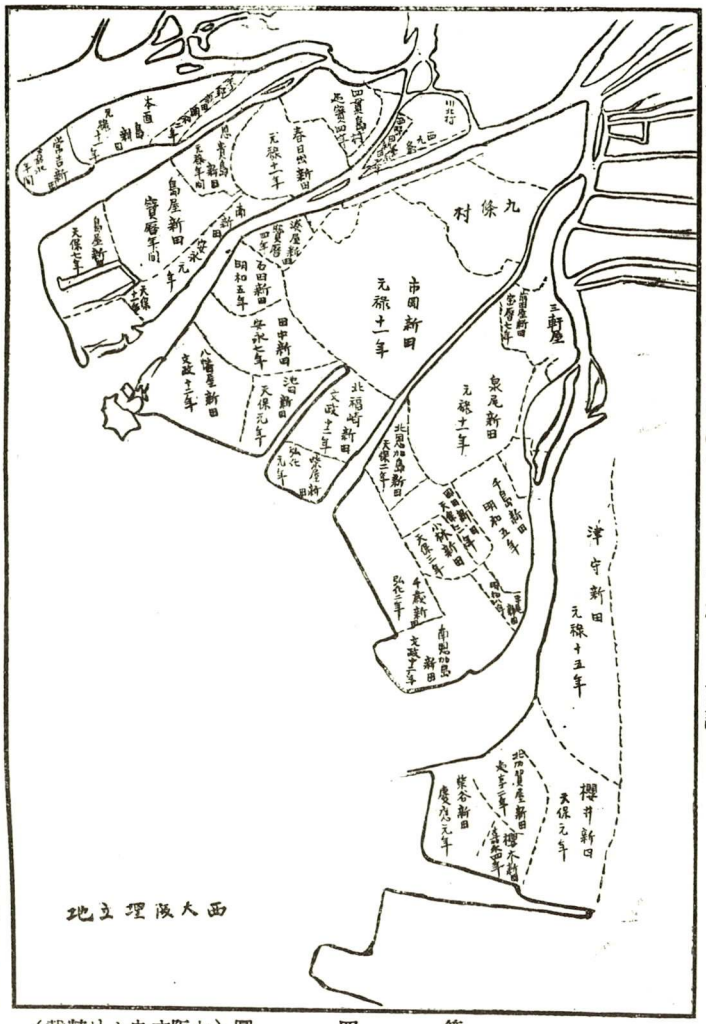
此の邊一帶の地盤は常に沈下しつゝあるものゝ如く、近々約二ヶ年間の調査に依つて、沈下しつゝあるといふ事が略判明しました、而してその沈下は只に表面のみのものでは無く可なり深い部分も諸共に下りつゝあるものと見られます。昨年の初めから只今迄に二、三寸の沈下を示した部分がある樣であります。然し斯くの如き調査は極めて困難なものであつて、今尚的確な數字を擧げ得ないのは誠に遺憾でありますが種々の方面より觀察して如上の沈下を事實と考へるものであります。

尚古老の言として傳へらるゝ所によれば、三

本松より西の土地（太政官堀附近）は開墾せられて以後水田として使用せられて居つたものが往々安政の地震にて地面五寸程低下し、爲めに海水浸入し水田として使用する能はざるに至り再び放棄せられ遂に今日の如く葦原となつたとの事であります。

以上は一例を擧げたにすぎないのでありますが、まだ詳しく調査せば、各方面について有益な參考資料を得る事と存じます。

次に前述の土地の沈下といふ事が何れ位深い所まで關係して居るものであるか、之れは一寸推測し難いものでありますが、築港、島屋町方面にて二三の例によつて考へて見ます。



第四圖（大阪市史より轉載）

今長さ四間の杭を杭頭地下一間餘の所迄打込んだもの、又長四十尺程の杭を打込んだもの、長六十尺位いの杭を打込んだもの及長百尺の杭を打込んだもの等、これ等を地震の後に比較して見ると、百尺杭は其の先端が可なり堅い地盤に達して居る關係上殆んど沈下を見ない樣であるが、其他のものはすべて沈下して居る、勿論これ等は基礎杭である、然し四十尺の杭は何等の荷重もなく只空地に打込んだものであるが矢張り沈下を示して居る。これ等によつて考へて見ると土地の沈下は可なり深い所から生じて居るもので、堅地層の上にある軟弱なる地層は底から表面迄全體に締りつゝあるものと考へられるのであります。

かくて地面が沈下せば其の上にある建物は同時に沈下するものと考へねばならないさすれば海岸附近の建物に於ては地盤が沈下し、同時に建物が沈下せば海水面との高さの差は少くなり最初に之等の沈下を豫想して置かなければ、次第に低くなりて遂には敷地も最大滿潮時、又は洪水（雨量の多き場合）に最大滿潮時が同時に來た場合に潮に浸るに至る事も起り得るのであります、これは實に危險な事であります。

茲に於て、海岸線の變化を調査し、土地の新舊を究める事は建築家に取つて可なり重大な事となつて來るのでありますこれに續いて其の各の地層と各地の地震々度の比を研究すべきでありますが之等の問題は他日に讓つて置きます。



考へさせられる事ども

會員　稚堂

○建築の意義

建築の意義を研究するのは建築家自身の務めであるとは考へられない。少なくとも客觀的立場に立ち得らるゝ達觀の士によつて深く研究せれて然るべきだ。日本の現代に此の達觀の士が出現して欲しい。主觀的に血迷ふて居る多くの建築家に一杯の冷水を與ふる批評家が出現して欲しい。

此意味に於て數多の當代知名の建築家に清涼劑を與へた英國のラスキン氏を偉なりとしたい。

○狐色

建築の外裝に黄土を交へたモルタル仕上が建築界を風靡しつゝあるのは如何なる理由であるであろうか。黄金の色は決して惡くはない。支那に於ても黄色は五色の最たるものとせられて居る。帝王の色であり、王者の色である。

乍然黄色の妙味は光澤を放つ所に在て、北清地方帝陵に用ひられたる金色の甍磚の如く燒物の得をいはれぬ光澤に其無限の價値を發見する。

然らざれば淡黄色の光澤なき落付いた色合ならば壁體の廣き面積に相等の雅致を發生する樣であるが、所謂狐色に在りては何とも申されぬ不快の感情が湧出するを禁ずることが出來ない。若し經濟的に狐色の流行が必然の道程に在りとすれば、一日も早く其流行期を過去に送りたいものである。吾等が衷心から欲する土の色は決して狐色ではない事丈は確實である。

○必要なもの

若き作家に必要なものは力と經驗だ。老いたる作家からは正しい思索と熱ある血潮と

○研究と努力

建築の研究すべき事項は頗る多方面だ。眞面目なる努力に

依らずんば中々以て價値ある成績を殘すことは出來さうもない。

鼻歌唱ふて煙草の煙を輪に吹いてそして得らるゝものは何んであろうか。

○時代の思潮

時代の思潮に掉す幾多の藝術の中に建築は常に立遲れて居る事を忘れてはならない。

これは建築が他の藝術よりも幾多の實際的拘束を受けて居る爲であるが、建築の完成には可なりの長年月を要する爲である。從つて建築が完成に近づいた時は已に時代の思潮とかけ離れたるものが出來上るといふ滑稽が起ることである、故に冷刺なる作家は常に時代の先驅者たる事を忘れない。少なくとも十年の先を見越して居る事だ。

時代に追從して居る作家の見苦しさは其出發期が既に立遲れて居る事である。

○衷心の思索

藝術に掉さす雄々しい若者よ！

願くは衷心から湧出する思索に生きよといひたい。

耳から入り込む聲をたどつて何とする。

目から入る光に迷はされて何とする！

○寄生木

植木の若々しい青葉の色！

それは誠に潑溂たる生氣の象徴だ。

だが、一寸待つてくれ給へ。

大木の太い枝の間にあの光澤のある寄生木の葉、それは男性の眼に入るべきものでない！

○模倣

模倣といふ事はそれが建設的であるときは喜ばしい結果を齎らすものだ。

秀でたるものに追從することも惡くない、唯已を忘れてはならない事である。

目的なしに光を追ふ可憐なる虫と、水月の形を捕へんとする無心の手長猿とは似た所がある。

徒らに頭を養ふてヒステリーとならんよりは、むしろ無學て實務の眞理を搏へる人たらん事を望みたい。

○浮草

浮草や今日は向ふの岸につく、といふ句を味ふと何ともいへぬ妙味がある樣に思ふ、時代の流行も吾日本では殊に朝三暮四の感が甚しい。

○地方色

地方色といふ事は地方的風土の環境から求められゝ一種の風致である。そこに何とも申されぬ味を宿す。東京の筑波嵐と、京都の比叡嵐と、大阪の生駒嵐とは夫々異つたる力と味を持つて居るが、三都の建築にも夫々の地方色の在る事は爭はれぬ。

乍然我大阪の建築が東京の建築と比較して田舍臭しとの論評はちよいと受取れぬ樣である、大阪から東京の建築を見ると殺風景であるとより考へられぬ、そしてそれが野趣横溢と申さうよりはむしろ向鉢卷であるかの如く感じられる。尤も復興とやらの途中ではね。

六號雜記



大阪都計公債の使途

大阪市都市計畫事業公債千萬圓の使途は公債の收入で、廣路（淀屋橋以南高麗橋附近までの用地買收）西橫堀線（四ツ橋以南湊町までの用地買收及び擴張工事）九條梅田線（江戸橋の一部用地買收と朝日新聞社前の道路擴張）天滿蒲生線（造幣局附近、淀川橋以東の用地買收並に擴張工事費）天王寺西門阿倍野橋間の用地買收及び擴張工事費にあてるのである。

飛行場設置費

東京、大阪、福岡の三ケ所に航空路を設置するに伴ふ飛行場設置費は、工事費四十七萬七千圓でその內譯左の如し

（單位千圓）

敷地購買	一九七
道路新設	九
工場附屬設備	一二
航空標識設備（八ケ所）	七
信號柱設備	三
地均工事	八〇
事務所新營	二九
滑走臺設備	八〇
起重機設備	六〇

而して大阪木津用飛行場の創設費ことでは約十萬圓振當の由

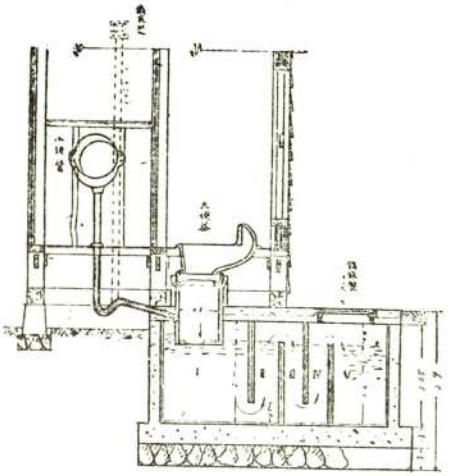
內務省新案の便所

いつか臺灣の生蕃から嘲嗤れたことのある日本の便所に就いては學識ある建築家は皆相當に工夫も考案も巡ぐらして居られるが何と云つても舊習の久しきに渉つて居ることでもあり、且つ現在新に建ちつゝある家屋だつて十の內七八迄は皆舊式の糞尿貯藏式の味噌壺式だから、成程、彼等生蕃から見たならば非常に不潔に見えるのも無理はない、なにしろ彼等は、屋外好適の箇所を隨所に撰び用達をする、大陽は之にも普偏の惠?を垂れ給ひ數時間の後には全く立派な干燥肥料として下さるソレを農夫達が克明に集めて廻るのであるから清潔此の上もなしであ

る若しソレ、豚公に先じられんか、あたら大切なる肥料を無に歸することなる、けれども清潔なる點に於ては寧この方がよいかも知れない兎に角世界一不潔な日本の便所！此の不潔な不快な而も毎日誰もが使用せなければならない所を一日も速く改良して行くことは種々なる意味に於いて日本・共同の必要なる事業だと同時にかなり大き幸福上の問題だと思ふ。

内務省邊で頭痛に病むのも當然のことであらう

次の挿繪は同省新案として發表せられたものであるから御參考迄に轉載することに致しました。



構造（圖の説明）

この改良便所の構造は圖の如く（側面）糞尿投入口とくみ出口との外は密閉する内部は四枚の中隔を設けてⅠⅡⅢⅣⅤの五室とし、第一第三中隔は底面から五寸すかし第二中隔は天井から三寸、第四中隔は天井から四寸隔でⅠ室に落下した糞尿は液下してⅡ室に移り越えてⅢ室に入り潜りてⅣ室に至り溢れてⅤ室に流れ出すようになつてゐる、使用中はⅠⅡⅢⅢの四室は常に糞尿液をもつて充たされてをりⅠ室中に新に糞尿が落下するに應じてそれと同一量の舊き糞尿液がⅢ室よりⅤ室に溢れ出るのである。

これを十人家族の便所として設計するならば長さ七尺一寸六分、幅三尺六寸六分、深さ三尺九寸（土臺とも）この表面積が半坪強であるから大便所と小便所を備へる場合は丁度その床下に收まる面積である、また容積を同一にし長さ、幅深さを相對的に變化しても差支へない、例へば長さ若くは幅を減じて深さを增すことが出來る原則としてはこの便所は深いほど効果がある、壁の厚さは底面三寸ないし五寸、側壁三寸、被蓋二寸五分、中隔一寸五分、外壁の角々には鐵網を入れれゝば堅牢となる。

各室の包擁容積はⅠ室一六、二〇立尺、Ⅱ室六、四八立方尺、Ⅲ室六、二四立方尺、Ⅲ室六、二四立方尺、Ⅴ室（くみ取室容積）一一、七〇立方尺、合計四六、五二立方尺となり一家族十人が一日平均〇、〇三二三立方尺（五合）の排せつ量としてⅠからⅢ室中に百日餘の糞尿を貯へることが出來る、即ちこの便所へ新らしく排せつされた糞尿は約百日後に至つてくみ出されることになる、Ⅰ室が廣いのは糞尿紙綿の數がこの室内で腐敗液化してから次へ移動するのであるからなるべく廣い方がよく、Ⅴ室はくみ取口であるから任意しん縮して差支へはない

（圖の如き寸法にすれば約三十五日分を貯へることが出來るから一月に一回くみ取ればよい）

Ⅰ室とキンカクシを連ねる所は徑八寸の土管を使用するのが便利である。

新選保護建造物

大覺寺宸殿　京都嵯峨町所在―は寛永頃の建築と思はる。之れは後水尾天皇が延寶年間に同寺へ御下賜になつた建物で元は御所の一つの建物であつたと當時の宮殿建築として立派なものである。殊に山樂筆と稱する有名なふすま繪がある。

稻荷神社御茶屋　京都紀伊郡所在。之は元泉洞御所のお庭に建てられたお茶屋であつたのを後水尾天皇より社家の羽倉延次に賜はつたもので、茶室風を加味した書院造、其構圖手法より見れば桃山時代のものに屬すると思はれる

淨土院　京都久世郡所在。之は昔の平等院である。近世では同寺は淨土院、最勝院の二つに分れてゐる。さうして此建物は元平等院の塔頭の養林庵の建物にして寺の傳へでは桃山城から移したものと云つて居る。規模は小だが比較的に自由に設計された書院造り、よく桃山時代の特徴を備へてゐる。

丹生神社本殿　奈良縣添上郡所在。之れは一間社春日造り―棟の銘によれば―嘉吉二年

の建築でよく當時の形式を示して居る。

東光寺藥師堂　山梨縣西山梨所在。本堂は足利時代に於ける禪宗風の小佛殿の一典型である。

寶福寺三重塔　岡山縣吉備郡所在。之れは約四百年前の建築で割合に優秀な塔婆（三重塔）である。

妙本寺鎭守堂　同上所在。之は一間社流造の正面に軒唐破風を有つてゐるもので桃山時代の富麗な裝飾をもつてゐる。

光明坊十三重塔　廣島縣豊田郡所在。之れは石造の十三重塔で此種類としては珍しいもので高さ四間計り規模も大きく永仁二年（鎌倉時代）の建設にかゝり形態整正せる塔である。

安國寺釋迦堂　之は安國寺の惠瓊和尙の居た有名な寺。建築は足利時代に於けるもので割合に優秀な禪宗風の佛殿である。

新築　增築　改築

昨年中大阪市內で新築、增築、改築による家屋施工總數は一萬六千餘棟でありまして、前年よりも三百六十棟少いことになつて居ます、勿論之等の工事は市街地建築物法の適用を受けて出來たものでありますから、從つて諸種の點に於いて舊來の家屋よりも幾分でも新時代に適合して居る譯ですから、大阪市の要素がソレ丈よくなつたとも云ひ得ます。

次に其數字を列べてみます。

總件數に於いて一萬六千四百四十四棟、坪數五十三萬五千二百六十五坪、延坪七十八萬四千五百二十八坪で、內木造が一萬五千九百八十四棟四十六萬三千六百三十四坪、煉瓦造石造は五十六棟、一萬八千三十五坪、鐵骨造鐵筋コンクリート造が四百十四棟、五萬三千五百九十六坪であるが、これを使用別にすれば住宅用が八千七百二十二棟、二十三萬四千三百五十五坪、商業用が四千二百二棟、十三萬九千六十四坪、工業用が二千八百二十四坪、十三萬六千七百八十九坪である、これを前年度に比較すると棟數に於いて三百六十二、坪數四千六百五十二坪の減少となつて居ます。

請負工事に對する新判決例

請負人が工事を引受けて、大體その竣工期限を定めてあるに拘らず、その工事を放棄して少しもこれを顧みず、到底その期限までに竣工の見込がないことが確實になつたため、注文者がその契約を解除した。これに對し請負人はこれを不當として係爭となつた。

請負人は、民法第六百四十一條『請負人が仕事を完成せざる間は注文者は何時にても損害を賠償して契約を解除することを得』の規定に準據してこれを爭はんとしたのである。この係爭はついに、大審院の審理にまでのぼつたのであるが、同院民事部は左の如き判決を下した。

卽ち、この事柄は、民法第五百四十三條の『履行の全部又は一部が債務者の責に歸すべき事由に因りて不能となりたるときは債權者は契約の解除を爲すことを得』との規定に當つて居るから解約は當然であるとの云ふのである。

しかして、前記民法第六百四十一條は注文者に一般の契約の解除權以外に特殊の解除權を與へたるに過ぎないものであり、隨つてこれが爲めに一般の契約解除權の適用を除外したものでないことを明確ならしめたものである。

請負人に於て爲すべき工事あるに拘らず漫然放棄して顧みず、しかもこれが爲めに取引の通念に照して約定の竣工期限到來迄に到底その工事を請負人に於て完成せしめることが出來ない事實が明確となつた場合は、民法第五百四十三條にいはゆる履行の全部または一部が債務者（請負人）の責に歸すべき事由に依つて不能となつたときであるに該當するから、債權者である注文者はたとひ竣工期限の到來以前でも同條に依つて請負契約を解除することが出來るものと云はなければならない。彼の民法第六百四十一條は請負契約の性質に鑑み注文者に一般の契約解除權以外に特殊の解除權を與へたに過ぎないもので、これが爲に一般の契約解除權の適用を除外したものではない。

（大正十五年（ネ）第二百五十號　大審院民事部第一部言渡）

祝融の災

人間の最も恐はいものとしてゐる四つの内、火災程始末の悪いものはあるまい、而も地震等と異り殆ど十が十迄人間自身が自ら招いた災厄である。今内務省警保局調査に基く大正十四年中の我が國の火災統計を見るに、火災數に於いて一萬二千三十五件を算し、其の損害額の大きなることは吃驚の外なき數字を示して居る、即ち六千八百六十一萬三千七百二十四圓と云ふ甚大なるものである。今若し此の金額を火災防止方面に使用するとしたならば現在の消防設備の約七倍の威力を增すことゝなるであらう、其の結果齎らす所の國民の幸福は怎麼に大きものであらうか。

更に大阪市と東京市との火災を比較して見れば

	件數	世帶	損害
東京	四四四	一、四二九	二、二四八、一四一圓
大阪	六三七	七八六	一、五七八、四九九圓

にして大阪市民一人當りの損害は七十四錢に當る勘定となる、東京市民の一人當り三圓三十二錢に比しては少ないと云ひ得るが、然も此の損害は何等益を生じるものでなく常に之が爲に都會生活の不安の大半を與へられて居ることを思えば建築方面の注意は更なり、建物の下に住むもの亦最善の注意を怠つてはならないのは當然のことであらねばならないと思ふ。

×

今試に本年初頭から六月末迄に起つた可なり大きな火災ばかりを列記して見ますと

二月廿五日　岩手縣下閉伊郡小國村で約八十戸を燒いて居るのを初めとして、三月九日矢張同縣遠野町で六十一戸燒いて居る、秋田縣の花岡鑛山で三月六日八十戸計り燒いて居ります。

三月廿七日に阪神沿線武庫川緣で豐年石油會社社宅の全燒九十六戸はまだ讀者の記憶に新たなる所です。

翌廿八日には秋田能代町で二百戸全燒と云ふ大ものもあります、ずつと遠方では十九日の臺南の七十戸燒失の大火がありました。

×

本年四月は大火月と申してもよい位大きなもの計であります、即ち秋田縣土崎町の七十九戸燒、東京千駄ケ谷の六十五戸燒、同じく東京大井町の六十七戸燒がありますず、樺太の八百戸と云ふ大火は本斗町全滅の姿であります。

ソレから例の同月二十一日の金澤の大火でありますず全燒七百三十餘戸而も當日は猛雨中にも拘はらず僅か三時間半で金澤市の目拔の場所を燒いて終つたのであります。

此火災は寶曆九年以來なかつた大火だそうです

同日福井縣坂田部町で二百戸燒いて居ます

其の翌日の二十二日には夕張の全燒二百五十戸があります

之も北海道で美唄炭山で百五十戸燒いて居ます

同月二十七日　に鳥取市で三百餘戸燒失して居ます、此の火事も同地では百十年前同市全燒後の大火だそうです。

×

五月の月も四月に劣らない大火月であります。

先づ大分縣大山村五十三戸の燒失は戸數の上では今迄列記のものに劣りますが山村の五十三戸は其の面積に於いてかなり廣いものです、損害も亦十萬圓以上のことです

五月二日の膽振國伊達町の二百三十戸燒失なぞ大火と云えませう。五月十三日小樽の五百戸全燒の大火がありますず、北海道はよく大火を起して居ます。

次に、帝室の御料林迄燒いた彼の木曾福島の大火であります、福島は總戸數千三百でありますから此大火に依つて失はれた、六百戸は約半數となる譯です、同所も山國であり水利は惡しく防火には殆ど手のつけ樣がなかつたらしいのです。

岡山縣では矢掛町で五月二十二日七十七戸を烏有に歸して居ます。

最後に五月末日弘前の四百戸全燒罹災者四千人と云大火がありました

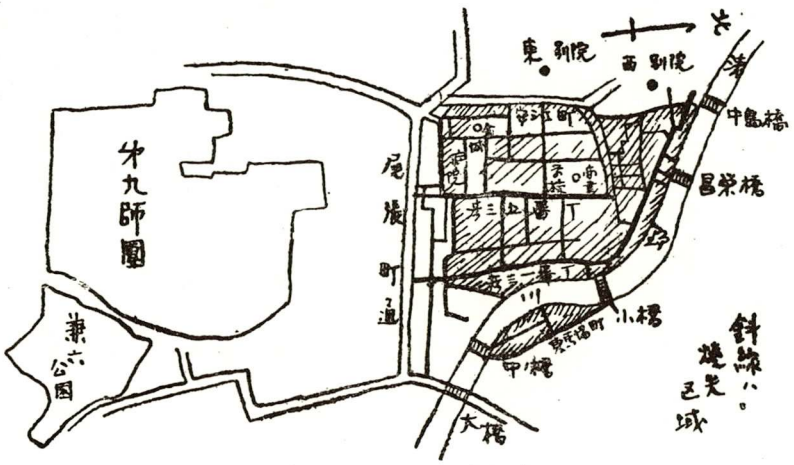
×

序に六月中のものを報導致しますと。

十九日に新潟縣見附町で百八十餘と工場二棟、土藏十四棟とを燒失して居ます。

越えて廿四日には秋田縣愛宕町で二百十七戸全燒、同日福井縣南條郡河野村で百五十戸燒失、同村は僅かに百八十戸の村落ですから三十戸を殘したに過きない譯です。

大阪市内に於きましては本年は今迄には幸に大火なぞはありませんでしたが、只六月十九日の高島屋の八階の餘興場を全燒したことはかなりのセンセーションを起したようです。



金澤大火の略圖

之に就いては府の建築課長及岩上保安課長の兩氏の意見とこう云つた事柄に直接影響を受ける三越の竹內支店次長と當の高島屋店員との意見が發表せられて居る。

先づ津田建築課長の談として府の建築臺帳にはあの天幕張餘興場を許可した形跡がないやうだ。あるひは暗默の中に當局の諒解を得て從來やつてゐたのもかも知れぬが、とにかく調べてゐる、こうした屋上の集會場程危險なものはなく昨年三越屋上の放送局は公共的ではあらうがやかましくいつて、上本町へ移轉せしめた次第である。今後あのやうな建築物では絶對に許可しない方針である。

次に岩上保安課長の談として百貨店の演藝場が大抵屋上にあるので一時は劇場取締規則を適用してやらさぬことにしようかとも思つたがそれも不穩當のやうに考へられたので昨年十月營業者を招き一ケ月十日間より集會を許さぬと云ふことに申渡しておいた。

今度の出火原因も調べて見ぬと判らぬがその施設も完全に出來てゐたかどうか、かうしたことが出來ては今一應考慮の必要を認める。

屋上が安全

（竹內三越支店次長談）

私の方では目下のところ屋上建物としては百廿坪ばかりの餘興場があるが、別に取締規則にはづれてはゐない、またこの種の催し物をする場所は屋上が一番危險率がすくないと思ひます。昨年十月に市內デパート營業者に對して出た建築課の一ケ月に十日の集會規程も守つてゐて、何等暗默の諒解といふやうなものは得てゐない。今後この種の屋上建物を府の方が全く許可しないといふやうなことになればそれは非常に營業上困ることです。

營業上困る

（高島屋店員談）

過日燒けた屋上の集會場は天幕張りで建築物といふ程のものでなく許可は受けてあります。今度の火災の場合ですが、私の方では非常階段が設けてあつたので、來場のお客樣には何等危險がありませんでした目下のところでは再度設置するか、どうかはまだ定まつてゐませんがもし許可がないとすれば營業方策上困ると思ひます、出來得るかぎりバルコニーをお客樣のために使ひたいと思つてゐるんですが……。

都市及建築ニ關スル勅令法令其他

自一月至五月

内務省令第五號

市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

戸畑市

附則

本令ハ昭和二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

内務省令第六號

市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

沼津市

附則

本令ハ昭和二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

都市計畫區域認可

一、札幌市

一、札幌郡ニ於ケル都市計劃區域ハ昭和二年一月十一日附ヲ以テ認可

一、長野市

一、上水内郡安茂里村、大豆島村都計區域ハ昭和二年一月二十一日附ヲ以テ認可

一、堺都市計劃事業竝執行年度割左ノ通決定ノ件認可

堺都市計劃事業

街路ノ部

第一、街路ノ新設及擴築竝位置及幅員左ノ通定ム

一、二等大路第類

第一號線（三寶淺香山線）

錦之町十四番地ノ一ヨリ向陽町二百二十六番地ヲ經テ南海鐵道高野線ヲ横切リ淺香山町九百八十番地ノ三ニ至區間　幅員八間

但シ向陽町二百四十九番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ　幅員六間

二、二等大路第三類

第一號線（三寶向陽線）

材木町東四丁八番地ヨリ同町東四丁七番地ニ至リ左折シ向陽町八十九番地ニ於テ一等大路第三類第二號線ニ接スル區間　幅員六間

第四號線（湊汐宮線）

出島町六百三番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第一號線ヨリ分岐シ南海鐵道本線及同阪堺線ヲ横リ元舳松村千八百八十一番地先ニ至ル區間　幅員六間

第二、事業ノ實施當リ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ニハ都市計劃大阪地方委員會限リ之ヲ變更スルコトヲ得

第三、街路ノ新設擴築事業執行年度割左ノ通定ム

昭和二年度	約一割四分六厘
昭和三年度	約一割四分一厘
昭和四年度	約一割四分九厘
昭和五年度	約一割六分九厘
昭和六年度	約一割六分四厘
昭和七年度	約一割六分九厘

右公告ス

昭和二年一月二十四日

京都都市計劃街路左ノ通決定ノ件認可ス

京都都市計劃

街路ノ部

第一　街路ノ等級及幅員ハ左ノ標準ニ依ル

一　廣路　幅員四十四米以上

二　一等大路ハ左ノ三類トス

第一類　幅員三十六米以上

第二類　幅員二十九米以上

第三類　幅員二十二米以上

三　二等大路ハ左ノ三類トス

第一類　幅員十八米以上

第二類　幅員十五米以上

第三類　幅員十一米以上

第二　橋梁ノ主要部ハ鐵、石、鐵筋「コンクリート」等不燃質耐久材料ヲ以テ築造スルモノトス

第三　前二項ニ定ムルモノヲ除クノ外街路及橋梁ノ築造ニ關シテハ大正八年十二月内務省令第二十五號街路構造令ノ定ムル所ニ依ル

第四　街路ノ新設及擴築竝位置及幅員左ノ如シ

一　一等大路第三類

第一號線	幅員二十二米
第二號線	幅員二十二米
第三號線	幅員二十二米
第四號線	幅員二十二米

幅員二十二米	府縣道京都貴船線	東側法敷内	十一米
	同上		四米
	同上	西側法敷外	七米

第五號線　幅員二十二米

二　二等大路第二類

第一號線　幅員十五米
第二號線　幅員十五米
第三號線　幅員十五米

三　二等大路第三類

第一號線　幅員十五米
第二號線　幅員十五米
第三號線　幅員十五米
第四號線　幅員十一米
第五號線　幅員十一米
第六號線　幅員十一米
第七號線　幅員十一米
第八號線　幅員十一米
第九號線　幅員十一米
第十號線　幅員十一米
第十一號線　幅員十一米
第十二號線　幅員十一米
第十三號線　幅員十一米
第十四號線　幅員十一米
第十五號線　幅員十一米
第十六號線　幅員十一米
第十七號線　幅員十一米
第十八號線　幅員十一米
第十九號線　幅員十一米
第二十號線　幅員十一米
第二十一號線　幅員十一米
第二十二號線　幅員十一米
第二十三號線　幅員十一米
第二十四號線　幅員十一米
第二十五號線　幅員十一米
第二十六號線　幅員十一米
第二十七號線　幅員十一米

第二十八號線　幅員十一米
第二十九號線　幅員十一米
第三十號線　幅員十一米
第三十一號線　幅員十一米
第三十二號線　幅員十一米
第三十三號線　幅員十一米
第三十四號線　幅員十一米
第三十五號線　幅員十一米

右公告ス

昭和二年二月一日

岡山都市計畫街路左ノ通決定ノ件認可ス

岡山都市計畫

街路ノ部

第一　街路ノ等級及幅員ハ左ノ標準ニ依ル

一　廣路　幅員二十四間以上

二　一等大路ハ左ノ三類トス

第一類　幅員二十間以上
第二類　幅員十六間以上
第三類　幅員十二間以上

三　二等大路ハ左ノ三類トス

第一類　幅員十間以上
第二類　幅員八間以上
第三類　幅員六間以上

第二　橋梁ノ主要部ハ鐵、石、鐵筋「コンクリート」等不燃質耐久材料ヲ以テ築造スルモノトス

第三　前二項ニ定ムルモノヲ除クノ外街路及橋梁ノ築造ニ關シテハ大正八年十二月内務省令第二十五號街路構造令ノ定ムル所ニ依ル

第四　街路ノ新設及擴築竝位置及幅員左ノ如シ

一　一等大路第三類

第一號線（驛前縣廳線）　幅員十三間半
第二號線（柳川線）　幅員十二間
第三號線（瓦町線）　幅員十三間半

但シ起點ヨリ天瀨南町五十三番地ニ至ル區間ハ幅員八間トス

第四號線（驛前鹿田線）　幅員十二間トス
第五號線（驛前原尾島線）　幅員十二間

但シ起點ヨリ萬町七番地地先ニ至ル區間ハ幅員十三間半トス

第六號線（内山下線）　幅員十二間
第七號線（南方三門線）　幅員十二間
第八號線（番町北方線）　幅員十二間
第九號線（大學前線）　幅員十二間
第十號線（大供野田線）　幅員十二間
第十一號線（西部縱貫線）　幅員十二間
第十二號線（津島竹田線）　幅員十二間
第十三號線（旭東線）　幅員十間二
第十四號線（網濱大元驛線）　幅員十二間
第十五號線（福濱線）　幅員十二間
第十六號線（網濱三蟠線）　幅員十二間

二　二等大路第二類

第一號線（下石井内山下線）　幅員八間
第二號線（下石井島田線）　幅員八間
第三號線（天瀨二日市線）　幅員八間
第四號線（小原町網濱線）　幅員八間
第五號線（中納言線）　幅員八間
第六號線（廐井線）　幅員八間

三　二等大路第三類

第一號線（相生橋線）　幅員六間
第二號線（大元線）　幅員六間
第三號線（津島萬成線）　幅員六間

第四號線（津山街道線）　幅員六間
第五號線（北方三野線）　幅員六間
第六號線（南方練兵場線）　幅員六間
第七號線（原尾島線）　幅員六間

右公告ス

昭和二年二月十二日

和歌山都市計畫區域左ノ通決定ノ件認可ス

一、和歌山市

一、海草郡　中ノ島村、宮村、宮前村、岡町村、和歌浦町、雜賀崎村、雜賀村、湊村ノ一部（紀ノ川左岸一圓）

右公告ス

昭和二年二月二十四日

新潟都市計畫街路左ノ通決定ノ件認可ス

新潟都市計畫

街路ノ部

第一　街路ノ等級及幅員ハ左ノ標準ニ依ル

一　廣路　幅員二十四間以上

二　一等大路ハ三類トス

第一類　幅員二十間以上
第二類　幅員十六間以上
第三類　幅員十二間以上

三　二等大路ハ左ノ三類トス

第一類　幅員十間以上
第二類　幅員八間以上
第三類　幅員六間以上

第二　橋梁ノ主要部ハ鐵、石、鐵筋「コンクリート」等不燃質耐久材料ヲ以テ築造スルモノトス

第三　前二項ニ定ムルモノヲ除クノ外街路及橋梁ノ築造ニ關シテハ大正八年十二月內務省令第二十五號街路構造令ノ定ムル所ニ依ル

第四　街路ノ新設及擴築竝位置及幅員左ノ如シ

一　一等大路第三類

第一號線　幅員十五間
第二號線　幅員十三間半

但シ石山村大字鵜又八百五十八番地ヨリ同村大字下木戸百三番地ノ乙ニ至ル區間ハ幅員十二間、同地點ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十一間トス

第三號線　幅員十二間

但シ地點ヨリ寄居町三百四十三番地ノ十五ニ至ル區間ハ幅員十五間トス

第四號線　幅員十二間
第五號線　幅員十三間半

但シ學校町通貳番町五千二百九十一番地コリ關屋三百七十六番地ノ一ニ至ル區間ハ幅員十二間、同地點ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員九間トス

第六號線　幅員十三間半

但シ鳥屋野村大字笹口百七十九番地ノ甲ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員八間トス

第七號線　幅員十二間

但シ沼垂二千三百十四番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十一間トス

第八號線　幅員十三間半
第九號線　幅員十二間

二　二等大路第一類

第一號線　幅員十一間

三　二等大路第二類

第一號線　幅員八間

但シ石山村大字馬越五百九十六番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員六間トス

第二號線　幅員八間

但シ石山村大字鵜又五百五十四番地ノ一ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員六間トス

第三號線　幅員八間

但シ鳥居野村大字出來島百五十三番地地先ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員六間トス

第四號線　幅員八間

但シ起點ヨリ學校町通三番町四百七十九番地ニ至ル區間ハ幅員六間トス

第五號線　幅員八間
第六號線　幅員八間

但シ鳥屋野村大字米山十九番地ノ甲ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員六間トス

第七號線　幅員八間
第八號線　幅員八間

但シ起點ヨリ橫七番町通二丁目四千九百二十六番地ノ一ニ至ルノ區間ハ幅員六間トス

四　二等大路第三類

第一號線　幅員六間
第二號線　幅員六間
第三號線　幅員六間
第四號線　幅員六間

但シ起點ヨリ沼垂三千七百三十番地ニ至ル區間ハ幅員八間トス

右公告ス

昭和二年二月二十五日

○內務省令第十二號

防火地區建築補助規則中左ノ通改正ス

昭和二年三月十五日

内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達　謙藏

第四條ノ二　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理施行ノ爲移轉スルコトヲ要スル外壁耐火構造ノ建物ノ敷地ノ換地又ハ換地豫定地内ニ於テ第一條ニ該當スル建物ノ新築又ハ增築ヲ爲ストキハ補助金額ヲ減シ又ハ補助金ヲ交付セサルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第三十五號

都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

旭川市　八王子市　姫路市　明石市
高崎市　宇都宮市　足利市　宇治山田市
四日市市　沼津市　甲府市　上田市
郡山市　福島市　秋田市　福井市
尾道市　徳島市　今治市　久留米市
別府市　宮崎市

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

内務省令第十一號

東京都市計畫事業道路（環狀線、放射線）受益者負擔ニ關スル件左ノ通定ム

昭和二年三月八日

内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達　謙藏

第一條　東京府ハ大正十年十二月内務省告示第二百四十五號ニ依リ東京府知事ニ於テ執行スル**東京都市計畫事業道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ニ充ツル爲本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ費用ヲ負擔セシムヘシ**

第二條　大正九年九月内務省令第二十八號ノ區劃ハ道路ノ附近ニ於テ道路ノ境界線ヨリ道路ノ幅員ノ七倍ノ地域トス

前項ノ地域内ニ於ケル道路、河川、溝渠、堤塘等地物ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ**内務大臣**ハ之ヲ以テ**負擔區劃**ノ限界トスルコトヲ得

第三條　路線、道路ノ幅員、事業執行年度、土地ノ狀況等ニ依リ府知事ハ**負擔區劃**ヲ細分シテ**負擔區**ヲ定ム

第四條　受益者ノ負擔スヘキ金額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ三分ノ一道路擴築ノ場合ハ其ノ事業費ノ四分ノ一トシ**負擔區**毎ニ之ヲ定ム但シ第二條第二項ノ規定ニ依リ**負擔區劃**ノ限界ヲ定メタル場合ニ於テハ第二條第一項ノ地域内ニ在ル限界外ノ土地ニ付負擔金ヲ**負擔**スヘキモノトセハ其ノ**負擔**金額ハ之ヲ控除ス**負擔區**内ニ**負擔**金ヲ負擔セサル土地アル場合ニ於テ其ノ土地ニ付負擔金ヲ**負擔**スヘキモノトセハ其ノ**負擔**金額ニ付亦同シ

道路擴築ノ場合ニ於テ其ノ擴築スヘキ部分ノ平均幅員カ舊道路ノ平均幅員ノ三倍以上ナルトキハ前項ノ適用ニ關シテハ之ヲ道路新設ト看做ス

第五條　府知事ハ**負擔區**ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帶トシ一定ノ率ニ依リ各地帶ノ**負擔**額ヲ定ム

第六條　新設又ハ擴築スル道路ニ接スル地帶内ニ在リテハ其ノ地帶ノ**負擔**額ノ三分ノ一ヲ土地ノ道路ニ接スル部分ノ長ニ比例シ其ノ三分ノ二ヲ土地ノ面積ニ比例シ、其ノ他ノ地帶内ニ在リテハ其ノ地帶ノ**負擔**額ヲ土地ノ面積ニ比例シテ各受益者ノ負擔金額ヲ定ム

第七條　同一ノ土地ニテ重複シテ道路ノ新設又ハ擴築ノ費用ヲ負擔スヘキ關係ニ該當スルモノニ付テハ其負擔ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

地形ニ依リ斟酌スヘキ**必要アリト認ムルトキハ負擔**金ヲ減免スルコトヲ得

第八條　**負擔**金ハ事業費豫算額ヲ以テ其ノ負擔區ノ事業著手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム但シ第二項ノ納付期間内ニ受益者ニ異動アリタルトキハ新ニ受益者トナリタル者ヨリ殘額ヲ納付セシム前項ノ**負擔**金ハ七年間ニ均分シテ納付セシム

第一項ノ負擔金カ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ府知事ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　第二條第二項ノ規定ニ依ル**負擔區劃**ノ限界、**負擔區**、第五條ノ地帶及率、事業費豫算額及精算額竝事業著手ノ日ハ府知事之ヲ告示スヘシ

第十條　道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ補足スル爲、土地、物件、**勞力**又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍内ニ於テ負擔金ヲ減免スルコトヲ得府知事カ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者ニ對シテ亦同シ

第十一條　本令施行ノ際既ニ著手セル事業ニ付テハ**本令施行ノ日ヨリ以テ事業著手ノ日ト看做ス**

第十二條　本令施行ニ關シ**必要ナル事項ハ府知事之ヲ定ム**

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）　大正九年九月六日**内務省令第二十八號ハ都**市計畫法施行令ノ規定ニ依リ事業執行ニ要スル費用負擔者**指定**ノ件、同十年十二月十七日同告示第二百四十五號ハ東京都市計畫事業ヲ執行スヘキ行政廳ハ東京府知事トスルノ件ナリ（以下次號）

東神倉庫新築工事概要

所在地 神戸市新港町（稅關構內第一、第二突堤根元地）

工程
起工　大正十四年三月十日
竣工　大正十五年十月九日

敷地面積 貳千七百五拾參坪九合壹勺壹才
內譯
東　一、六六九坪八二三
西　一、〇八四坪〇八八

建坪 貳千參百七拾九坪八勺參才、四階建壹部五階建
內譯
東　一、四二七坪六〇一
西　九五一坪四八二

總延坪 壹萬坪

構造概要
本建物は二棟の鐵筋コンクリート造にして共に相類似せる構造を有し屋上機械室を加へて五階建なり

防熱設備
東西兩倉庫四階は特に盛夏の暑熱を避くる爲め「メタルラス」張り「ドロマイト」塗りの天井を設け啓正式「ベンチレーター」を設備す

消火設備
（一）市水道管より分岐管を設け之を東倉庫屋上に設けたる「プレッシュアタンク」に導き東西倉庫各階天井に裝置したる「グリンネル」式「オートマチックスプリンクラー」に接續し火災の場合は自動的に噴水消火し同時に警報を發するものとす
（二）東西各階南北荷役場に各一個の防火栓を特設し延長二百尺の「ホース」を箱內に裝備す

電燈及電力設備
（一）電力は東西各倉庫屋上機械室內の變電室に導き之を動力用及電燈用として夫々變壓配電し配線は總て「コンヂットチューブ」を使用し電燈線の外全部「コンクリート」內に埋設施工したり
（二）荷役場及倉庫內には五十燭光の電燈を適宜配置し街路に面する外壁には百五十燭光の電燈を取付け夜中荷役に便し此內數個を常夜燈としたり
（三）各倉庫內外の要所に荷役機械用として動力用「プラッグ」を設置す

荷役設備
鐵道專用側線
東西兩倉庫北側荷役場に接して專用の鐵道引込線を設け貨車積貨物の荷役用として輕便なる移動式「コンベヤー」及「デリツキ」等を設備せり

『電氣クレーン』
南側護岸上に電氣「クレーン」三臺を設け艀荷役に備ふ

『貨物用エレベーター』
東倉庫に四臺西倉庫に三臺の貨物用「エレベーター」を裝置各臺積載容量八千五百封度昇降速力每分百呎なり

『ホイツプホイスト』
東西兩倉庫の各要所に總計二十二ケ所の「ホイツプホイスト」を設備し約其半數移動式の「ホイスチングマシン」を屋上に置き任意の荷役口に於て之を運轉使用し得る裝置をなせり各一個の容量半噸とす

『電氣トラクター』
本倉庫は鐵道引込線の「プラットホーム」を特に軌條面と同一平面とし大形の貨物用「エレベーター」を設備し「電氣トラクター」が各階に自由に出入し得る裝置となし以て荷役能率の增進を企てたり

生糸保管特別設備
東倉庫北面寄り約一、六〇〇坪は木造床張りとし間仕切を設け特に換氣を計り事務室、作業室、拜見窓を設け且つ暖房裝置を施し理想的の生糸保管設備をなす

其他の設備
休憩室
荷役場屋上機械室內各所に木骨らす張りモルタル塗の小室通計六十二坪を設け本倉庫關係者の休憩所並に湯沸場に當てたり

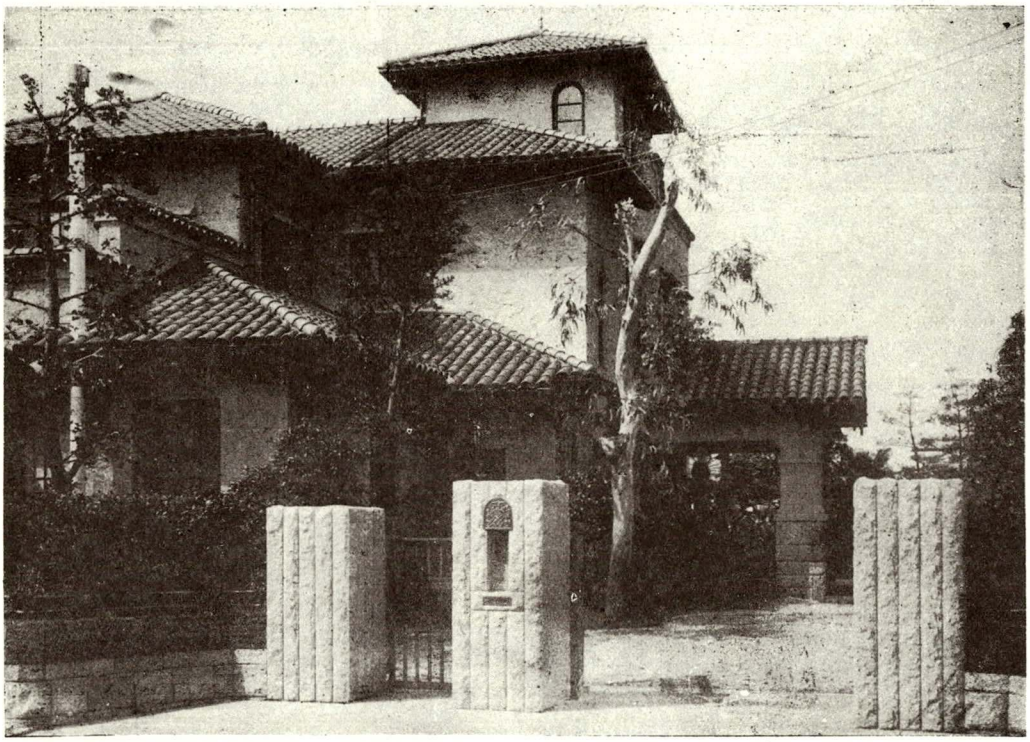
客用昇降機
東西各倉庫に一臺宛積載量三、五〇〇封度速力每分百五十呎の客用エレベーターを備へ同時に輕量貨物の運搬にも兼用し得るものとす

暖房裝置
東倉庫東北隅の空地に「ボイラールーム」を設け蒸氣暖房裝置を施し之より各階生糸倉庫及休憩室に設けたる放熱器に送汽するものとす

衛生設備
各階各荷役場階段寄りに水洗式便所及手洗場を設け一階荷役場下に汚水處分槽を設けたり

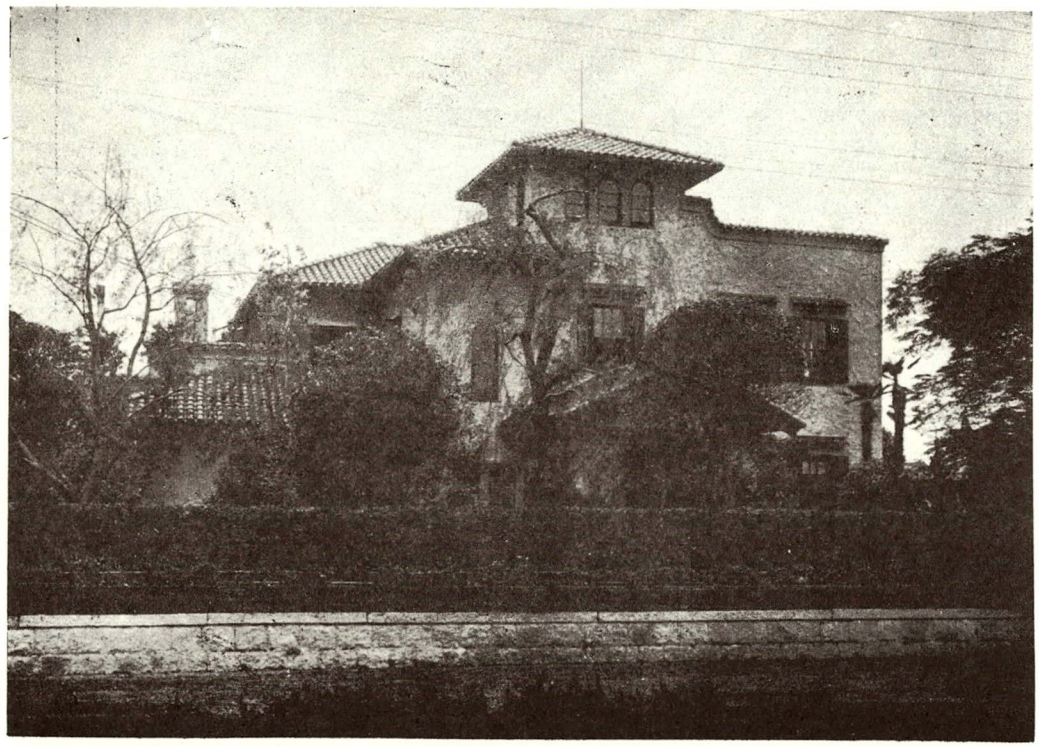
避雷針
本器は「ベントハウス」「タンクハウス」等の屋上其他に高さ二十尺のもの東西兩倉庫に通計十八基を設備す

設計監督　東神倉庫株式會社
同顧問　工學博士　內藤多仲
建築請負者　大倉土木株式會社



今津町　百瀬博士邸（外觀一）

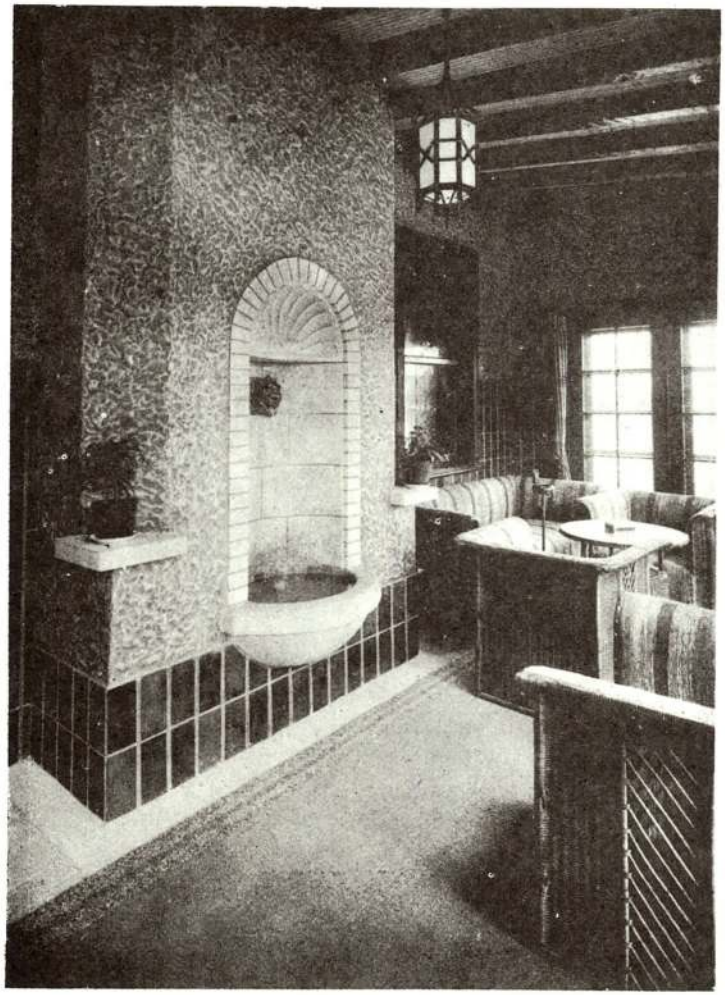
設計施工　大林組



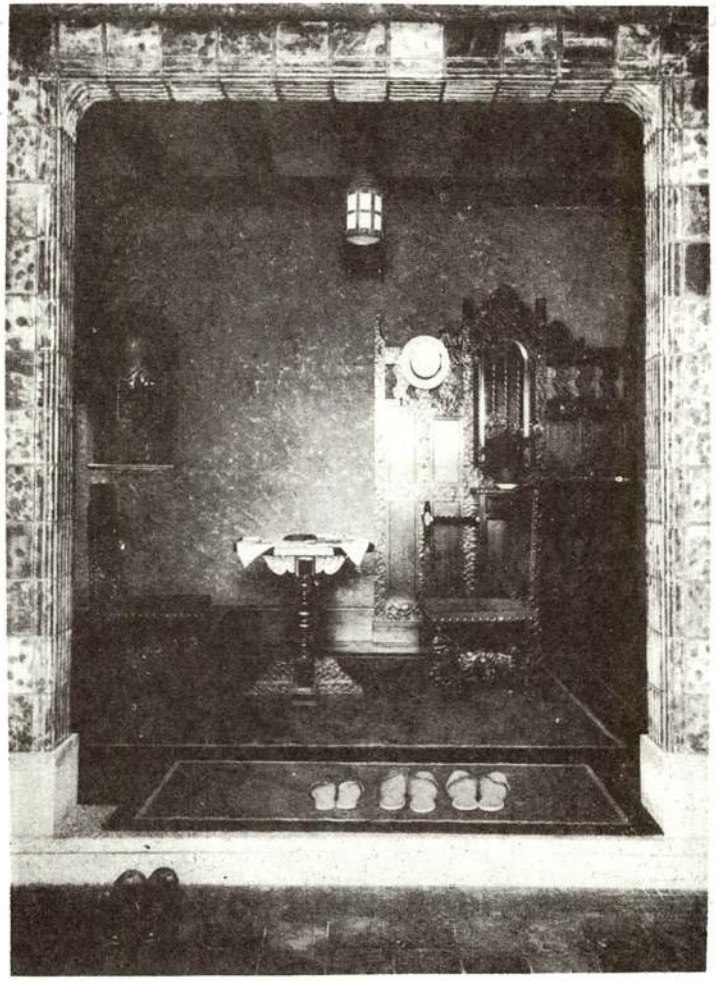
今津町　百瀬博士邸（外觀二）

設計施工　大林組

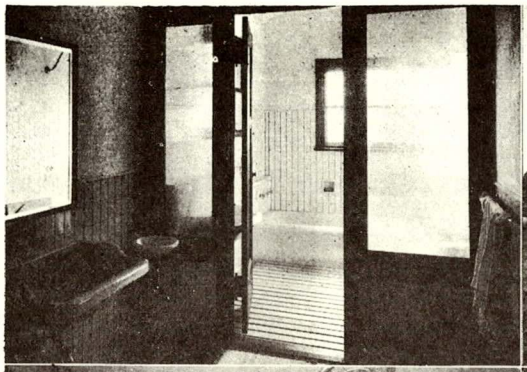
（照參頁七十五）



今津町　百瀬博士邸（ベランダー）　同　上



今津町　百瀬博士邸（玄關ホール）　同　上



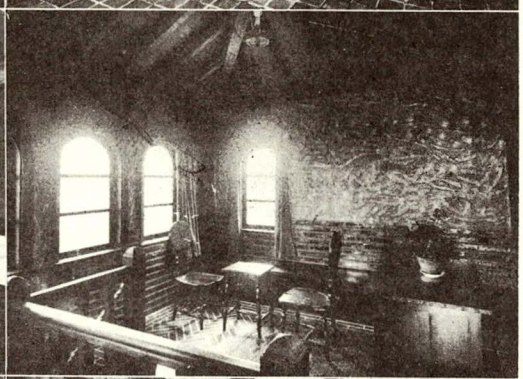
百瀬邸（階上浴室）



百瀬邸（塔屋及バルコニー）



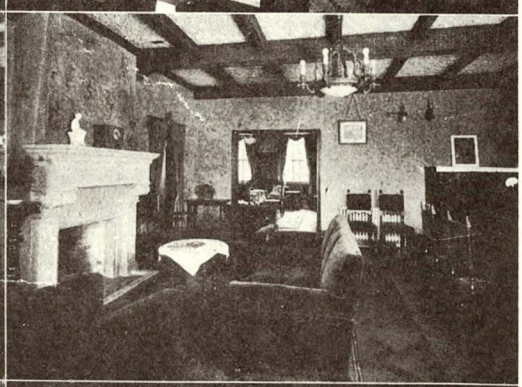
百瀬邸（第一寝室）



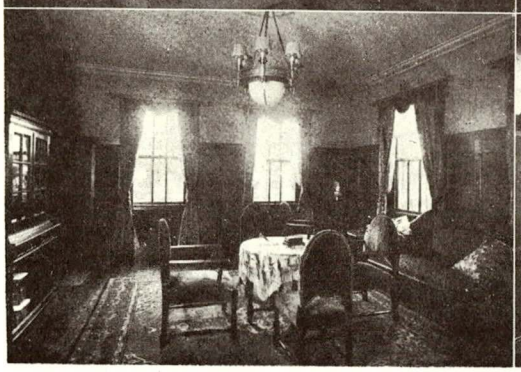
同内部



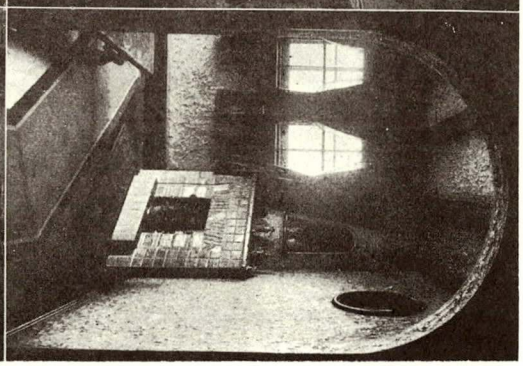
百瀬邸（階上書斎）



百瀬邸（階下居間兼食堂）



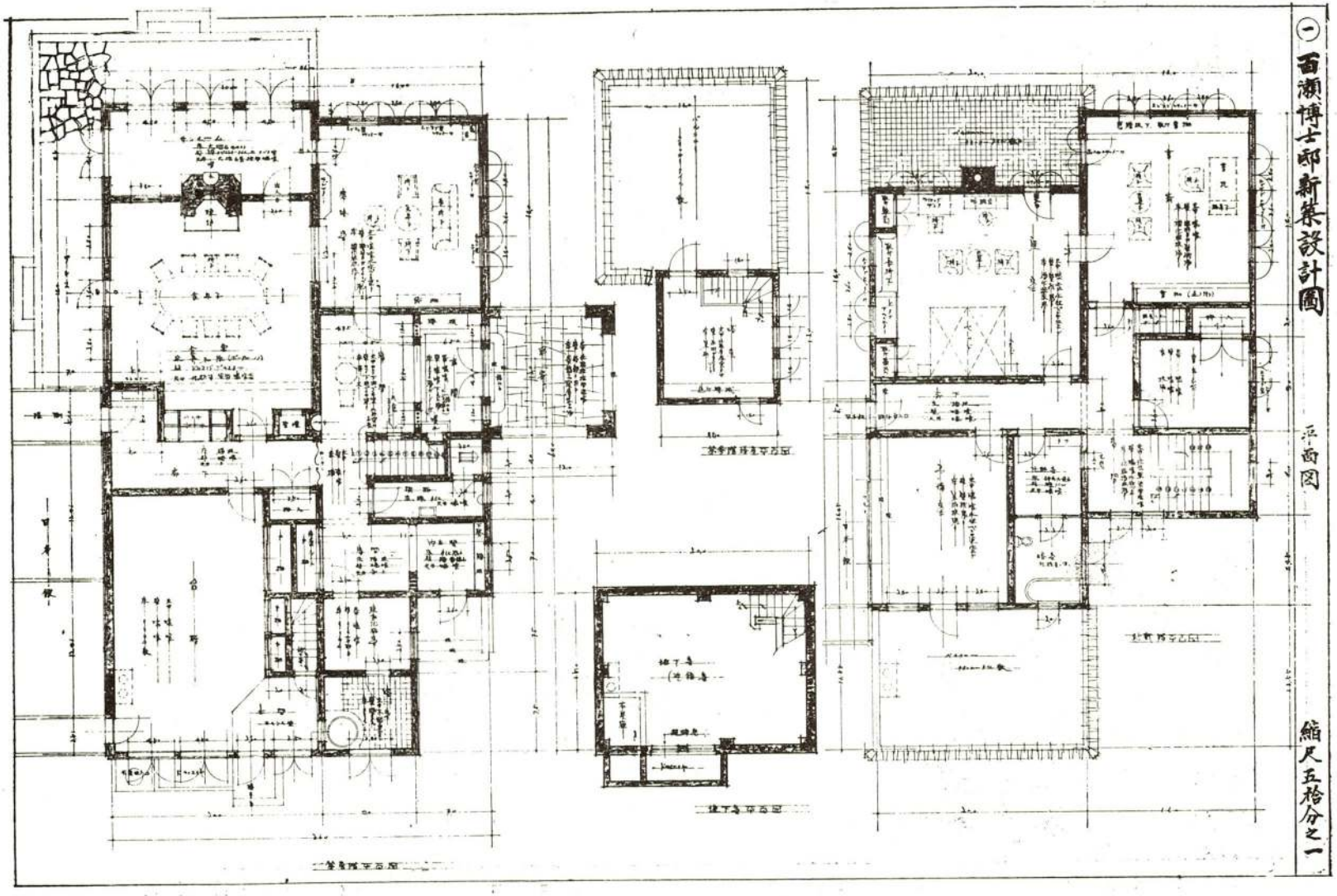
百瀬邸（階下應接室）



百瀬邸（階上ホール應接室）

今津町　百瀬博士邸

組　大林　計工設施



㈠ 西瀬博士邸新築設計圖

平面図

縮尺五拾分之一

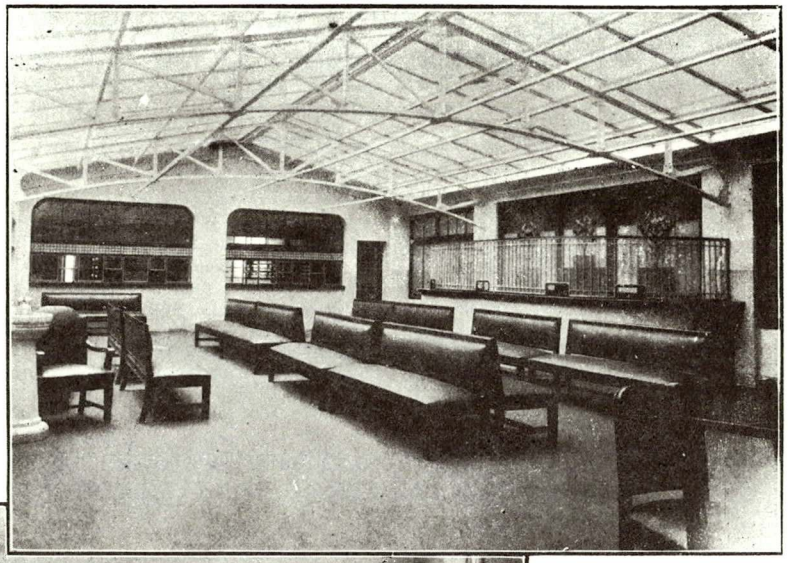


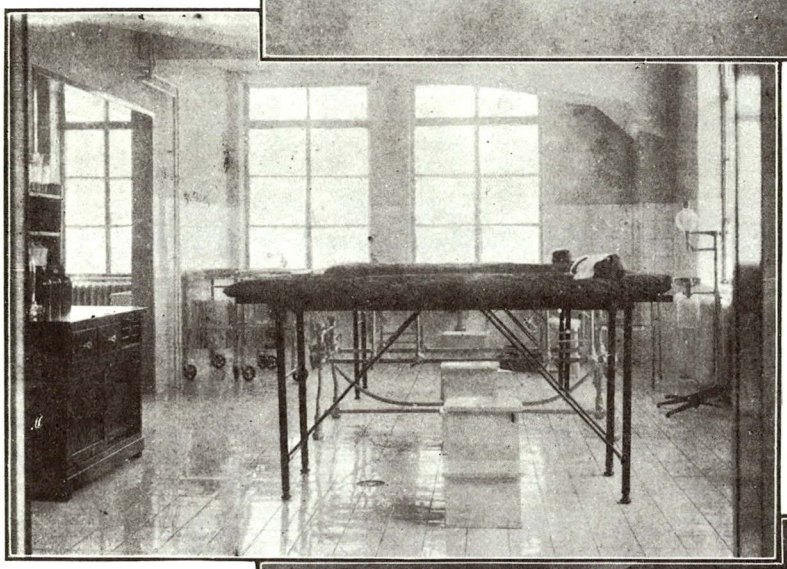
大阪　大同病院外觀

（照參頁八十五）

設計施工　竹中工務店

大同病院待合室



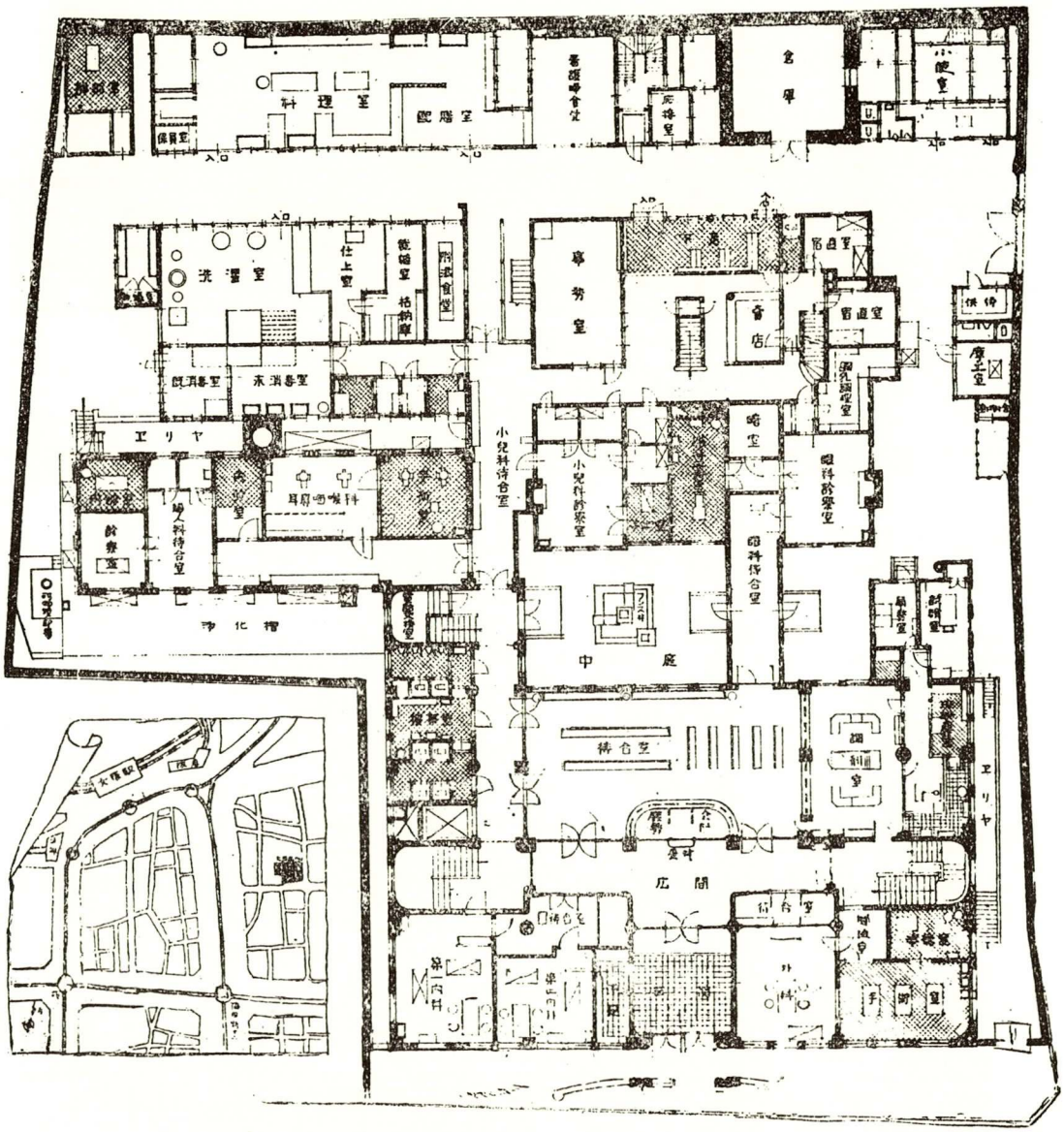


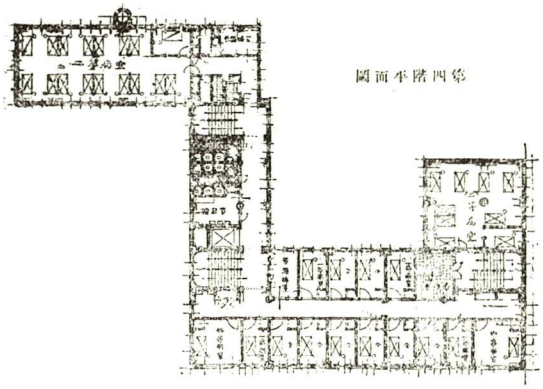
大同病院手術室



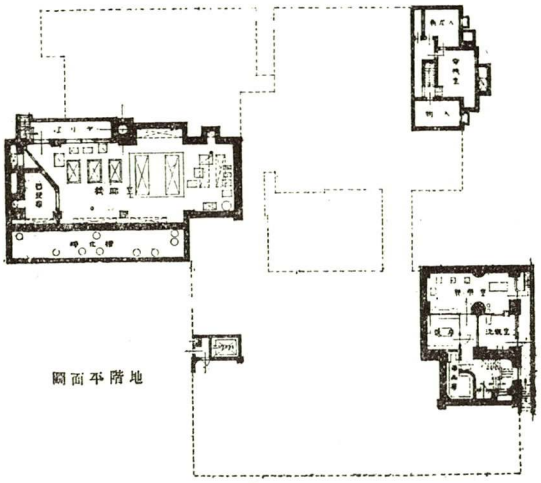
大同病院入院室

竹中工務店 設計施工

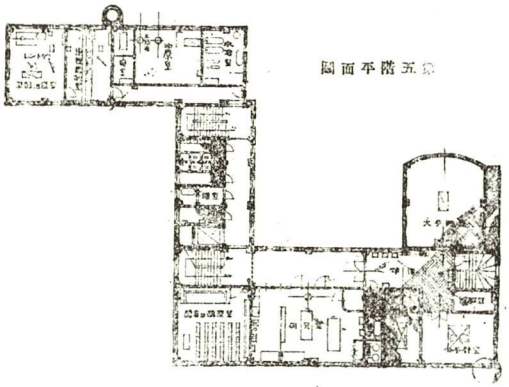

入口
入口
入口



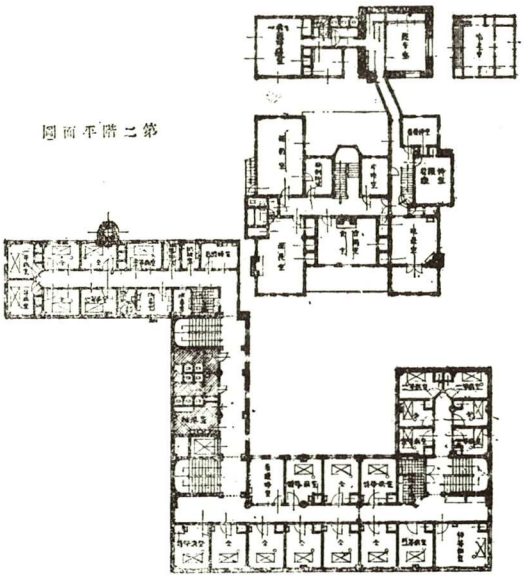
第四階平面圖



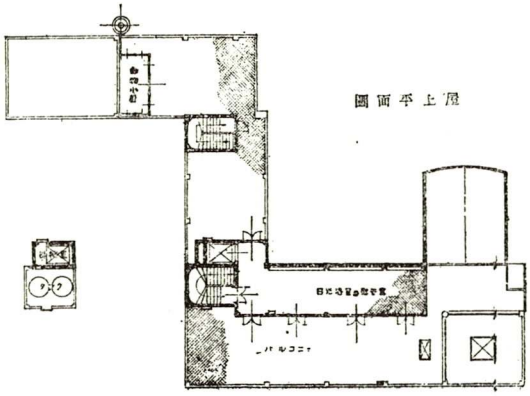
地階平面圖



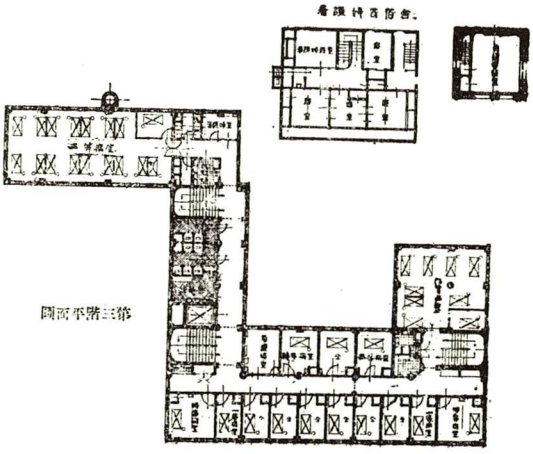
第五階平面圖



第二階平面圖



屋上平面圖



第三階平面圖

百瀬博士邸新築工事概要

設計施工　株式會社大林組

一、所在

兵庫縣武庫郡今津町

一、樣式

南歐趣味ヲ取入レタル洋風建

一、坪數

階下　五十七坪九合二
階上　三十八坪五合二
地下室塔屋　十六坪〇二
其他
合計　百十二坪四合六

階下

車寄、玄關、廣間、應接室、食堂兼居間
內玄關、化粧室、浴室、臺所、ベランダー

階上

書齋、第一寢室、第二寢室、浴室、化粧室、
書生室、應接並ホール

塔屋

ホール、バルコニー

地下室

暖房室、石炭庫

主要なる室の仕上げ略仕樣

一、正面玄關、ホール

玄關、床面はタペストリータイルモザイツク
壁は巾木ヨリフリーズまで烏取產復興石小叩
整形目地仕上げ、天井ドロマイド　プラスタ
ー槌目押へ、額緣　タペストリー布目タイル
ホール、床寄木張壁、ドロマイドプラスター
使用イタリヤンエツフエクト塗、天井コルク
入ドロマイドプラスター塗

二、居間兼食堂

床寄木張、壁メタリコン仕上ゲ、天井化粧梁
付、梁間槌目仕上ゲ

三、ベランダー

床　鐵革石寄セ張、壁ドロマイドプラスター
使用　コロニヤル　スチツフル塗、天井ナグ
リ化粧棰、棰間コルク入モルタル胡麻殼仕上
ゲ

四、第一寢室

床　楢化粧張、壁コルク板張下地コルク入ド
ロマイドプラスター仕上ゲ

五、書齋

床　楢化粧張、壁腰羽目付ドロマイド銀煙シ
仕上ゲ、天井ペンキ艶消ターキ塗

六、塔屋

床　タペストリータイル網代張、壁腰同上タ
イル張リ上部、スパニツシパルム仕上ゲ、天
井、オイルステーン塗屋根裏化粧仕上ゲ

大同病院新築工事概要

一、建設の趣旨

本建築は大同生命保險株式會社が國民健康增進に貢獻せん爲め其の實行機關として大同生命保險會なるものを組織し同會の計劃に依りて建設されたるものなり。

本病院は內科、外科、產婦人科、耳鼻咽喉科、小兒科、眼科及レントゲン科の七科あり、建設費は出來る限り節約して只管實用本位とし、設備を完全にし、且つ入院料其他の患者負擔額を極度に低廉にせん事に苦心を拂ひたるものなり

二、位置

大阪市北區曾根崎中一丁目、梅田と梅田新道との中間にして電車通りより約一丁東へ引込み、閑靜さを求めたるものなり

三、敷地及建物面積

敷地面積　八一八坪四

建物面積　本館建物　二四〇坪四　鐵筋五階建
同　延坪　一、一九二坪三　一部鐵骨造
附屬建物　二七一坪八　木造平家建
同　延坪　四三三坪四　一部三階建
合計建坪　五一二坪二
合計延坪　一、六二五坪七

建物高さ　地盤線よりパラペット迄　五一尺五
同　塔屋迄　七〇尺
基礎深さ　西地下室　一七尺
普通の所　五尺

四、工事行程

地鎭祭　大正十五年三月五日（起工日とす）
建築認可　大正十五年八月廿五日
竣工　昭和二年四月三十日
工事日數　四二一日（十四ケ月）
從業人員　延約三二、〇〇〇人

五、建築樣式

構造本位　實用本位の近世式なり

六、各階諸室の配置

東地階　精練室、洗濯室、藥品庫、藥瓶庫
西地階　ボイラー、ポンプ、石炭庫等
北地階　配電室、物置等
壹階　各科診察室、藥局、患者待合室、事務室、賣店、檢尿室、電話交換室、當直室、調乳室、浴室、洗濯室、炊事室、屍室、解剖室、研磨室、看護婦食堂、小使室、供待等
特等病室十八室　壹等病室三十三室　貳等病室四室（總室）　寢臺合計百九臺、看護婦詰所、炊事洗面室、檢尿室、便所、消毒室、等
貳參四階　大手術室、中手術室、分娩室、研究室、圖書室、浴室、浴療室、太陽室
屋上　レントゲン室、寫眞室、便所、等
日光浴室、昇降機械室、動物小屋、水槽
附屬二階　院長室、醫長室、醫員室、藥劑士室會議室、應接室、看護婦室、同娛樂室、浴室、便所等
附屬三階　着護婦私室、洗面室、便所等
屋外　淨化槽二個所、汚物燒却裝置、動物小屋、噴水等

七、建築工事

基礎　地質は灰色泥砂、地下常水面は地盤線より四尺五寸下り、地耐力は半噸なり、故に末口五寸長さ九尺の松丸太杭打地形とせり。杭の安全荷重六噸、栗石一尺厚搗固めの上鐵筋コンクリート基礎とせり

主體　基礎　柱、梁、床、階段、防火壁は鐵筋コンクリート造とし、待合室及日光浴室は鐵骨造、大手術は鐵骨コンクリートなり

內壁　間仕切は木造、三五角及其の割材にセメント液に浸したるメタルラスを張りモルタル塗りの上、左官仕上を行ひたり

防水　壁及天井左官仕上は大連ドロマイトを使用し壁は之に黃土を混じ着色せり
地下室防水層はサーテンチードアス

防濕　ファルトフエルト二號品、三層ニ、ユニオンアスファルトユーロックス2A號七層ニも交互に張り出隅入隅は日の出十二オンスアスファルトクロスを一層張りたり

床及腰　外壁全面、窓周圍はノンリーク又はロータス入りモルタルを使用せり
手術室、浴室は床腰共六吋角白タイル張り、廊下、階段、研究室、洗面場等は人造石研出し、病室は米松床板張り、診察室、待合室等はサーテンチード五耗リノリユーム張りニせり

玄關　車寄は龍山石ニ中村グラニツト、床ニ腰は桃尾セメント工業所のテラツオ張りニす、スデンドグラスはヴエニス工房納入

窓　側窓は江東サツシユ、硝子は佛國サンゴバン會社製品、粗面網入なり

防火扉　廊下仕切シヤターは汎建製作所製完全バランス手働巻なり、開き鐵扉は高尾銅器合名會社製品なり

建具　竹中工務店大阪製作所製　ベニヤ板袋張りにベンキ仕上を施したり。病室窓には眞鍮金網張りの虫除扉を附けたり

附屬家　コンクリート布地形に腰煉瓦一枚積木材米松材使用、外部メタルラス張り色モルタル鹿ノ子摺り、内部板張り又は大連ドロマイト色壁ニす、附屬家一部は元の修竹舘の煉瓦造土藏を改造せり

八、衛生暖房工事

須賀商會施工

汽罐室　コルニツシユボイラー、徑四尺長さ十二尺が貳臺、低壓スチームボイラー、レーテング九千平方尺が貳臺。
溫水槽銅製徑三尺長さ十尺が貳臺、
煖房用眞空ポンプ、防火用十馬力三段式高壓タービンポンプ、給水用三馬力高壓タービンポンプ、溫水循環用一馬力、排水用半馬力、各タービンポンプ貳基宛

煖房設備　スチームラヂエーター貳百八拾個、その放熱面積九千五百平方尺、配管は露出ニし、ラヂエーターは壁に宙吊りニせり

衛生設備　洗滌式大便器四〇個　小便器二四個
洗面器一二〇個、噴水飲用器四二個
飲料湯沸器六個
各階々段室其他に消火栓及ミニマツクス消火器二一個所を設く、外部袖塀にサイヤミツクコンネクション（消防器連結器）一個所を設けたり

防火設備　三槽殺菌水製造器一基、二槽二連殺菌水製造器一基、單槽殺菌水製造器參基、殺菌水用手洗器一四個、器具消毒器二二個、汚物流出裝置四個、米國モニユメント會社製ホスピタルシロップシンク七五個、同デーン會社製ベツトパン消毒器五個、寢具消毒器長さ八尺巾三尺五寸高さ九尺壹基、ガーゼ消毒器二尺、二尺五寸、三尺五寸壹基、ガーゼ再生消毒器壹基、

藥局内　蒸溜水製造器、浸煎器、注射藥消毒器、乾燥器、藥瓶消毒器、單舍製造器、乾燥兼蒸發器等

洗濯設備　三槽入洗濯器、糊付器、遠心力脫水器、六尺角乾燥器、六尺スチームローラー、三尺の二尺スチームプレツス、二馬力電動機

炊事設備　米國製食器自働洗滌器、食品消毒兼乾燥器、スチーム飯釜三斗焚二斗焚三個

九、電氣工事

大阪電氣商會施工

變電室　一次電壓二千ボールト、二次電壓二二〇ボールト及一〇〇ボールト、大阪市電氣局供給　變電器容量二〇キロワツト三臺ニ一五キロワツト三臺にて合計一〇五キロワツト。

電氣　電燈數八〇〇個　電動機一四臺四五馬力、醫療用電力一五キロワツトニす。

一〇、電話工事

沖電氣商會施工

電話工事　電話局加入線四、私設電話四二
二座席交換機一臺、公衆電話一ケ所

電鈴裝置　各寢臺より看護婦室に低音電鈴裝置を施したり、外に小使呼出用二ケ所

一一、淨化裝置

西原衛生工業所施工

淨化槽　鐵筋コンクリート造、巾一〇尺深さ一二尺、長さ五四尺、間仕切は煉瓦造とす、別に第二淨化槽一ケ所を設けたり

容量　右二個所で八五〇人を假定せり、排水は自動スウキツチによる電動タービンポンプによる

一二、昇降機

日本エレヴエター施工

昇降機　ケース寸法は五尺の七尺にて寢臺を容れ得るものなり、マイクロドライヴ裝置を施し毎分百尺のスピードを四尺に落して靜かに停止するものなり、各階停止壹基とす

リフト　藥局内地階壹階間往復の手働リフト壹基、貳階壹階間外部昇降汚物リフト壹基、之も手働にして寸法二尺五寸角とす

一三、其他の設備

汚物燒却　ゴ式汚物燒却爐株式會社建造にして個體液體、濕潤物をそのまゝ燒却せしむ、煙突内徑一尺高さ五六尺

電氣時計　瑞西マグネツタ會社製自働發電式にして、子時計二四個あり、内田商事會社の納入

調劑信號　藥局カウンターに豆ランプ三〇〇個を取付け一々押釦にて點燈し、調劑出來を番號にて待合室患者に合圖するものなり、右會社納入品なり

家具　清水猛製作納入品なり。寢臺及寢具は近江セールズ會社納入

一四、工事關係者

工事監督　吉村清太郎
故　松下甚三郎
中島智喜

設計　竹中工務店

施工　同主任

編輯後記

本月號は防火について大いに高唱する豫定でありましたが、本號全部を、ソレに提供して了ふことは、他の貴重なる記事の發表を遲延せしめる虞れがありますので、適當に按配することに致しました

◇

組方に於きましては從來の本文下の頁附を排し横外に現しました。同時に各記事の見出しを各頁横外に現すことゝいたしました。

コレ等は雜誌御購讀の際幾分御便利だと思ひます、ソレから今一つ各記事は萬難を排して奇數起りといたしました、之は將來讀者諸士が合本製本等の場合必ず御便利を感じられます。

◇

次に時事欄を設けまして建築に關する損失や雜記やを掲げることにいたしました、同時に建築及都市計畫に關する法令規定認可事項其他を掲載いたしまして幾分でも日常業務上の御便益を計りたい考であります。

◇

尙從來の口繪丈では多數の新建築を御紹介することが出來ませんので更に口繪の外に卷末を利用して經費の許す範圍でなるべく多くの新建築を御紹介いたし以て從來の渴を幾分でも醫したいと考ねます。

◇

最後に讀者相互を利することで當然編輯係としてなさねばならぬことが多々あることゝ思ひますから御氣附の點は何卒御鞭韃をお願ひいたします。

（編輯係）

御斷

目下印刷所改築工事中工場の混雜の爲發行期日遲延仕候間此の段御斷申上候

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	七拾五錢	貳錢
十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和二年六月廿一日印刷
昭和二年七月一日發行　（每月壹回一日發行）

大阪市東淀川區豐崎西通一ノ七
發行兼編輯人　薦田夏次郎
兼印刷人

大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所　大阪活版所

大阪市北區中之島二丁目二十五番地
江商ビルヂング
發行所　社團法人　日本建築協會
電話本局四一九二番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀四四〇番）
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

社團法人日本建築協會會報

會合

○定例常務會

昭和二年六月十日自午後五時卅分至同九時半

出席者　理事　片岡君　宗君　日高君
　　常務　坪井君　松室君　阪口君
　　德政君　谷君　池田谷君
　　波江君　野呂君　八木君
　　監事　横濱君

決議事項

一、例會に關する件
建築諸法規の改正に關する討議とす其方法形式は第一部委員會池田、横濱二君に於て立案のこと

二、委員會追加豫算の件
各部要求額
第一部(法制　委員會　四五〇、〇〇
第二部(敎化)委員會　七二六、〇〇
第三部(資料)委員會　一七五、〇〇
第四部(災害)委員會　一八〇、〇〇
　合計　一千五百三十一圓也
各部の要求額を併せて壹千圓也とし、約三百圓乃至五百圓を經常費中より支出し不足額は借入金にて支辨すること評議員會及臨時總會を開催のこと

三、定期預金に關する件
三井銀行定期豫金近々滿了に付三井又は住友信托預金に變更のこと(期間貳ヶ年)

四、事務所移轉の件
賃借期限に對して引拂ひを江ビル(豫告すること

五、職員上半期賞與の件

六、左記諸君の入會を承諾すること
　會員
　正木　英雄君　川上　要君
　田中泰一郎君　稻上俊之助君
左記會員の退會を承諾すること
　會員
　山本　丈夫君　中條　正邦君
　楊箸孝之介君　福井　裕君
　沼館與惣吉君　松野　彦一君
　馬場　艮一君　矢崎　高儀君
　普通贊助員
　佐々木正男君

○臨時常務會

昭和二年六月十七日自午後七時至同八時三十分

出席者
片岡君　宗君　日高君　坪井君
松室君　阪口君　德政君　吉井君
谷君　波江君
第二部委員會幹事　小笠原君

報告

一、建築學會主催講習會に關する件
片岡會長より建築學會申越の依頼狀及久留弘文氏に依託の計畫大要に付期讀說明あり
次に小笠原幹事より第二部委員會決定事項(第二部委員會の部に登載)の報告あり、協議の後建築學會主記高橋氏來阪の節松室主記、小笠原幹事折衝して打合せをなすことに決定

決議事項

一、臨時總會及例會(六月)開催日取の件
六月二十三日(木)午後五時開會
臨時總會及六月例會通知案文決定

一、復興展覽會出品に關する件
京都府廳内生活改善同盟會京都支部主催を以て奥丹後震災地方に於て巡回的復興展覽會開催の趣なるも適當の出品なきを以て出品せざることに決定

一、宛名カード整理箱購入の件
購入に決定

○主記主計會

昭和二年六月七日自午後六時至同八時
出席者　主記　坪井君　松室君
　　主計　德政君　吉井君
　　第二部委員會幹事　池田谷君
　　第三部委員會委員長　松室君
　　第四部委員會幹事　池田(宮)君

記事

一、松室主記より委員會の經費に付て本年度は豫算組入れ僅少なる爲今後活動するは不可能なるを以て五月常務會の決議により各委員長に對し六月以降本年中の追加豫算提出方照會の處夫々回答に接したるにより之を審議し六月常務會提出の原案を作成したし尙委員の方は豫算案に付御說明を願ひたし

一、各部委員會の豫算要求額合計一千七百餘圓は經常費より支出困難なるに付追加豫算として要求總會の承認を得ること

一、各部委員會提出の預算案を原案として六月常務會に提出のことに決す

一、本會の收入に付懇談的の意見交換ありたり

○評議員會

昭和二年六月十七日自午後六時至同七時
場所　江商ビル地下室
出席者　今　林君　德　政君　小笠原君
　　大　原君　岡　部君　和　田君
　　片　岡君　吉　井君　横　濱君
　　高　田君　谷　君　宗　君
　　坪　井君　中　島君　永　田君
　　波　江君　能　村君　山　脇君
　　松　室君　兒　玉君　阪　口君
　　境　君　三　木君　日　高君
　　平　島君　須　川君

決議事項

一、追加豫算に關し臨時總會開催の件
片岡議長より追加豫算の內容に關し說明あり二三の質問あり異議なく可決

二、協會員所在不明者及會費、賛助費延滯者處分に關する件
定款第十四條に據り左記諸君除名に決す
會員　高堂　德治　山口　茂樹
賛助　池永　恒男　伊東　武夫
林　德一　戸山音次郎
地縄　勇吉　太田　四郎
若林　俊一　渡部　三郎
加藤　一男　好岡　享
吉本新之助　田中　儀一
長山　與吉　野々山政金
延山　政雄　久保　諫美
桑田誠一郎　八木　幸助
矢田部喜平　山口　辰治
政安　熊市　肥塚　房春
權藤　洗二　青木　立三
坂根　秋光　小枝　實
西口　長藏　矢嶋　猛夫
有地　佶　佐野　謹三
清原　佐市　湊　饒
平田　茂樹　杉本　久吉
三木　作二　赤松、義夫
桑名兼太郎　川原梅次郎
岡本　賢藏　本島　正男
白井　一男　山本　坦
藤岡　正一　久保　豐
藤居友次郎　田中　辰夫
檜山　三郎　河野　憲三
小村清三郎　瀧川清太郎
駒井　艮三　谷山　恒夫
小谷　鹿吉　姫木　靜雄
酒井　光　石原　政三
青山　秀雄　古河　節雄
特賛　中村　祐三
會員　黒木　繁

三、財産保管に關する件
銀行定期預金を信託金に更改することに異議なく決定

○第一部（法制）委員會

昭和二年六月十三日自午後五時三十分至同八時十分
出席者
池田君　野呂君　横濱君　小川君
久留君

議事

一、第一分科主査辭退の件
宮本主査辭退につき承認、後任主査として小川委員當選確定す

二、建築法規改正に關する件
常務會より六月例會に於ける建築法規改正に關する討議問題選定方依頼につき左の諸問題を報告することに決定
1. 工業地域内特別地區の指定を促進するの必要なきや
2. 袋地に對する建築線指定に關する件
3. 道路巾に基く建築物の高さに關する件
4. 建築敷地境界線に面する建築の採光面積に關する件
5. 階段の數に關する件
6. 其他

三、池田委員長より第六分科の調査研究方針に付同分科より質問ありたる旨報告
久留委員より第五分科の經過報告ありて散會

○第一部第三分科會

昭和二年六月二日自午後五時▲分至同八時三十分
出席者
浦君　池田君　岡部君　高木君
野呂君

議事

一、建築に關係ある諸規則審議研究の大体方針
現行法規に付て改正を要するもの或は不備と認むる點のみに就て審議研究するものとす
但し新規定の條文を創定するものに非ず

二、諸規則の研究順序
1. 私立病院取締規則
2. 湯屋取締規則
3. 工場取締規則
4. 劇場取締規則
5. 倉庫、納屋其他の建物に關する取締規則
6. 飲食店取締規則
7. 土木建築請負取締規則

右は其研究を第六分科主査に移牒することに決す

四、大阪府建築法規類集購求の件
同集を十冊購求を常務會に要求のことに決定

○第一部第三分科會

昭和二年六月十六日自午後五時卅分至七時卅分
出席者
浦君　岡部君

議事

一、私立病院規則審議の件
本日は出席者少數にして成案を得るに至らざるも右規則の逐條審議に入り研究の結果左記事項を次回本分科會に提出のことに決す
1. 本規則は主に病院設立に關する規定にして其構造設備に付ては制限する處尠なし、此點更に制限條項或は改正條項を追加修正しては如何
2. 改正及修正を爲すに及ばずや

二、次回委員會開催の件
1. 議案
A　私立病院規則審議の件
B　湯屋取締規則審議の件
2. 日時
七月上旬

○第一部第六分科會

昭和二年六月十一日自午後五時卅分至同八時

出席者
山脇君　野呂君　久留君　須川君

議事

一、建築業協會外三會聯合作成の請負規程を更に研究すること
二、諸官廳の請負規定の統一を計ること
三、府縣廳各都市公共團體の同上及促進を計ること
四、第一部委員會委員長より本分科の研究方針を指示ある筈
五、六大都市請負規定を至急蒐集し是を謄寫の上各委員に配布すること
六、次回委員會日は主査に相談して定むること

○第二部（教化）委員會

昭和二年五月二十三日自午後四時三十分至同六時

出席者
古宇田君　小笠原君　池田谷君
安井君　松本君　酒井君

議事

一、春季講習會は準備の都合手遲れになりたるを以て之を中止し秋季に市役所講習會と連合するか或は建築學會と連合して施行すること
二、本委員會（六月以降十二月迄）の追加豫算として合計金七百七十三圓也要求すること
三、第二分科會開催を要求して左記事項に付研究調査を依頼すること

1. 大阪船場、島之内方面に於ける大阪の特色を有せる舊建物に付き調査すること
2. 大阪に於ける明治初年の西洋建築を調査すること
3. 傳說片桐勝元の住宅遺物等調査すること
4. 傳說堺市在秀賴の隱家或は首塚等調査すること
5. 堺市大寺三重塔建築圖發見の由に付之を謄寫すること
6. 或時期に古建築調査又は視察の日時を定めて會員に通告し其有志者と共に調査研究し又特に有志中より史料に關し報告を受くること

四、松尾外一名（會員外）を分科委員囑托することに常務會へ要求すること

○第二部（教化　委員會

昭和二年六月十六日自午後五時三十分至同八時四十分

出席者
小笠原君　池田谷君　松本君
酒井君　久留君（建築學會地方委員）

議事

一、今秋當地に於て建築學會主催建築講習會開催に付同會より本會へ援助方申越により其期日、會場、講習科目及講師等の逐行計畫を本會常務會より本委員會に依囑せり委員會は左の成案を得常務會へ報告することに決す

1. 期日　自十月十五日至同月末日の內とす
2. 會場　大阪市內小學校講堂
3. 時間　日曜日を中間に入れ十日間とす　午後六時半より同九時半迄各四十分宛とし通計四十時間
4. 講師及科目
   一般建築講造　佐野　博士
   同　上　武藤　學士
   佐藤　博士
   歐米建築界の趨勢　岸田學士
   アパートメントハウス　川元　學士
   建築衛生　藤井　博士
   鐵筋構造　阪　學士
   鐵骨構造　永澤　學士
5. 會費（聽講料）　金五圓
6. 經費　建築學會負擔

○第三部（資料）委員會

昭和二年五月十六日自午後五時三十分至同九時四十分

出席者
松室君　下浦君　大倉君　渡邊君
谷口君（臨時委員）

一、特に谷口臨時委員（大阪窯業株式會社常務取締役）の臨席を乞ひ「セメント」の規格制定に關する件、セメント製造業の近況歐米各國の實例等詳細の說明を求めセメントの品質は近年益々向上しつゝあり從つて砂、砂利等の配合材料の選擇宜しきを得ば工事上甚だ有利に展開すべきにより此際此等材料の規格制定の爲に相當方法を講ずると共に其採收販賣に關しても種々施設を要すべき點あること「セメント」は其配合の便宜上樽詰の容積を現行より幾分變更せしむることを得策とする事、依て其等の樽の試作をなす事等を協定、更に高爐「セメント」に對する意見を交換せり

○第三部（資料）委員會

昭和二年六月十三日自午後五時三十分至同九時半

出席者
松室君　岡部君　渡邊君　佐藤君
三木君　熊取谷君（臨時委員）

一、熊取谷君より關西方面產出石材の製產需給、寸法等に關し詳細說明を聽取し關西方面と關東とは石材產出の土地、地層、交通、運輸等の事情異なるものあるに依り同一規格によることの便利ならざる點不尠こと、關西方面產出石材は大材を採取するに便利なこと、之を關東方面に輸送するも其運搬賃金の差少額なるを以て

全般的に統一的規格の制定をなすは寧ろ關西方面のものに依るを便となすこと、目下關西方面の主要石材の市場に出づるものの中には建築工事用よりも土木工事用のもの多きこと建築用石材の規格統一に關しては或程度迄建築の部分的設計統一を基調とすべきこと等の意見續出、決定を見るに至らず

次に建築材料の規格認定に關し、建築資料の民衆的周知の爲の陳列館開設に關し討議をなし散會

○第四部（災害）委員會

昭和二年五月十六日自午後五時三十分至同九時

出席者

波江君　池田君　八木君　中島君　黒田君

議事

一、都市問題會議へ安政、昭和（奥丹後）地震の大阪被害地圖二葉を出品する件常務會に諮りたるに出品差支へなき旨決定せる由委員長より報告

二、奥丹後地震の大阪被害調査の結果により當市の震度大、中、小區域を推定するの件は出席者一同にて熟議の結果之を定む

三、研究問題として中島委員より次の通提出

木造家屋耐震構造範例作成の件

A. 日本住宅、洋式公共建物、洋風住宅の三種

P. 圖面と構造の說明

C.「建築と社會」に發表

D. 分科委員三名專任調査し本委員會に於て決定のこと

E. 期間三ヶ月間

F. 費用

此案に付協議の結果分科委員三名とせず平委員會にて研究すること、尙期間は長くすること、其他意見二三、可決

四、本委員會は分科會を設けざる方針とす

五、本委員會自六月至十二月を追加豫算は合計金一百八十圓也を要求することを常務會に報告すること

但し本委員會の出張旅費は年額金二百圓也とし其內金二百五十圓也は奥丹後震災調査の爲支出せしを以て殘額金五十圓を今後の出張旅費に宛つるものとす

○第四部（災害）委員會

昭和二年六月九日自午後五時卅分至同七時卅分

出席者

波江君、池田君、增田君

議事

一、先般會長より照會の本委員會追加豫算要求の件は再度審議するの要を生じたるが前提出の要求通決定

次に往昔大阪市の地震其他に付意見の交換をなし解散

○五月例會

昭和二年五月一十三日自午後六時半至同九時十分

會場　江商ビル集會室

出席者　古宇田君外二十九名

會務報告

一、委員會に關する件

本會は目下左の委員會を設置し夫々主管事項に付調査研究中

第一部委員會（法制に關する事項委員長池田　實君）

第一分科會（都市計畫に關する事項）

第二分科會（市街地建築物法に關する事項）

第三分科會（建築に關する特種法規の事項）

第四分科會（建築士法案に關する事項）

第五分科會（實費精算式施工法に關する事項）

第六分科會（工事請負並入札規定に關する事項）

第二部委員會（敎化に關する事項委員長古宇田　實君）

第一分科會（建築敎育に關する事項

第二分科會（建築史料に關する事項）

第三部委員會（資料に關する事項委員長松室重光君）

第四部委員會（災害に關する事項　委員長波江悌夫君）

一、八幡製鐵所技師香春三樹次氏の「高爐セメント」に就ての講演あり演後「高爐セメント」に就ての質疑應答ありて講演を了る、片岡會長の謝辭あり

一、懇談會に移りて本會の發展の方法其他に付互に意見交換の後散會

新入會者宿所

會員

正木　英雄君　東區森之宮六三四　勤先　大阪府立西野田職工學校

川上　要君　福岡縣筑紫郡千代町煙草專賣局內大林組福岡出張所

田中泰一郎君　東淀川區今里町一九〇　勤先新京阪鐵道株式會社

稻上俊之助君　福岡縣吉塚町火の見向通　大林組

轉勤轉居

會員

山上　正吉君　東京府下駒澤町深澤七四一

松江　秀孝君　東京府南葛飾郡小岩村下小岩一六五五

西木　繁君　東成區岡之町二四

大森一太郎君　府下豐能郡中豐島村岡山二五六

浅井　新一君　高雄州屏東街五二五
勤先　臺灣高雄州屏東街崇蘭臺灣軍經理部屏東派出所

山本辰次郎君　西成區千本通五ノ七

油谷　清治君　兵庫縣本山村田中字的場二二七

牧野　忠君　東京府下世田ヶ谷町下北澤七五三
勤先　清水組本店

齋藤　立實君　東京府下西巢鴨町堀ノ内一〇〇二
勤先　大林組東京支店

牧野　利秋君　兵庫縣豐岡町町廳舍建築場大阪橋本組出張所内

田中　四郎君　神戸市鷹取町三丁目妙法寺川停留所東半丁

山木　喜一君　東京府下高井戸町大宮前三五七

杠　貞雄君　愛知縣碧海郡依佐美村日本無線電信對歐局送信所工事場大林組刈谷出張所

井出　松藏君　京都市上京區烏丸通押小路角日本勸業銀行建築事務大林組烏丸出張所

特贊

村井季四郎君　府下豐能郡箕面村櫻井櫻ヶ丘坂下

普贊

大久保榮藏君　東京市麹町區中六番町七

海上　靜一君　港區八幡屋寶町三ノ一二

五　田中方

竹内　一郎君　岡山市上石井鐵道官舍二

八山口方

中村　重壽君　住吉區住吉町二七八

小谷　豐吉君　此花區新家町一ノ九

小島　榮二君　東京府下平塚町小山五七

五　長野方

福山平太郎君　府下三島郡千里山住宅三
勤先　大阪住宅經營株式會社千里山出張所

野口　源一君　和歌山市字順二

山口　直君　此花區茶園町一三二

大槻　貞夫君　東京市外澁谷町下澁谷字向山一四五三ノ二大林組山室邸詰所

中野　忠君　堺市市之町西一丁八ノ七

高崎　齋藏君　鹿兒島市下荒田町二一五
勤先　鹿兒島市役所土木課建築係

原　定君　福岡縣筑紫郡堅粕町九州帝大醫學部構内大林組堅粕出張所

佐藤　清七君　京都市夷川通川端東七筋目上ル東入社築町勝見方

井堀　秀吉君　鹿兒島市山下町縣廳前

住所不明者

左記諸君現住所不明に付御存知の向は本會迄御通知を願ひます

會員　堀本　義雄君

普贊　辰巳　常治君

寄贈圖書目錄

工業ノ大日本　五月號　工業ノ日本社
電氣評論　六月號　其社
都人　六月號　都人社
學士會月報　四七一　學士會
建築世界　五月月　建築世界社
朝鮮と建築　四月號　朝鮮建築會
セメント界彙報　六五號　日本ポートランドセメント同業會
住宅　六月號　住宅改良會
建築雜誌　五月號　建築學會
工政　六月號　工政會
組濟資料　東亞經濟調査局
土木建築　五月號　土木建築社
建築新潮　六月號　洪洋社
大阪工業倶樂部　九七號　大阪工業倶樂部
通俗衛生　六月號　大阪府衛生會
帝國鐵道協會報　三號　其會
工業評論　六月號　其社
電氣學會雜誌　六月號　其會
鐵道軌道經營資料　六月號　鐵道同志會
趣味ノ園藝　六月號　關西園藝會
國際建築時論　五月號　國際建築時論社
住　六月號　住研究社
土木建築之日本　六月號　其社
優生　六月號　日本優生學會
工業ト社會　第五號　東京工業會
工業　六月號　大阪工業會
滿州建築協會雜誌　第五號　其協會
日立評論　六月號　其社
庭園と風景　六月號　日本庭園協會
武藏高等學校一覽　其校
圖書室月報　六月號　東京市政調査會
大阪綱島工業會誌　六月號　其會
エンヂニヤリング　六月號　其社
工業要錄　第五號　其發行所
住宅と家具　第一號　大株組
名古屋工業會々報　六月號　其會
大阪　六月號　大阪都市協會
生活　六月號　生活改善同盟會
建設　六月號　其社
都市問題　六月號　東京市政調査會
新建築　六月號　其社
京都の實業　五月號　京都商業會議所
建築　四月號　中央建築會
日本美術協會報告　其　協會
都市創作　五月號　其會
研究資料彙報　二號　大分高商研究室
水材彙報　五月號　大阪木材協會
駿工　五月號　其社
建築時論　四月號　其

役員

會長　理事　片岡　安
副會長　理事　宗　兵藏
副會長　理事　日高　胖
監事　橫濱　勉
監事　松本禹象
常務　坪井誠一
主記　同　松室重光
常務　阪口芳三郎
同主計　常務　德政金吾
同　常務　吉井長七
同　常務　谷　民藏
編輯　常務　池田谷久吉
同　常務　波江悌夫
同　常務　野呂長四郎
同　常務　八木幸次郎

●第一〇集　第七号　掲載広告一覧（掲載順）

大野正営業所
伊奈製陶
永柳商店
笹岡家具装飾店
大元商会
浅野スレート
日本エレベーター製造
三井物産大阪支店
内外土木建築材料
東亜ペイント
日本ペイント製造
横山商店
大阪建材商会
長瀧商店
駒井商店
大理石工業
中村グラニット商会
大阪電気分銅
東洋鉱粉所
大阪鉄板製造
東洋大理石大阪営業所
内外エレベーター

カールツアイス
関西建鉄製作所
沢田
大阪製鎖所
三熊製畳所
三菱商事
大東塗料
東洋コンクリート
関西ペイント
橋本庭園工務所
西村建築
森川組
飾磨化学工業
出浦建築事務所
橋本建築事務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
横河工務所

片岡建築事務所
吉武建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
安井建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
南建築事務所
設楽建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
大塚鉄工所
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
松村組

藤木工務店
木村工務所
正木工務店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
日本鑿泉
内海工務店
日本塗装工業
大林組
原田商会
山本東作商店
SO商会
須賀商会
栄進社
デウエット商会
大阪鉄扉製作所
新田ベニヤ製造所
島貿易

野沢幸三郎商店
高島屋呉服店
日本工剤
東亜鉄工所
政正
三菱造船神戸造船所
佐久間建材工業所
玲光社
米本商店
三井物産
浅野物産
油脂化工社
阿部鉄工所
日本建築紙工
田村商会
日本スレート販売大阪支店
大平工業所
宮田鉄工所
伊丹商店
大阪窯業
佐村木勝吉
日本セメント防水剤製作所
桐田商会
森鉄扉製作所

矢橋大理石商店
日本メタルラス製造所
浅海商店
山本窯業商店
王子製瓦
佐治タイル
木下謹三商店
城口研究所大阪支店
松本商店
政正
トーペー、アンド、ダート、ペイント会社
大和工業
小野田セメント
東京建鉄大阪支店
建築金物商会